

平成27年度

岩手県立博物館
年報

平成 27 年度博物館年報



伝統芸能鑑賞会「倉沢人形歌舞伎」
平成 27 年 6 月 21 日（日）

目で見る岩手県立博物館この1年



第 66 回企画展「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」展示解説会 平成 27 年 8 月 3 日（月）



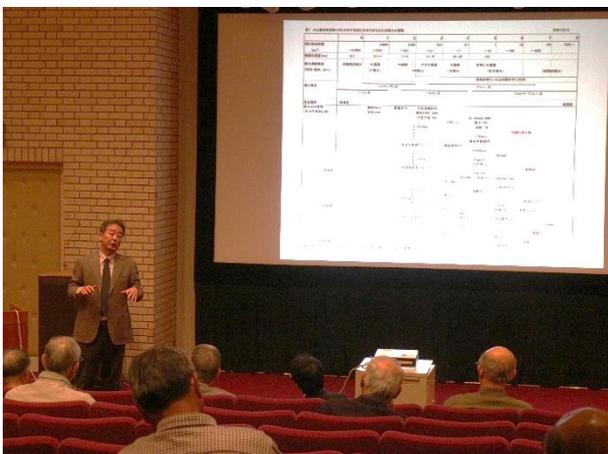
考古学セミナー現地見学会「十和田火山 —その履歴とインパクトを見る—」平成 27 年 9 月 26 日（土）



第 70 回自然観察会「森吉山の名瀑を訪ねる」平成 27 年 9 月 27 日（日）



テーマ展「火山灰から社会をよむ」展示解説会 平成 27 年 10 月 17 日（土）



考古学セミナー講演会「時空のかけはしー火山灰」講師：早田勉氏 平成 27 年 10 月 17 日（土）



文化講演会「災害考古学のゆくえ」講師：能登健氏 平成 27 年 11 月 3 日（火）



第2回防災訓練 平成28年1月14日(木)



体験学習室ハンズオン資料ドレス完成披露・引渡式
於、県立平館高等学校 平成28年2月3日(水)



特別展「発掘された日本列島2015」展示解説会
平成28年2月13日(土)



県博日曜講座「海に生きた歴史②ー古代～近代ー」
羽柴主任専門学芸員 平成28年2月14日(日)



特別展「海に生きた歴史」展示解説会
平成28年2月27日(土)



ミュージアムシアター映写ボランティア感謝状
贈呈式 平成28年3月5日(土)

目次

目で見る岩手県立博物館この1年

発刊にあたって	- 1 -
1. 沿革	- 2 -
2. 施設の概要	- 4 -
(1) 建築の概要	- 4 -
(2) 配置図・展示室等平面図	- 4 -
(3) 各室面積表	- 5 -
3. 博物館協議会	- 6 -
4. 予算	- 6 -
5. 事業の概要	- 7 -
(1) 展示活動	- 7 -
(2) 教育普及活動	- 20 -
(3) 調査研究活動	- 38 -
(4) 資料収集保管活動	- 48 -
(5) 総務企画調整	- 54 -
6. 文化財レスキュー活動	- 59 -
(1) はじめに	- 59 -
(2) 安定化処理の現状	- 59 -
(3) 処理が終了した資料の経過観察	- 61 -
(4) 確立した安定化処理技術の共有	- 61 -
(5) 次年度以降の課題	- 62 -
7. 岩手県立博物館友の会	- 63 -
(1) 概要	- 63 -
(2) 会員数	- 63 -
(3) 主催事業	- 63 -
8. 博物館利用者入館状況	- 65 -
9. 平成27年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織	- 67 -
10. 岩手県立博物館使命書	- 68 -
11. 関係条例・規則等	- 69 -

発刊にあたって

岩手県立博物館は昭和 55 年の開館以来、県民の学術文化の重要な拠点の一つとして皆様から日頃温かい御支援と御協力を賜っておりますことに、深く感謝申し上げます。

東日本大震災津波から 5 年が経過しましたが、当館では一昨年度から「修復館」を中心に、現在もなお被災文化財等再生作業を続けており、その様子を来館者に御覧頂いております。また、被災地域の博物館支援事業「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」の一環としてトピック展「生物界の怪しい仲間たち—科博のコレクションから—」を開催しました。今年度は復興のシンボルとしての岩手国体に関連して「スポーツ博覧会いわて」「秩父宮記念スポーツ博物館巡回展」を開催することになっております。



平成 27 年度の活動の中で、展示活動におきましては、企画展「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」を開催し、民俗資料を中心として江戸時代末から昭和 40 年代にかけて商家の衣食住の変遷が窺える展示を行い、ゆかりのある花巻市の方々を中心とする多くの来館者をお迎えしました。テーマ展「火山灰から社会をよむ—10 世紀の巨大噴火と北東北—」は、古代北東北で十和田湖と朝鮮半島の白頭山の二度の噴火によってどのような影響があったかを垣間見ることのできる考古学と地質学の連携による展示を行いました。特別展は日本全国を巡回した「発掘された日本列島 2015」と、岩手県沿岸部の復興関連調査による出土資料を展示した「海に生きた歴史～復興発掘調査が語る一万年前の海との共生～」の最新の発掘情報が満載の二つを開催して、県内外の多くの方が来館されました。また、平成 27 年 7 月 5 日には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界遺産に登録され、この構成資産のひとつである釜石市橋野鉄鉱山に関連して特別展「近代へのとびら—大島高任の挑戦—」を平成 28 年 3 月から開催しており、好評を博しているところです。

教育普及活動におきましては、日曜講座をはじめとした各種講演会、観察会、現地見学会やチャレンジ、体験教室等の子ども向け事業も多くの参加者を集め、満足度の高い評価を得ております。また、学校教育との連携強化のため、遠隔地で利用が困難な学校に当館収蔵資料をデジタル化し、教材として提供する岩手デジタルミュージアム構築事業が完成し、活用いただけるようになりました。

調査研究活動につきましては、研究テーマの見直しを行いながら成果をあげ、学術研究集会や各種学会誌上等での発表に加え、当館刊行の『研究報告』等で広く公表しました。その成果は、今後の展示や教育普及活動で活用されることとなります。

資料収集保管活動におきましても、多くの方々からの資料の受贈をはじめとする資料の収集整理、これらを適切に保管管理しながらの県内外の博物館等への貸出等を行いました。加えて、資料の生物学的劣化からの防除や科学分析・保存処理も進めております。

さらには、博物館活動を推進する上記 4 つの活動に加え、文化庁等の外部助成金を活用するなど外部連携を進めながら事業を推進しております。平成 28 年度も引き続き県民の皆様方の学術文化活動の支援を図ってまいりたい存ですので、今後とも温かい御協力と御指導をお願い申し上げます。

平成 28 年 4 月

岩手県立博物館長 高橋 廣至

1. 沿革

昭和 48 年 4 月	県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係（3 名）を設置
昭和 48 年 5 月	県庁内に、副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置
昭和 48 年 6 月	博物館資料調査委員（委員 22 名）を委嘱
昭和 48 年 7 月	民意集約機構として博物館建設調査協議会（委員 25 名）を設置
昭和 48 年 8 月	展示内容等の専門的指導助言を得るため、博物館専門委員会（委員 20 名）を設置
昭和 49 年 4 月	県教育委員会事務局に博物館開設準備室（庶務係、学芸班 10 名）を設置
昭和 50 年 5 月	博物館建設調査事務終了に伴い、引続き県立博物館建設委員会（委員 6 名）を設置
昭和 51 年 1 月	県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
昭和 51 年 10 月	建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所（東京都）に決定
昭和 52 年 4 月	博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所（総務課、学芸課、工務課、17 名）を設置
昭和 53 年 6 月	起工式
昭和 53 年 10 月	展示工事着手、民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
昭和 54 年 11 月	定礎式
昭和 55 年 7 月	博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館 と決定
昭和 55 年 7 月	コンパニオン（非常勤専門職員 15 名）任用
昭和 55 年 10 月	岩手県立博物館設置
昭和 55 年 10 月	落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式（4 日）
昭和 55 年 10 月	岩手県立博物館開館（5 日）
昭和 55 年 10 月	日本博物館協会、全国科学博物館協議会加盟
昭和 56 年 3 月	第 1 回岩手県立博物館協議会開催
昭和 59 年 10 月	皇太子同妃両殿下ご来館（14 日）
昭和 60 年 4 月	財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
昭和 62 年 5 月	入館者 100 万人を突破（1 日）
平成 元年 3 月	地質総合展示室改修完了
平成 2 年 5 月	岩手県立博物館友の会設立（1 日）
平成 2 年 7 月	歴史古代展示室改修完了
平成 2 年 10 月	開館 10 周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
平成 3 年 2 月	入館者、県民人口を超える（14 日）
平成 3 年 11 月	入館者、150 万人を達成（1 日）
平成 3 年 12 月	歴史中世展示室改修完了
平成 4 年 1 月	コンパニオンを「解説員」に改称
平成 5 年 2 月	秋篠宮同妃両殿下ご来館（5 日）
平成 5 年 3 月	現勢展示室イヌワシの山改修完了
平成 5 年 10 月	国民文化祭いわて'93 記念展「じょうもん発信」開催
平成 5 年 10 月	皇太子殿下ご夫妻ご来館（10 日）
平成 6 年 1 月	「中尊寺黄金秘宝展」開催
平成 6 年 12 月	屋上改修工事完了
平成 9 年 12 月	文化振興事業団 10 周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催
平成 8 年 4 月	重要文化財勸告出品館となる
平成 9 年 2 月	重要文化財公開承認施設となる
平成 9 年 7 月	入館者、200 万人を達成（16 日）
平成 10 年 1 月	ハイビジョン室設置
平成 12 年 3 月	収蔵庫等改修工事完了
平成 12 年 3 月	企画展第 50 回目を迎える（「岩手の経塚」）
平成 12 年 10 月	開館 20 周年記念特別企画展「北の馬文化」開催
平成 13 年 5 月	近代美術展示閉鎖（美術館へ移管）
平成 14 年 3 月	マメンキサウルス（モシリユウ）全身骨格複製標本展示
平成 18 年 4 月	施設等の管理部門に「指定管理者制度」導入。（財）岩手県文化振興事業団が指定管理者となる
平成 21 年 1 月	入館者、250 万人を達成（10 日）
平成 21 年 4 月	（財）岩手県文化振興事業団が 2 期目の指定管理者となる
平成 22 年 1 月	外部階段改修工事完了
平成 22 年 10 月	開館 30 周年記念特別企画展「いわての漆」開催

平成 23 年 3 月 美化事業完了
平成 24 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 3 期目の指定管理者となる
平成 24 年 12 月 秋篠宮同妃両殿下ご来館 (20 日)
平成 25 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(22 日)
平成 26 年 3 月 文部科学大臣から科学研究費補助金規程に規定する研究機関に指定される(20 日)
平成 26 年 3 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設設置 (建築面積 115.22 m²、延床面積 230.44 m²)
平成 26 年 5 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設開所 (可視化により一般公開)
平成 27 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(14 日)
平成 27 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 4 期目の指定管理者となる
平成 28 年 1 月 文化庁巡回展「発掘された日本列島 2015」、特別展「海に生きた歴史～」開催

2. 施設の概要

(1) 建築の概要

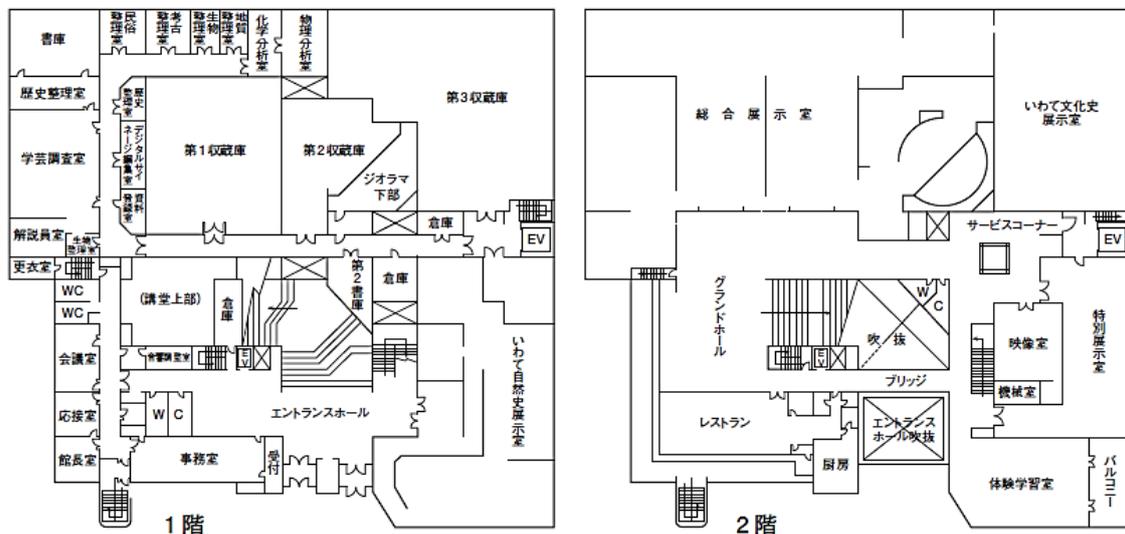
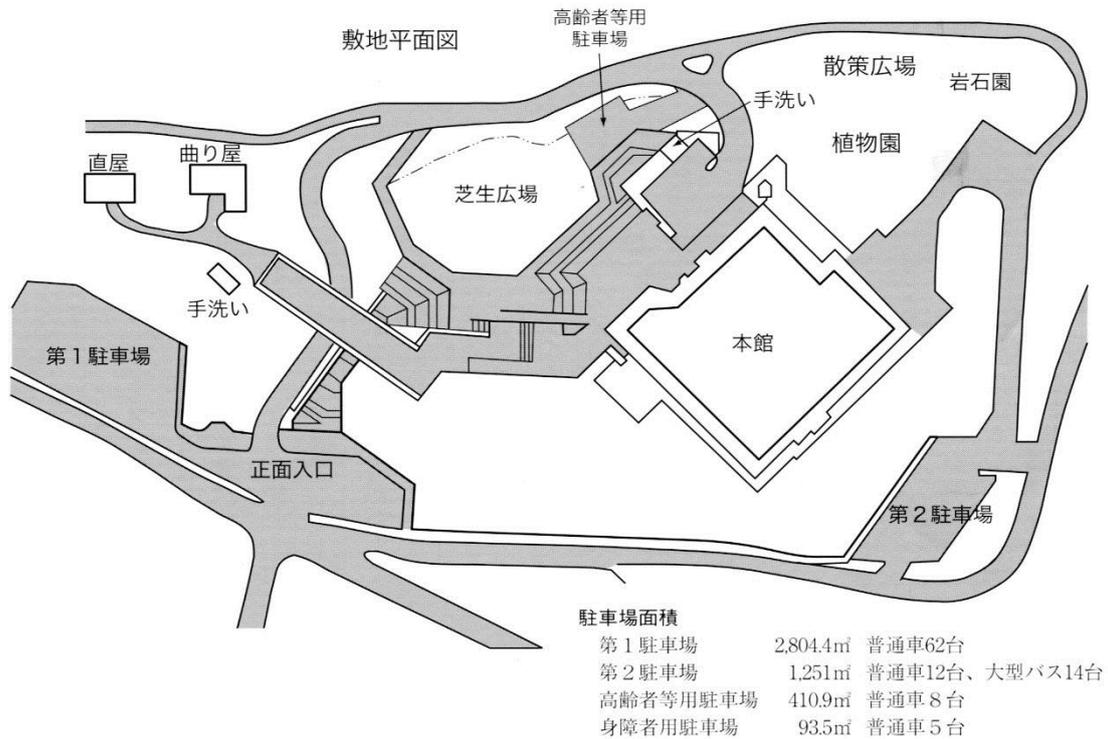
〈総工事費〉 44億3,000万円

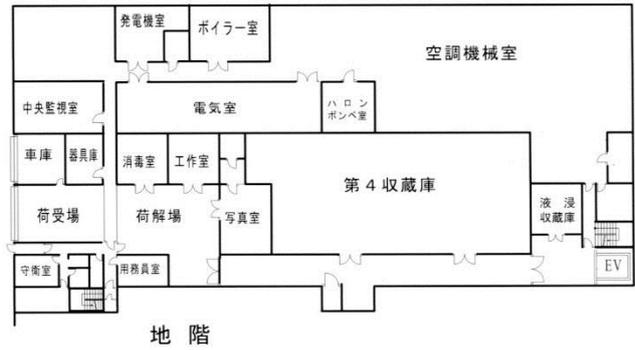
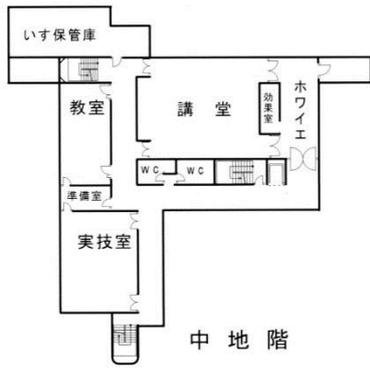
〈工期〉 ●着工 昭和53年3月15日 ●完成 昭和55年9月30日

〈建築概要〉 ●敷地面積 53,112.78㎡ ●建築面積 5,192㎡ ●延床面積 12,051.56㎡

※仮設施設の面積等は含んでいない

(2) 配置図・展示室等平面図





(3) 各室面積表

	部屋名	面積(m ²)	
地階	空調機械室	766.09	
	発電気室	50.26	
	蓄電気室	9.71	
	ボイラー室	64.36	
	中央監視室	64.67	
	電話交換機室	8.89	
	電気室	142.54	
	ハロンポンベ室	37.86	
	消火栓ポンプ室	17.14	
	エレベーター機械室	20.52	
	第4収蔵庫	464.48	
	第5収蔵庫(液浸)	39.72	
	エレベーターシャフト	18.24	
	車庫	38.33	
	器具庫	25.24	
	消毒室	37.86	
	工作室	35.90	
	暗室	11.91	
	作業室	4.06	
	写真室	52.94	
	荷受場	79.63	
	荷解場	113.75	
	用務員室	26.39	
守衛室	18.00		
宿直室	21.17		
湯沸室	3.81		
浴室	5.71		
便所	6.75		
タラップ室	6.75		
フオークリフト置場	12.75		
廊下・階段・その他	280.32		
	小計	2,485.75	
中地階	いす保管庫	98.61	
	外部用倉庫	20.38	
	教室	81.07	
	準備室	22.83	
	実技室	115.66	
	便所	29.02	
	講堂	164.09	
	効果室	14.50	
	ホワイエ	68.29	
	タラップ室	5.14	
	廊下・その他	232.78	
		小計	852.37

	部屋名	面積(m ²)
1階	いわて自然史展示室	729.27
	パネル倉庫	35.56
	風除室	3.21
	受付	18.65
	印刷室	8.50
	事務室	116.01
	館長室	43.33
	応接室	41.40
	会議室	64.23
	倉庫	14.25
	身障者便所	6.47
	No.3便所	43.85
	No.2便所	39.67
	音響調整室	20.84
	同上前室	10.28
	予備室	32.07
	ロッカー室	10.45
	女子更衣室	20.55
	学芸調査室	236.04
	歴史整理室	59.21
	書庫	113.36
	民俗整理室	35.84
	考古整理室	35.84
	生物整理室	25.10
	地質整理室	25.20
	歴史整理室	35.43
	第1資料登録室	21.90
	化学分析室	41.66
	物理分析室	53.94
	デジタルサイネージ編集室	20.72
	第1収蔵庫	365.15
	第2収蔵庫	188.25
	第3収蔵庫	608.38
倉庫	9.18	
第2書庫	42.69	
ジオラマ下部	119.13	
グランドホール	133.19	
ロビー1	101.79	
ロビー2	35.84	
階段・廊下・その他	888.10	
	小計	4,454.53

	部屋名	面積(m ²)
2階	総合展示室	1,553.85
	県土の誕生	102.35
	いわての夜明け	187.60
	いわてのあゆみ	743.20
	庶民の暮らし	210.00
	いわての今	310.70
	いわて文化史展示室	489.07
	ミニプラザ(1)	210.42
	ミニプラザ(2)	129.50
	特別展示室	292.20
	映像室	124.00
	No.4便所	30.11
	体験学習室	217.17
	厨房	54.93
休憩室	160.08	
休憩室便所	10.98	
厨房事務室	10.24	
厨房便所	4.16	
食品庫	6.90	
グランドホール	213.66	
階段・廊下・その他	618.20	
	小計	4,125.47
塔屋	搭屋	133.44
	合計	12,051.56

- 展示面積 3,404.31 m²
- 収蔵庫面積 1,665.98 m²
- 学芸調査室 236.04 m²
- 研究室 274.91 m²

3. 博物館協議会

岩手県立博物館協議会は、館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。平成 27 年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

期日：平成 27 年 11 月 13 日（金）

場所：岩手県立博物館会議室

協議事項 ・平成 26 年度博物館協議会の意見等への対応状況について
 ・平成 27 年度博物館事業実施状況について
 ・平成 28 年度博物館事業計画（案）について
 ・運営全般について

岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 平成 29 年 6 月 22 日まで）（平成 28 年 3 月 31 日現在）

氏名	職	分野
佐賀 敏子	盛岡市立杜陵小学校校長	学校教育 県小学校長会
高橋 清之	盛岡市立下橋中学校校長	学校教育 県中学校長会
高橋 隆	岩手県立盛岡第四高等学校校長	学校教育 県高等学校長協会
松田 恵美子	岩手県青年団体協議会副会長	社会教育
大沢 りつ子	特定非営利法人岩手県地域婦人団体協議会理事	社会教育
米澤 慎悦	一般社団法人岩手県PTA連合会顧問	社会教育
齋藤 桃子	石神の丘美術館主任学芸員	学識経験者 県博物館等連絡協議会
遠藤 健悦	八幡平市教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
前田 千香子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県博物館友の会
鈴木 多聞	㈱岩手日報社編集局学芸部次長	学識経験者
名越 利幸	岩手大学教授	学識経験者
菅野 文夫	岩手大学教授	学識経験者
飯坂 真紀	画家・民俗芸能研究者	学識経験者
沼里 由紀子	盛岡ふるさとガイドの会会員	学識経験者

4. 予算

項目	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
管理運営費	179,862	179,923	177,931	174,216	175,957	170,462		
総務企画調整費						5,243	3,759	4,172
展示活動費	13,763	17,227	16,120	13,372	17,775	11,673	10,074	7,090
資料収集保管活動費	40,755	41,866	43,020	41,262	40,659	40,319	29,894	27,599
調査研究活動費	5,069	4,012	4,012	4,487	4,811	7,273	7,326	7,585
教育普及活動費	4,504	4,504	4,888	5,465	5,450	1,987	1,633	1,683
業務管理費							37,699	34,282
指定管理者事業費							127,861	130,034
計	243,953	247,532	245,971	238,802	244,652	236,957	218,246	212,445

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
総務企画調整費	3,945	3,782	5,317	4,471	3,984	3,807	3,442	3,882
展示活動費	10,826	8,115	3,949	7,443	6,619	6,811	7,589	9,686
資料収集保管活動費	21,846	21,983	22,817	20,911	21,109	21,446	19,911	20,086
調査研究活動費	7,276	7,304	7,556	6,921	6,703	6,611	5,956	4,986
教育普及活動費	1,798	1,558	1,616	1,664	1,770	1,515	1,295	1,275
業務管理費	34,155	33,251	32,439	32,122	32,529	33,880	35,950	36,277
指定管理者事業費	129,269	132,832	131,395	132,600	130,502	130,401	133,050	132,345
計	209,115	208,825	205,089	206,132	203,216	204,471	207,193	208,537

- ※ 1 職員の人件費を除く
 2 予算は、いずれも各年度の当初予算であるが、平成 27 年度は特別展「近代へのとびら」展開催に係る特別予算を加算した。
 3 総務企画調整は 17 年度から項目を起こした。
 4 18 年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした。

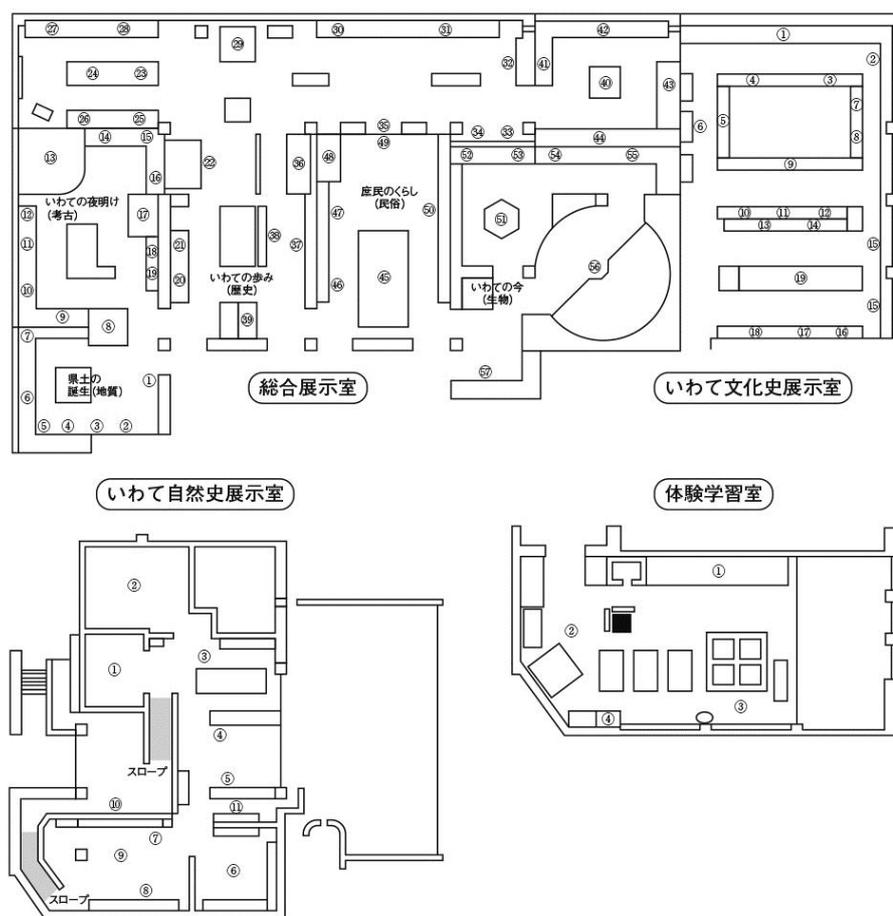
5. 事業の概要

(1) 展示活動

開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集してきた資料、及び入手が困難なものについては購入等による資料収集活動を行ってきた。平成 27 年度（2016 年 3 月 20 日）までに収蔵されている博物館資料の総点数は、220,749 点にのぼる。その中で、常設展示として展示されているものはわずか 2,000 点程度に過ぎず、残りは収蔵庫に保管されている。収蔵庫保管資料については、季節や年中行事にあわせた展示替えの際に活用されている。

総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門に関連する展示資料が、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古部門に関連する展示資料が、いわて自然史展示室には地質・生物など自然史に関するより専門的な資料が展示され、充実した展示内容となっている。

平成 27 年度は、企画展「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」、テーマ展「クマゲラの世界～未知なる生態に迫る～」、「火山灰から社会をよむ－10 世紀の巨大噴火と北東北－」、特別展「発掘された日本列島 2015」、「海に生きた歴史－復興発掘調査が語る一万年の海との共生－」、「近代へのとびら－大島高任の挑戦－」、トピック展震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム「生物界の怪しい仲間たち－科博のコレクションから－」などを開催した。また、岩手県文化振興事業団による埋蔵文化財センター・県立美術館等との合同移動展を九戸村で開催した。



展示室配置図

ア. 展示構成

エントランスホール

- ・兜蹴毘沙門天立像
- ・モシリユウとマメンキサウルス
- ・岩手の眺望

総合展示室

- 県土の誕生(地質)
 - 1 県土のおいたち
 - (1) 東北地方の地下断面
 - (2) 気仙隕石
 - (3) 岩手県の地質と岩石
 - 2 いわたの古生物相の変遷
 - (4) 生命史以前
 - (5) 古生代の生きもの
 - (6) 中生代の生きもの
 - (7) 古第三紀～中生代の生きもの
 - (8) 鮮新世～第四紀の生きもの
- いわたの夜明け(考古)
 - 3 旧石器時代
 - (9) 氷河期の人びと
 - 4 土器の時代
 - (10) 岩手の縄文土器
 - (11) 貝塚の形成
 - (12) 埋葬と装飾品
 - (13) 縄文人の暮らし
 - (14) 大洞文化
 - 5 稲作を始めた時代
 - (15) 弥生文化と岩手
 - 6 古墳を築いた時代
 - (16) 拓かれる北上平野
 - (17) 群集墳
 - (18) 集落と住居
 - (19) 生産技術の変革
 - いわたの歩み(歴史)
 - 7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)
 - (20) 古代の城柵
 - (21) 安倍氏の台頭
 - (22) 奥州平泉とその文化
 - 8 戦乱の時代とその文化(中世)
 - (23) 文治五年奥州合戦
 - (24) 豪族たちの動きと庶民
 - (25) 新しい仏教文化
 - (26) 九戸政実の乱
 - 9 藩制時代の人々(近世)
 - (27) 藩政の確立
 - (28) 凶作と一揆
 - (29) 盛岡城と町づくり
 - (30) 産金と製鉄

- (31) 南部と馬
 - (32) 街道と舟運
 - (33) 藩学と寺子屋
 - (34) 先駆者たち
 - (35) 維新前夜
- 10 進む近代化(近代)
 - (36) 生活の洋風化
 - (37) 岩手県の誕生
 - (38) 明治時代から大正時代へ
 - (39) 太平洋戦争
 - 11 古美術
 - (40) 鐺
 - (41) 絵画・工芸
 - (42) 刀剣
 - (43) 絵画・工芸
 - (44) 絵画
 - 庶民の暮らし(民俗)
 - 12 家の暮らし
 - (45) いろり
 - (46) 正月の行事
 - (47) 庶民の信仰
 - 13 働く人びと
 - (48) 農村の人びと
 - (49) 漁村の人びと
 - (50) 山村の人びと
 - 14 まつりと芸能
 - いわたの今(現勢・生物)
 - 15 わたしたちの郷土いわた
 - (51) 岩手県地形模型
 - (52) 岩手の四季
 - (53) 県の鳥・木・花
 - 16 恵まれた自然
 - (54) 岩手の風土
 - (55) 山や川の生き物
 - (56) イヌワシの山
 - (57) 豊かな海

いわた自然史展示室

- (1) 大地の中の小さな輝き
—鉱物コレクション—
- (2) 地球史の中の岩手の自然
- (3) 海にもどって大進化
- (4) 海の哺乳類
- (5) 空に向かって大進化
- (6) 水辺の生きもの
- (7) 日本のキツツキと希少な鳥獣
- (8) 早池峰山の自然
- (9) 大空の覇者ワシ・タカの世界

- (10) 写真でみる岩手の自然
- (11) 東日本大震災と
被災文化財等救援活動

いわた文化史展示室

考古

- (1) 岩手の土器
- (2) 北上山系の洞穴遺跡
- (3) 岩手の石器と鉄器
- (4) 三陸の貝塚
- (5) 豊岡遺跡
- (6) 柳之御所遺跡

歴史

- (7) 中国古印
 - (8) 信仰
 - (9) 近代
 - (10) 板碑
 - (11) 江戸時代の貨幣
 - (12) 藩政時代の村
- #### 民俗
- (13) 南部小絵馬
 - (14) オシラサマ
 - (15) まいりのほとけ
 - (16) 郷土料理
 - (17) いわたの民芸
 - (18) 南部絵暦
 - (19) むかしの暮らし大図鑑

体験学習室

- (1) 身につける
鎧、夜会服、野良着等
- (2) ためす
虫の鳴き声ボックス、機織等
- (3) あそぶ
かるた、板がえし等
- (4) よむ

屋外展示

民家

- ・直屋 旧藤野家住宅(重文)
奥州市江刺区伊手御堂
- ・曲屋 旧佐々木家住宅(重文)
下閉伊郡岩泉町指畑

散策広場

- ・植物園
県内の植物等345種
- ・岩石園
火山岩、変成岩、堆積岩49種

イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナー

常設展示では、長期の展示による資料の劣化防止、季節や年中行事などにあわせた展示のため、展示替えを行っている。トピック展示では、「日米親善人形『ミス岩手』の里帰り～バーミングハム公立図書館からの贈物～」として青い目の人形(陸前高田市立気仙小学校所蔵)、ミス岩手(バーミングハム公立図書館所蔵)計2点を展示した。また、いわて自然史展示室の入口付近に「トピック展コーナー」を設け、昆虫標本等を展示した。

表(1)-1 平成27年度の主な展示替え・トピック展

No.	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
1	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	古美術コーナー特集展示「南部明子ゆかりの品」	龍笛「田鶴子」、短刀 無銘(兼貞)、南部明子書「源烈公之語」計3点	27.4.7～7.20
2	いわて文化史展示室(民俗)	展示替え	展示替え(昔のくらし大図鑑)	蠅取り器と膳、リボンハイトリ、蠅帳、蚊遣り豚、かき氷器と食器・スプーン、扇風機 計10点	27.4.28～
3	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	橋本雪蕉作品、南部鉄器、太刀 銘「助真」ほか 計12点	27.4.21～7.20/8.30
4	いわて自然史展示室(地質)	展示替え	展示替え(地球史学習室)	ハンマー・クリノメーター・ルーペ・地形図・軍手・フィールドノートなど 計7点	27.4.22～
5	いわて自然史展示室(地質)	展示替え	展示替え(シルル紀以前)	三葉虫化石(パラドキシデス・クレーニアなど) 計7点	27.5.26～
6	体験学習室	トピック展	季節展示(参加型)	七夕飾り	27.6.18～
7	いわて自然史展示室(生物)	トピック展	カブト・クワガタ・フンチュウ	昆虫標本(国内外のカブトムシ、クワガタムシ、フンチュウ類) 計236点	27.7.14～8.30
8	いわて自然史展示室(地質)	トピック展	昆虫化石展示「化石となった虫たち」	昆虫化石(トンボ・甲虫・カゲロウ・ハアリなど)計6点・ブナ化石1点・現生標本カゲロウ・ハアリ・甲虫計3点 合計10点	H27.7.31～8.30
9	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	古美術コーナー特集展示「没後80年 藤島静村」	藤島静村作品11点ほか	27.7.21～10.25
10	いわて自然史展示室(生物)	トピック展	ホタル	愛知県豊田市蚩などパネル 計18点	27.8.2～8.30
11	いわて自然史展示室(生物ほか)	展示替え	東日本大震災と被災井文化財等救援活動	青い目の人形・押し葉標本・津波被災昆虫標本 計4点	27.8.5～8.30
12	いわて自然史展示室(生物)	展示替え	岩手の鳥獣	ツキノワグマ・ニホンジカ・シノリガモ・サンコウチョウ・カワセミ・ヤマセミ・クビワキンクロ・カナダヅル等 計21点	27.9.11～
13	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	展示替え	重要文化財 銅造観音菩薩立像	27.9.19～10.2
14	ミニプラザ	トピック展	震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム「生物界の怪しい仲間たち」	剥製(イヌワシ、トラツグミ、アオバト、ブッポウソウ、コノハズク)6点ほか全74点	27.9.25～11.8
15	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	山蔭焼4点、台焼4点 計8点	27.10.27～28.3.13
16	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	銀装衛府刀拵、亀甲花菱紋鶴高時絵鞍鍔、鳳凰文高時絵鞍鍔・本堂蘭室筆「群鶴図屏風」 計5点	27.10.27～28.1.17
17	総合展示室(考古)	展示替え	遮光器土偶の複製製作	複製遮光器土偶上半身1・下半身1、上半身型1・下半身型1 計4点	27.10.31～
18	いわて文化史展示室(民俗)	展示替え	昔のくらし大図鑑	あたたまるための道具8点ほか 計12点	27.11.1～
19	特別展示室	トピック展	東北の押し葉標本	押し葉標本 115点	27.12.1～12.13
20	サービスコーナー	トピック展	日米親善人形『ミス岩手』の里帰り～バーミングハム公立図書館からの贈物～	青い目の人形(陸前高田市立気仙小学校所蔵/～2月6日)、ミス岩手(バーミングハム公立図書館所蔵) 計2点	27.12.24～28.3.6

No.	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
21	いわて自然史展示室(生物)	トピック展	岩手の蝶・蛾&ハンミョウ	岩手で見られる蝶全128種と特徴的な蛾、30年ぶりの発見となるホソハンミョウを含むハンミョウ類を展示 計285点	27.12.15～28.3.1
22	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	ひいなを愛でるⅠ(古美術コーナー)	古今雛3種6点、享保雛2点 計8点	28.1.19～
23	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	橋本雪蕉筆「四愛の図」、狩野休雪筆「梅に鶯」、狩野休山筆「梅に尾長」、狩野存信筆「梅花図」、海野樸岳筆「梅」、藤島静村筆「梅椿」、船越月江筆「梅」 計7点	28.1.19～3.13
24	総合展示室「庶民の暮らし」(民俗)	トピック展	ひいなを愛でるⅡ	土人形4種、押し絵雛、立ち雛、薩摩糸雛、天児・這子 計33点	28.2.9～4.10
25	エントランスホール	トピック展	連携プロジェクト「明治時代のドレス」	県立平館高等学校との連携事業として制作したドレス等の公開 計3点	28.2.19～2.26
26	総合展示室「いわての夜明け」(考古)	展示替え	展示替え(旧石器時代)	彫刻刀形石器刃部形成削片(彫刻刀形石器と接合する資料)1点	28.2.21～
27	体験学習室(身につけるコーナー)	新設	連携プロジェクト「明治時代のドレス」	県立平館高等学校との連携事業として制作したドレス等の設置 計3点	28.2.27～
28	いわて自然史展示室(生物)	トピック展	春の虫	岩手で春先から見られる蝶、蛾、甲虫、ハナバチ・ハナアブなどを展示 計114点	28.3.2～5.29
29	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	古美術コーナー特集展示「岩手の鉄と職人の技」	刀剣5振、南部鉄瓶4点、前九年合戦図屏風	28.3.15～
30	総合展示室「いわての歩み」(歴史)	展示替え	展示替え	紺糸威最上胴具足1領	28.3.23～
31	いわて文化史展示室(民俗)	展示替え	南部絵暦、郷土料理、いわての民芸、南部小絵馬、おしらさま、まいりのほとけ、昔のくらし大図鑑		28.3.26～
32	いわて文化史展示室(歴史)	展示替え	展示替え	盛岡城下図、東臯文真の書3幅	28.3.26～

ウ. 特別展示の概要

平成27年度は以下の企画展・テーマ展等を開催した。合同移動展は公益財団法人岩手県文化振興事業団主催の事業で、当館・美術館・埋蔵文化財センターの3事業所が共同で九戸村を会場として行ったものである。

表(1)-2 平成27年度の企画展・テーマ展・特別展

種別	名称	会期
企画展	「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」	平成27年6月30日(火)～8月23日(日)
テーマ展	「クマガラの世界～未知なる生態に迫る～」	平成27年3月14日(土)～5月31日(日)
テーマ展	「火山灰から社会をよむー10世紀の巨大噴火と北東北ー」	平成27年9月19日(土)～11月23日(月・祝)
特別展	「発掘された日本列島2015」	平成28年1月14日(木)～2月28日(日)
特別展	「海に生きた歴史ー復興発掘調査が語る一万年の海との共生ー」	平成28年1月14日(木)～3月6日(日)
トピック展	震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム「生物界の怪しい仲間たちー科博のコレクションからー」	平成27年9月29日(火)～11月8日(日)
特別展	「近代へのとびらー大島高任の挑戦ー」	平成28年3月19日(土)～5月15日(日)
合同移動展	「文化・芸術が集うとき in 九戸村」	平成27年10月30日(金)～11月1日(日)

(ア) 第 66 回企画展「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」

佐藤家は花巻市四日町の旧奥州街道沿いにある荒物屋であった。当館が所蔵する佐藤家の資料は商売用具と衣食住に関する生活関連資料、約 400 点である。これらは現当主武氏、淑子夫人（故人）、長男玲氏の 3 人によって、昭和 62 年から平成 24 年まで 25 年にわたって当館に寄贈されたものである。幕末から戦後にかけておよそ 100 年以上にわたる一家の暮らしを物語るものとしては秀逸のコレクションである。

本展は佐藤家の商売用具と衣食住の生活関連資料を中心に展示し、花巻の一商家の暮らしを紹介した。

会期 平成 27 年 6 月 30 日（火）～8 月 23 日（日）50 日間

（前期 6 月 30 日から 7 月 26 日、後期 7 月 28 日～8 月 23 日）

会場 特別展示室

会期中の入館者数：6,868 人

[展示内容]

I 商家の暮らし

プロローグ 花巻町四日市町場図（地割図）、明治 20 年家相図、日本全国商工人名録

- (1) 商売の道具…見本箱と判、筆筒、銭箱、算盤、棹秤
- (2) 商家の年中行事…雛人形、百人一首、宮参りの重ね、弁当箱

II 佐藤家の衣食住

- (1) ふだんの衣食住…膳、飲食器、箱枕、布団、ふだん着、鯨尺
- (2) 時代を映す鏡…明治 9 年明治天皇巡幸記念の品、明治の鞆、銘仙の着物、子どもの衣服（軍事絵）、記念盃（軍事・一般）

* 着物などの一部の資料は前期・後期に分けて展示された。

[関連事業]

展示解説会	7 月 4 日（土）午前 11 時～12 時	14 名
	8 月 3 日（月）午後 2 時 30 分から 3 時 30 分	16 名
日曜講座（兼民俗講座）	8 月 23 日（日）午後 1 時 30 分から 3 時	
	「花巻城下のくらしと文化」花巻市博物館館長 高橋信雄氏	55 名
伝統芸能鑑賞会「倉沢人形歌舞伎」（岩手県指定無形民俗文化財）		
	6 月 21 日（日）午後 1 時 30 分～3 時 講堂 無料	80 名

[印刷物]

ポスター B2、カラー印刷、300 部
リーフレット A4、両面（表 カラー印刷）、5,000 部
図録 A4、カラー印刷、88 ページ、700 部（配布用）、70 部（販売用、売価 2,000 円）

(イ) テーマ展「クマゲラの世界～未知なる生態に迫る～」

高度経済成長期、林野行政における拡大造林・独立採算制度の名のもと、全国規模で行われた国有林（落葉広葉樹林帯）伐採のために減少の一途をたつた国の天然記念物クマゲラ *Dryocopus martius* は、1970 年代、ブナ林保護の象徴的存在としてクローズアップされると同時に、日本初の世界自然遺産登録地・白神山地をはじめとするブナ林のキーストーン種としても脚光を浴びるようになった。その間、北東北三県における目撃情報、撮影記録や江戸時代の古記録および近年の調査研究から、過去・現在の分布状況が判明し、徐々にその生態が明らかになりつつある。

本テーマ展は、長年クマゲラの生態研究に携わった生物部門学芸員による研究成果の公表であり、クマゲラとはどのような鳥なのか？クマゲラを保護することはどのようなことなのか？クマゲラ研究に関与した研究者たちの足跡など、クマゲラという 1 個の鳥に焦点をあて、クマゲラに関連する資料を一堂に会した日本初のオリジナル的展覧会である。

展示資料は 120 点、展示写真 A1 サイズ等 100 点、解説パネル B2 サイズ等 65 枚の総計 285 点であり、そのうち借用資料は 5 点にすぎない。担当学芸員が着任以来、16 年間年次計画的に購入・委託制作した剥製標本やカービ

ング資料及び調査研究に際しての生態写真データを活用した。なお、この展覧会のために要した準備期間は、約2年間であった。

設営については、デザイナー・制作者の2名を3ヶ月間、時間雇用し、本展覧会のコンセプトを周知後、会場のデコレーション並びに営巣木のレプリカ制作を行った。

本展覧会は、公益財団法人岩手県文化振興事業団30周年記念事業として、一般財団法人 全国科学博物館振興財団活動助成（平成26年度）から助成いただいた事業である。

会期：平成27年3月14日（土）～5月31日（日）

会場：特別展示室

会期中の入館者数：7,891人

[展示内容]

- 1 シンボル展示
- 2 概説
- 3 日本のキツツキ
- 4 クマゲラの巣穴を利用する鳥獣
- 5 クマゲラ研究小史
- 6 クマゲラの森の動物たち
- 7 クマゲラ保護のために
- 8 クマゲラ観察用具
- 9 クマゲラの生態写真
- 10 クマゲラの営巣木レプリカ
- 11 ハンズオンコーナー
- 12 クマゲラ生態写真アルバム

[関連事業]

第1回展示解説会 3月15日（日）14:00～15:00 55名

アマチュア最高峰カメラマンの井上大介氏を迎えて

講師：井上大介氏、藤井忠志

第1回セミナー兼日曜講座 3月22日（日）13:30～15:00 88名

対談講演会「日本産クマゲラの生態とその保護」

講師：有澤浩氏 元東京大学農学部附属北海道演習林助手

船木信一氏 秋田県立博物館主任学芸主事

藤井忠志 岩手県立博物館学芸部長兼首席専門学芸員

第2回セミナー兼日曜講座 4月26日（日）13:30～15:00 85名

「クマゲラ研究小史」

講師：藤井忠志 岩手県立博物館学芸部長兼首席専門学芸員

第2回展示解説会 5月3日（日）14:00～15:00 38名

デザイナー高橋良徳氏を迎えて

講師：高橋良徳氏、藤井忠志

第3回セミナー兼日曜講座 5月24日（日）13:30～15:00 37名

「ミトコンドリアDNAを指標としたクマゲラの遺伝的多様性の解析」

講師：黒尾正樹氏 弘前大学大学院農学生命科学研究科教授

来館者は、地元岩手はもちろんのこと、北海道、青森、秋田、山形、宮城、福島、栃木、茨城、東京、兵庫、大阪、静岡など、日本全国からおいでいただいた。来館された方々も、子どもから80歳を超えた高齢の方と年齢層も幅が広がった。内訳も野鳥ファン、トレッキング愛好家、植物屋さん、昆虫屋さん、マンガ家、学生、研究者、

そしてプロカメラマンなど多岐にわたり、ラジオや新聞で本展を知った方が、来場していた。中にはブログ等に本展を掲載される方や、口コミでの来館者が多かったことに、クマゲラ展への関心の高さが伺われた。

日本一の剥製師によるクマゲラの本剥製標本や実物大のカービングは、特にも来館者の目を引いた。また、実物そっくりの発砲スチロール性クマゲラ営巣木には、産座に実物大のタマゴの模型もおき、ご希望に応じて巣穴内部の断面が見える構造にしたため、老若男女問わず、とても評判がよかった。圧巻は、A1 サイズ 80 枚のクマゲラ生態写真だった。北海道産と本州産に分けて壁面すべてに所狭しと展示したところ、一同、異口同音に驚嘆・感激していた。苦勞しながら撮影した巣立ちシーンなどの生態画像 DVD にも、静かな人気があつまった。

「クマゲラの世界」展アンケート結果

1 クマゲラの世界を観覧して

ア 満足 57 票 イ やや満足 9 票 ウ やや不満 0 票 エ 不満 0 票

2 よかった展示物は？

写真、剥製、クマゲラの骨格標本、鳴き声ビデオ、コノハズク、著名人の紹介、様々な鳥獣剥製、すべて、クマゲラ研究小史、バードカービング、クマゲラの映像、営巣木のレプリカ、クマゲラの剥製、解説文すべて、実物の川口仮剥製標本、ブナ林の紹介、日本産キツツキ全種を一行に配置した展示、クマゲラの巣穴を利用する鳥獣、ねぐらの森とアカゲラの紹介、とても勉強になりました、クマゲラの人形、入り口の展示、小林高太郎先生の日本画、本州産に関するデータ

3 生態写真で特に気に入った写真ベスト 3

1 位：全力で餌をねだる雛（井上） 2 位：クマゲラの口の中（井上）

3 位：育ち盛りの雛（井上）、北電電中に造巣（井上）

5 位：派手なパフォーマンスで巣立ち促し（井上）、卵をくわえる（研究会）

（ウ）テーマ展「火山灰から社会をよむー10 世紀の巨大噴火と北東北ー」

10 世紀前半の北東北を襲った十和田（十和田湖）と白頭山（中国・北朝鮮国境）の火山噴火。前者は過去 2000 年間で国内最大級、後者は同じく世界最大級の噴火とされるが、災害の全貌は未だ不明である。その謎に迫るため、北東北 3 県で実施された発掘調査成果を総ざらいして 2 つの火山噴火痕跡を追い、噴火前後の集落分布を提示するとともに各地の物質文化（土器）を一堂に集め展示した。それらの有様から、噴火災害に対して人々がどのように行動・変動したのか、「地域社会」と「復興」をキーワードに検討し、現時点での答えを示した。

会期：平成 27 年 9 月 19 日（土）～11 月 23 日（月・祝）

会場：特別展示室

会期中の入館者数：9,978 名

〔展示内容〕

プロローグー本展の趣旨ー

第 1 章 火山「十和田と白頭山」

1. 活火山「十和田」

十和田の主な噴火、10 世紀の噴火ーエピソード Aー

2. 白頭山ー大陸で起こった 10 世紀の巨大噴火ー

第 2 章 遺跡に残る噴火の「爪痕」

1. 火山噴火で何が起こるか

2. 噴火の「爪痕」

飛来した火山灰ーTo-a と B-Tmー、地を這う流れー毛馬内火砕流ー

3. 災害の全貌は謎

第 3 章 火山灰から社会をよむ方法

1. 火山灰から社会をよむ？

2. 火山灰は時間のものさしーテフクロノロジーー

3. 遺構の廃絶時期を探る

4. 社会と災害をよむ

第4章 巨大噴火と地域社会—さまざまな復興のかたち—

1. 噴火前夜の北東北

2. 十和田の噴火とその後

降灰量の推定、さまざまな復興のかたち、復興の中心は天台寺？—安比川流域—、ラハールからの復興—秋田県米代川流域—、耕地の復旧—岩手県内各地の事例—、新天地への移住—青森県上北地方北部—、雨降って地固まる—青森県津軽平野中部—、遺物の変化—土師器甕—、「社会」と「復興」

3. 白頭山の噴火とその後

エピローグ—将来への備え—

【関連事業】

- 1 第1回展示解説会 9月20日(日) 14:30~15:30 参加者 18名
- 2 考古学セミナー現地見学会 9月26日(土) 8:30~17:00 参加者 26名
「十和田火山—その履歴とインパクトを見る—」 榎本剛治氏(北秋田市教育委員会)、
安田隼人氏(小坂町教育委員会)、当館考古部門
- 3 県博日曜講座 10月11日(日) 13:30~15:00 聴講者 59名
「遺跡からみた火山活動と人々の応答」 小野映介氏(新潟大学准教授)
- 4 第2回展示解説会 10月17日(土) 11:00~12:00 参加者 21名
- 5 考古学セミナー講演会 10月17日(土) 13:30~15:00 聴講者 49名
「時空のかけはし—火山灰」 早田 勉氏(火山灰考古学研究所所長)
- 6 県博日曜講座 10月25日(日) 13:30~15:00 聴講者 54名
「火山灰から社会をよむ」 丸山浩治(当館専門学芸員)
- 7 文化講演会 11月3日(火) 13:30~15:00 聴講者 84名
「災害考古学のゆくえ」 能登 健氏(群馬大学非常勤講師)
- 8 第3回展示解説会 11月15日(日) 14:30~15:30 参加者 21名

【印刷・広報物】

- 1 ポスター B2判4色刷 400枚
- 2 リーフレット A4判表裏4色刷 8,500枚
- 3 しおり 47×148mm表裏4色刷 7,000枚
- 4 パンフレット A4判全頁4色刷中綴じ20頁 700部(配布用150部、販売用500部・売価200円)
- 5 児童向けパンフレット A5判全頁4色刷中綴じ8頁 1,000部
- 6 手ぬぐい 岡生地350×900mm2色刷 50枚 売価540円

【エ】特別展「発掘された日本列島 2015」

全国では毎年約8,000件近い発掘調査が実施されており、その中から近年特に注目された遺跡や出土品19遺跡412点について展示を行った。さらに、特集1「復興のための文化力 - 東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護 -」、特集2「全国史跡整備市町村協議会50周年記念」を展示した。

会期：平成28年1月14日(木)~2月28日(日)

会場：いわて文化史展示室

会期中の入館者数：4,988名(特別観覧料大人600円、学生400円、高校生~小学生200円)

【展示内容】

新発見考古速報 19遺跡

旧石器時代~縄文時代 史跡福井洞窟

縄文時代 富山県小竹貝塚、岩手県けや木の平団地遺跡、宮城県北小松遺跡

弥生時代 大阪府東奈良遺跡、福岡県高三潞遺跡、静岡県松東遺跡

古墳時代 滋賀県中沢遺跡、岡山県上相・鍛冶屋途古墳群、栃木県甲塚古墳

- 古代 茨城県瓦塚窯跡、福岡県大宰府関連遺跡群、千葉県上谷遺跡、秋田県史跡大鳥井山遺跡
- 中世 宮城県瑞巖寺境内遺跡、福井県越前窯跡群、愛知県史跡小牧山、京都府大雲院跡
- 近代 茨城県シャトーカミヤ旧醸造場施設

特集1 復興のための文化力 - 東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護 - 7 遺跡

福島県東町遺跡・天神原遺跡・天化沢A遺跡、宮城県高大瀬遺跡・熊の作遺跡、岩手県西平内I遺跡・平清水III遺跡

特集2 全史協 50 年のあゆみ - 全国史跡整備市町村協議会 50 周年 - 2 遺跡

福岡県ウトグチ瓦窯跡、島根県史跡益田市城館跡

〔関連事業〕

1 展示解説会

1月23日(土) 14:30～15:00 参加者 24名

2月13日(土) 14:30～15:00 参加者 76名

2月27日(土) 14:30～15:00 参加者 75名

2 県博日曜講座

1月24日(日) 13:30～15:00 聴講者 59名

「海に生きた歴史①－縄文・弥生－」 八木勝枝(当館学芸員)

2月14日(日) 13:30～15:00 聴講者 89名

「海に生きた歴史②－古代～近代－」 羽柴直人(当館学芸員)

3 記念講演会

2月28日(日) 13:30～15:00 聴講者 71名

「東日本大震災と埋蔵文化財－発掘された日本列島 2015」を中心に - 水ノ江和同氏(文化庁記念物課文化財調査官)

〔印刷物〕

1 ポスター B2判4色刷 500枚

2 リーフレット A4判表裏4色刷 20,000枚

3 図録 A4判4色刷71ページ(編著者文化庁、株式会社共同通信社発行)

(オ) 特別展「海に生きた歴史～復興発掘調査が語る一万年の海との共生」

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた三陸沿岸。人々の暮らしを立て直すため、数多くの土木事業が必要となり、それに付随して埋蔵文化財調査の推進が急務とされてきた。

本展示は、復興発掘調査の状況と成果をもとに、海に生きた岩手県沿岸部の先人の歴史を紹介し、これからも海とともに生きる地域の営みの「礎」を呈示することを目的とする。

会期：平成28年1月14日(木)～3月6日(日)

会場：特別展示室

会期中の入館者数：7,759名

〔展示内容〕

1 海に生きた一万年の歴史

2 海とともに生きた生活 ー縄文～弥生ー

3 海を介した歴史の展開 ー古代～近代ー

4 東日本大震災津波と埋蔵文化財

5 復興発掘調査に携わった人々

〔関連事業〕

1 展示解説会

1月23日(土) 15:00～15:30 参加者 24名

2月13日(土) 15:00～15:30 参加者 76名

2月27日(土) 15:00～15:30 参加者 75名

2 県博日曜講座

1月24日(日) 13:30～15:00 聴講者 59名

「海に生きた歴史①－縄文・弥生－」 八木勝枝(当館学芸員)

2月14日(日) 13:30～15:00 聴講者 89名

「海に生きた歴史②－古代～近代－」 羽柴直人(当館学芸員)

3 記念講演会

2月28日(日) 13:30～15:00 聴講者 71名

「東日本大震災と埋蔵文化財－「発掘された日本列島2015」を中心に－」 水ノ江和同氏(文化庁記念物課文化財調査官)

4 連携事業「海に生きた歴史」移動展

①「海に生きた歴史」大槌町 1月16日(土)、17日(日) 大槌町中央公民館、参加者 61名

②「海に生きた歴史」野田村 1月30日(土)、31日(日) 野田村生涯学習センター、参加者 76名

③「海に生きた歴史」宮古市 2月6日(土)、7日(日) 宮古市立図書館、参加者 91人

④「海に生きた歴史」陸前高田市 2月20日(土)、21日(日) 陸前高田市コミュニティホール、参加者 222人

〔印刷物〕

1 ポスター B2判4色刷 600枚

2 リーフレット A4判表裏4色刷 20,000枚

3 展示解説書 A4判4色刷8ページ 8,500部

4 展示解説リーフレット A4判表裏4色刷 11,000枚

〔助成等〕

1 助成 船の科学館・海の学びミュージアムサポート(日本財団助成事業)

2 共催 公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 岩手日報社

〔カ〕特別展「近代へのとびら－大島高任の挑戦－」

2015年7月、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」の構成資産として橋野鉄鉱山の世界文化遺産登録が決定した。しかし、西日本に集中した構成資産の中で、なぜ橋野が選ばれたのかを、釜石が近代製鉄発祥の地となった自然的、人文的背景を資料から読み取れるよう構成した。また、橋野高炉の操業開始に大きな役割を果たした大島高任も、業績に比して、あまりに知られていない。那珂湊反射炉の築造や大橋における初めての銑鉄の連続出銑、私学日新堂や日本初の鉱山学校の設立、現在の東京大学工学部につながる工学寮設立提言と実現、岩倉遣欧使節団への参加、釜石、小坂、佐渡など全国各地の鉱山で第一人者として活躍した高任の足跡を紹介するとともに、高任の周囲の人々の役割や古くから製鉄に携わった沿岸の人々や耐火レンガ製作に関わった花巻の人々にも光をあてて紹介した。

会期 平成28年3月26日(土)～5月15日(日) 45日間

会場 特別展示室 一部いわて文化史展示室

〔展示内容〕

第一章 いわてと鉄

第二章 近代製鉄誕生前夜

第三章 大島高任と釜石鉱山

第四章 大島高任と日新堂

第五章 明治期の大島高任

第六章 近代以降の釜石鉱山

第七章 大島高任と産業国家日本

〔関連事業〕

展示解説会

- 4月3日（日）午後2時30分から3時30分
- 4月23日（土）午後2時30分から3時30分
- 5月14日（土）午後2時30分から3時30分

日曜講座

- 3月27日（日）午後1時30分から3時
「日本史の中の釜石鉱山」当館学芸員笠原雅史 84名

鋳物体験

- 3月26日（土）午後1時から4時
講師 岩手大学工学部教授 平塚貞人氏

たたら製鉄体験

- 3月27日（日）午前9時30分から午後4時
講師 元釜石市鉄の歴史館職員 留畑昌市氏

〔印刷物〕

- ポスター B2、カラー印刷、1,000部
- リーフレット A4、両面（表 カラー印刷）、70,000部
- 図録 A4、カラー印刷、56ページ、300部（配布用）、700部（販売用、売価1,000円）

（キ）移動展「文化・芸術が集うとき in 九戸」

これまでに岩手県立博物館では、博物館から遠隔地に当たり来館機会に恵まれない地域を対象として、当館の貴重な所蔵品や開催地にゆかりのある所蔵品を展示・紹介する「岩手県立博物館移動展」を開催してきた。平成20年度からは、岩手県立埋蔵文化財センターとの合同展（岩手県立博物館移動展・埋蔵文化財展）という形態で実施され、さらに平成24年度からは（公財）岩手県文化振興事業団の4事業所（埋蔵文化財センター・岩手県立美術館・岩手県民会館・当館）が一堂に会し行う事業「岩手県文化振興事業団プレゼンツ」の一環として行われている。

今年度の移動展は、前年度同様、合同展であることを意識し、埋蔵文化財センター・美術館・当館の3事業所におけるそれぞれの展示資料を一つの会場スペースで展示した。これにより、各事業所がどのような資料を対象として扱い、研究・公開を行っているのかといったことから、一般向けにどのような教育普及事業を行っているのかといったことまでを伝えることができた。また、九戸村公民館という広い展示スペースで開催したことで導線を広く確保することができ、展示解説会の実施時にも混雑することなく多くの方々を会場内に案内することができた。

また、今年度は九戸村主催のイベント「九戸村産業・芸術文化まつり」と日程・会場を同じくして行う、まさに「合同展」となった。九戸村職員の手厚い御協力のおかげで準備・開催をスムーズに行うことができ、さらに多くの来場者の方々に足を運んでいただいた。

会期：平成27年10月30日（金）～11月1日（日） 3日間

会場：九戸村公民館

タイトル：『合同展～平成27年度岩手県立博物館移動展・第36回埋蔵文化財展』

来場者数：610人

〔展示内容〕 展示総数103点

- 1 考古 縄文土器（軽米町駒木出土の壺）、土版（板橋遺跡出土）、尖頭器（軽米町長倉大満出土の石槍）、蕨手刀（野田村大字野田字上新山出土）、火山灰と考古学研究（パネル）、火山灰堆積メカニズム（パネル）など 計11点
- 2 歴史 錦絵（源平大合戦、赤間ノ浦源平大戦之図、武勇合戦寿古録）、南部根元記、南部旧指録、盛岡藩領内図、鐔・拵 計16点

- 3 民俗 虎舞装束、各地の虎舞（パネル）、正月の餅料理（複製）、各地の郷土料理（パネル）、百鬼夜行図、和漢三才図会など 計 20 点
- 4 生物 動物剥製標本（アルビノのツキノワグマ親子など）、昆虫標本（岩手のチョウとガ）、カワシンジュガイのジオラマ・標本など 計 19 点
- 5 地質 九戸村大神鉱山産の鉱物、九戸村妻ノ神鉱山産の鉱物、四ツ役層産化石標本、門ノ沢層産化石標本など 計 37 点

【関連事業】

展示解説会 11月1日（日）10：00～11：00／14：15～15：15 参加者 35 人

（ク）トピック展「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム 生物界の怪しい仲間たち」

「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」は、東日本大震災被災地域の博物館等を支援するとともに、地域の自然科学の振興を図るため、国立科学博物館と被災地域である岩手県・宮城県・福島県を中心とする博物館等が連携し、それぞれの地域の自然・文化・産業などに関連したテーマにより、展覧会や講演会・体験教室などの博物館活動を実施するものである。当館での実施は、平成 24 年に実施された「恐竜アロサウルスがやってきた」に続いて 2 回目である。

今回は、「科学の始まりは『怪しい未知のもの』を集め、調べて、分類することである」を主たるコンセプトとし、過去に妖怪や怪物と考えられていた生物や、怪しく不気味な姿をした生物の標本を中心に展示した。国立科学博物館所蔵資料 38 点に当館所蔵資料 36 点を加えて構成した。本展は、当館を皮切りに、大船渡市立博物館と久慈琥珀博物館を巡回した。

会期：平成 27 年 9 月 25 日（金）～11 月 8 日（日） 45 日間

会場：ミニプラザ

【展示内容】 展示資料数 74 点

- 1 日本に生息した妖怪たち～江戸時代のイメージとは？～

「異物」「長崎聞見録」「百鬼夜行絵図」

- 2 妖怪の由来となった鳥

剥製：イヌワシ、トラツグミ 2 点、アオバト、ブッポウソウ、コノハズク

パネル：「鶴」・「天狗」（石燕画）

- 3 世界の怪しい化石たち～恐竜とサメ～

メガロサウルス下顎骨（複製）、肉食恐竜の大腿骨（複製）、ヒトの大腿骨（複製）、書籍”Natural History of Oxfordshire”、カルカロドン・メガロドンの歯 2 点、ノジュール 2 点、デイノニクス全身骨格（複製）、プロトケラトプス全身骨格（複製）、グリフィン（パネル）2 点、書籍”The First Fossil Hunters”、シチパチの卵（複製）

- 4 生物界の怪しい仲間たち

チョウ・ガ類の擬態と威嚇：ブラジルフクロウチョウ、オオトモエ、ユウレイセセリ、イボタガ

目玉模様のチョウ・ガ：コウチスズメ、ウチスズメ、ムクゲコノハ、シロスジトモエ、オスグロトモエ、ハグルマトモエ、クジャクチョウ、アオタテハモドキ、ヒメウラナミジャノメ、ジャノメチョウ、ヒトツメオオシロエダシヤク、メダマチョウ属の一種、タイヨウモルフオ、ワモンチョウ、ヘリグロスカシジャノメ、キモンスカシジャノメ、エゾヨツメ、ウスタビガ、ハグルマヤママユ、ヒメヤママユ、クロウスタビガ、クスサン、シンジュサン

怪しいキノコの仲間たち：冬虫夏草（オオセミタケ、カメムシタケ、ツクツクボウシタケ）、ヤコウタケ、スッポンタケ、マメザヤタケ、コツブタケ、カエンタケ、ツキヨタケ

ドラキュラ・ベラ

ジグモ、カバキコマチグモ

深海魚の怪しい仲間たち：オニアンコウ、オニキンメ、ワラスボ、ミズウオ、ユウレイイカ

海藻の怪しい生き方：ミル、カゴメノリ、カイソウモドキ、マコンブ

【関連事業】

1. 講習会「シダ標本同定会」

日時：平成27年10月10日（土）13:00-16:00

場所：当館実技室

講師：国立科学博物館植物研究部 研究主幹 海老原淳氏

2. ミニ講演会「海藻の怪しい生き方-ミルやワカメにみる生活史の多様性」

日時：平成27年10月31日（土）14:30-15:30

場所：教室・ミニプラザ

講師：国立科学博物館植物研究部 研究主幹 北山太樹氏

（ケ）トピック展「東北の押し葉標本」

会期：平成27年12月1日（金）～12月13日（日） 13日間

会場：特別展示室

主催：岩手県立博物館・東北植物研究会・岩手県植物誌調査会

期間中の入館者数：1,154人

【展示内容】 展示資料数 115点

東北植物研究会及び岩手県植物誌調査会の会員が製作・出展した押し葉標本を、両会の協力を得て展示した。展示標本は、2011年3月11日の津波浸水域に生えた植物や、東北地方で新しい発見があった植物を中心に115点で、青森を除く東北5県から採集されたものである。

【関連事業】

県博日曜講座兼講演会

日時：平成27年12月13日（日）13:30-16:00

場所：講堂

演題・講師：

「日本の水草を調べる・分類する・守る」志賀隆氏（新潟大学教育学部准教授）

「岩手県の植物相 ～分かったこと、分からないこと～」鈴木まほろ（当館学芸員）

(2) 教育普及活動

平成 27 年度の教育普及事業として 30 事業を開催した。講演会・講座としては、県博日曜講座、自然観察会、地質観察会、考古学セミナー、古文書入門講座を開催した。土曜・休日の子供向け事業では、7 回目を迎えた「博物館まつり」を始めとして、毎週日曜日開催の「たいけん教室～みんなでためそう～」、第 2・第 3 土曜・日曜日開催の「チャレンジ! はくぶつかん」等の土曜・休日の子供向け事業や、毎月第 1 土曜日開催の「ミュージアムシアター」を実施した。また、夏休み(8月)の特別企画として「ワードパズル」「子ども向け定時解説」「日めくり博物館」を、冬休みのイベントとして「冬休みワクワク! ワークショップ」を 2 日間開催した。学習支援や社会教育事業の一環として、小中学校・県立学校・大学・幼稚園・各種団体等からの団体利用についても積極的に対応した。毎年、国際博物館の日の関連イベントとして「県博バックヤードツアー」を開催しているが、今年度は自然史系と文化史系のコースを設け好評を博した。

ア. 開催事業

I 展示付帯事業

表(2) - 1 平成 27 年度開催事業

■学芸員による展示解説会(展覧会/定時)

延べ 507 名

	期日		講師	テーマ	参加者数
1	5月3日	日	藤井忠志	テーマ展「クマガラの世界」展示解説会	38
2	7月4日	土	瀬川修	企画展「商家の暮らし～花巻、佐藤家の衣食住～」展示解説会	14
3	8月3日	月, 臨時開館日			16
4	9月20日	日	丸山浩治	テーマ展「火山灰から社会をよむ—10世紀の巨大噴火と北東北—」展示解説会	18
5	10月17日	土			21
6	11月1日	日	八木勝枝(考古), 佐々木康裕(歴史), 川向富貴子(民俗), 小野寺俊彦(民俗), 望月貴史(地質), 渡辺修二(生物)	岩手県文化振興事業団プレゼンツ 岩手県立博物館移動展展示解説会	35
7	11月15日	日	丸山浩治	テーマ展「火山灰から社会をよむ—10世紀の巨大噴火と北東北—」展示解説会	21
8	1月23日	土	八木勝枝	特別展「発掘された日本列島」展示解説会	24
9			羽柴直人	特別展「海に生きた歴史」展示解説会	24
10	2月13日	土	八木勝枝	特別展「発掘された日本列島」展示解説会	73
11			羽柴直人	特別展「海に生きた歴史」展示解説会	73
12	2月27日	土	八木勝枝	特別展「発掘された日本列島」展示解説会	75
13			羽柴直人	特別展「海に生きた歴史」展示解説会	75

■特別展「海に生きた歴史」関連事業(移動展覧会と講座)

延べ 450 名

	期日		内容	参加者数
1	1月16日	土	特別展「海に生きた歴史」移動展示会と講座(講師: 八木勝枝・羽柴直人ほか)	32
	1月17日	日		29
2	1月30日	土	特別展「海に生きた歴史」移動展示会と講座(講師: 八木勝枝・羽柴直人ほか)、野田村考古学フォーラムⅢ	36
	1月31日	日		40
3	2月6日	土	特別展「海に生きた歴史」移動展示会と講座(講師: 八木勝枝・羽柴直人ほか)、宮古市遺跡調査報告会～海に生きた歴史～	31
	2月7日	日		60
4	2月20日	土	特別展「海に生きた歴史」移動展示会と講座(講師: 八木勝枝・羽柴直人ほか)	70
	2月21日	日		152

■解説員による定時解説 延べ243人

■解説員による依頼解説（随時／常設）

延べ2886人

月	成立回数	参加者数	対応時間(分)
4月	6	12	480
5月	13	29	990
6月	2	4	200
7月	8	11	610
8月	11	38	790
9月	6	11	395
10月	8	17	790
11月	7	16	575
12月	3	4	270
1月	10	34	885
2月	15	46	1135
3月	9	21	855
合計	98	243	7975

※平成25年度7月より、原則として毎日実施している。

実施日	参加者数	実施場所										講師	団体数	
		総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室				
		地質	考古	歴史	民俗	現勢・生物	考古	歴史	民俗	地質	生物			
4月	学校等	99	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	解説員	2
	一般	126	8	9	9	7	6	1	1	1	1	1		10
5月	学校等	167	0	0	2	2	0	0	1	1	0	0		3
	一般	39	5	4	4	3	3	0	0	0	0	0		6
6月	学校等	183	2	3	2	1	1	0	0	1	0	0		4
	一般	112	9	9	8	8	8	3	3	3	5	5		10
7月	学校等	235	6	6	7	3	4	0	0	0	1	1		9
	一般	70	5	5	6	6	5	0	0	2	0	0		7
8月	学校等	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0		1
	一般	74	8	8	12	10	9	3	3	3	4	4		13
9月	学校等	479	7	6	6	7	4	0	1	3	1	0		12
	一般	73	9	9	8	6	6	2	1	1	3	3		10
10月	学校等	357	3	4	4	6	3	0	0	5	0	0		9
	一般	137	8	8	6	5	5	1	1	1	3	2		9
11月	学校等	83	2	3	3	2	1	0	0	0	0	0		3
	一般	47	5	5	4	5	5	0	0	0	0	1		7
12月	学校等	283	1	0	1	3	0	0	0	3	0	0		4
	一般	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0		1
1月	学校等	31	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1
	一般	14	4	4	3	4	4	0	0	0	0	0		5
2月	学校等	83	1	2	2	3	1	0	0	0	0	0		5
	一般	111	9	10	10	9	8	1	0	0	5	5		11
3月	学校等	23	3	1	1	1	1	0	0	0	1	0		3
	一般	57	0	4	5	4	4	0	0	0	0	0		5
合計		2886	99	104	105	96	80	11	11	24	24	22	150	

■ガマ細工の実演 ※民俗部門 [瀬川]

期日	講師	備考
1 5月10日 日	阿部茂巳氏 [ボランティア]	平成26年度から民家活用の一環として実施した、旧佐々木家住宅でのガマ細工の実演、体験ワークショップ。11月は講師都合により中止。
2 6月14日 日		
3 7月12日 日		
4 8月9日 日		
5 9月13日 日		
6 10月11日 日		

■チャレンジ!はくぶつかん (全57回) ※学芸第二課 [望月]

延べ1,716名

期日	シート作成・運営等	テーマ	参加者数
1 4月11日 土	作成: 望月貴史 当番: 丸山浩治・望月貴史・総務課	動物 計、114名/28.5 (人/4日)	24
2 4月12日 日			35
3 4月18日 土			24
4 4月19日 日			31
5 5月9日 土	作成: 丸山浩治 当番: 齋藤里香・丸山浩治・総務課	形 計、132名/26.4	7
6 5月10日 日			35
7 5月16日 土			27
8 5月17日 日			63

	期日		シート作成・運営等	テーマ	参加者数
9	6月13日	土	作成：吉田充 当番：八木勝枝・吉田充・総務課	水 計、137名/34.2	25
10	6月14日	日			40
11	6月20日	土			33
12	6月21日	日			39
13	7月11日	土	作成：佐々木康裕 当番：望月貴史・佐々木康裕・総務課	人 計、172名/34.4	18
14	7月12日	日			30
15	7月18日	土			25
16	7月19日	日			42
17	7月20日	月・祝			57
18	8月8日	土	作成：望月貴史 当番：吉田充・望月貴史・総務課	虫 計、183名/36.6	26
19	8月9日	日			48
20	8月10日	月			31
21	8月15日	土			49
22	8月16日	日			29
23	9月12日	土	作成：齋藤里香 当番：佐々木康裕・齋藤里香・総務課	食 計、236名/33.7	20
24	9月13日	日			43
25	9月19日	土			32
26	9月20日	日			22
27	9月21日	月・祝			30
28	9月22日	火・祝			45
29	9月23日	水・祝			44
30	10月10日	土	作成：八木勝枝 当番：笠原雅史・八木勝枝・総務課	灰 計、148名/29.6	13
31	10月11日	日			41
32	10月12日	月・祝			43
33	10月17日	土			22
34	10月18日	日			29
35	11月14日	土	作成：笠原雅史 当番：八木勝枝・笠原雅史・総務課	星 計、135名	23
36	11月15日	日			28
37	11月21日	土			22
38	11月22日	日			29
39	11月23日	月・祝			33
40	12月12日	土	作成：望月貴史 当番：吉田充・望月貴史・総務課	植物 計、97名	21
41	12月13日	日			31
42	12月19日	土			14
43	12月20日	日			31
44	1月9日	土	作成：笠原雅史 当番：望月貴史・笠原雅史・総務課	さる 計、100名	28
45	1月10日	日			21
46	1月11日	月・祝			19
47	1月16日	土			10
48	1月17日	日			22
49	2月13日	土			作成：佐々木康裕 当番：齋藤里香・佐々木康裕・総務課
50	2月14日	日	34		
51	2月20日	土	28		

	期日		シート作成・運営等	テーマ	参加者数
52	2月21日	日			46
53	3月12日	土	作成：丸山浩治 当番：望月貴史・丸山浩治・総務課	鉄	24
54	3月13日	日			29
55	3月19日	土			15
56	3月20日	日			28
57	3月21日	月・祝			計、117名

※当館学芸員が毎月作成するワークシートの配布（4月・7月・8月は「かんたんコース」と2種作成）。今年度は13名の最優秀チャレンジャー（全12回のテーマに参加した皆勤賞、4回目3名、3回目4名、2回目1名、1回目5名）が誕生した。

■気軽にチャレンジ！はくぶつかん「クロスワードパズル」 ※学芸第二課 [笠原]

※当館学芸員作成のクロスワードパズルの配布

■展示資料解説「けんぱくものしりシート」 ※学芸第二課 [八木・解説員]

	発行日		シート作成者	テーマ
1	4月4日	土	小田嶋麻記子	民俗 氷冷蔵庫
2	5月2日	土	三河綾乃	現勢, 生物 アカウミガメ
3	6月6日	土	石川依子	体験学習室 アバトサウルス
4	7月4日	土	武田とも子	地質 蛇紋岩
5	8月1日	土	藤嶋マミ	考古 銚子復元模型
6	9月12日	土	畠香奈子	歴史 橋野高炉模型
7	10月3日	土	伊藤敦子	民俗 お刈り上げ
8	11月7日	土	草島千香子	現勢, 生物 ツキノワグマ
9	12月5日	土	川崎智子	体験学習室 竹トンボ
10	1月9日	土	那須優香子	地質 モササウルス類
11	2月6日	土	小田嶋麻記子	考古 貝塚
12	3月5日	土	齋藤菜穂美	歴史 鯨尾兜

※当館解説員が毎月作成する展示資料解説カードの配布。

■日めぐり博物館 ※学芸第二課 [丸山・解説員]

	SNS 掲載日		原稿作成者	テーマ
1	8月11日	火	解説員	馬の焼印
				大型土偶頭部
				モシリユウ
2	8月14日	金	解説員	かるた（体験学習室）
				囲炉裏
				イヌワシ
3	8月17日	月	解説員	盛岡城模型
				縄文時代の竪穴住居
				ハナイズミモリウシ
4	8月22日	土	解説員	箏（体験学習室）
				ハヤチネウスユキソウ
				千歯こき
5	8月25日	火	解説員	盛岡城の丸瓦
				石包丁
				日本最古のアンモナイト化石
6	8月29日	土	解説員	如意輪観音像
				細石刀
				明治時代のドレス（体験学習室）
				地形模型
				スネカ

※【平成 27 年度～】当館解説員によるツイッターを利用した情報発信。

■わんこきょうだい おもっちと記念撮影をしよう[全2回] ※考古部門担当 延べ 68 人

期日		運営等	
1	2月27日 土	丸山浩治、八木勝枝、羽柴直人	
2	2月28日 日		

※岩手県教育委員会生涯学習文化課の提案を受け特別展「発掘された日本列島 2015」関連事業として実施。

II 教育普及事業

■文化講演会 [1回] ※考古部門 [丸山] 担当 延べ 84 人

期日	講師	テーマ	参加者数	備考
11月3日	火 (祝) 能登健氏 [群馬大学講師]	災害考古学のゆくえ	84	※文化の日記念事業 ※東北文化の日関連事業

※【昭和 56 年度～】テーマ展「火山灰から社会をよむ—10 世紀の巨大噴火と北東北—」関連事業として実施。

■冬期文化講演会 [1回] ※地質部門担当 延べ 74 人

期日	講師	テーマ	参加者数	備考
2月5日	金 小笠原憲四郎氏 [筑波大学名誉教授]	新生代化石記録が語る過去 2000 万年間の岩手県の環境変動	74	※文化財等取扱講習会受講者を含む

※【昭和 62 年度～】文化財等取扱講習会関連事業として実施。次年度は 0 予算により廃止予定。

■北上川水源地域セミナー [1回] ※北上川ダム統合管理事務所共催/学芸第二課 [吉田] 担当 延べ 40 人

期日	講師	テーマ	参加者数
1月16日	土 渡辺修二	カワシンジュガイの県内生息状況とその生態について	40

※【平成 25 年度～】北上川ダム統合管理事務所との共催によるセミナー。H27 年度に四十四田ダム水源地域セミナーを北上川水源地域セミナーに改名した。当館は会場を提供し当日の運営補助を担当、職員が部門持ち回りで講師を務めている（第 1 回：地質部門、第 2 回：民俗部門）。

■コラボミュージアム講習会 [1回] ※生物部門 [鈴木] 担当 延べ 10 人

期日	講師	テーマ	参加者数	備考
10月10日	土 海老原淳氏 [国立科学博物館植物研究部研究員]	シダ植物同定会	10	国立科学博物館主催

※震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 盛岡「生物界の怪しい仲間たち—科博のコレクションから—」関連事業として実施。

■コラボミュージアム講演会 [1回] ※生物部門 [鈴木] 担当 延べ 10 人

期日	講師	テーマ	参加者数	備考
10月31日	土 北山太樹氏 [国立科学博物館植物研究部研究主幹]	海藻の怪しい生き方—ミルヤワカメにみる生活史の多様性—	10	国立科学博物館主催

※震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 盛岡「生物界の怪しい仲間たち—科博のコレクションから—」関連事業として実施。

■クマガラ生態写真展講演会 [1回] ※生物部門 [藤井] 担当 延べ 17 人

期日	講師	テーマ	参加者数	備考
8月15日	土 藤井忠志	白神山地とクマガラ	17	於、白神山地ビジターセンター ※外部助成

■iPS 細胞と再生医療市民講座 [1回] ※生物部門 [渡辺] 担当 延べ 88 人

期日	講師	テーマ	参加者数	備考
2月13日	土 松崎有未氏 [島根大学医学部教授] 八代嘉美氏 [京都大学 iPS 細胞研究所准教授]	iPS 細胞と再生医療「知ることから始めよう ～安全な再生医療実現化のために～」	88	日本再生医療学会と共催

■県博日曜講座 [全24回] ※学芸第二課 [丸山] 担当

延べ1,255人

	期日	講師	テーマ	参加者数	備考
1	4月12日	日 渡辺修二	岩手のカワシンジュガイの今とこれから	35	
2	4月26日	日 藤井忠志	クマガラ研究小史	85	※テーマ展開連事業
3	5月10日	日 佐々木勝宏氏 [岩手県立杜陵高等学校]	八戸藩士に選ばれた最初の27人	70	(歴史部門 (旧職員))
4	5月24日	日 黒尾正樹氏 [弘前大学農学生命科学部生物学科教授]	ミトコンドリアDNAを指標としたクマガラの遺伝的多様性の解析	37	(生物部門) ※テーマ展開連事業
5	6月14日	日 兼平賢治氏 [東海大学文学部講師]	南部家の歴史と由緒を重んじた藩主・南部利視	78	(歴史部門)
6	6月28日	日 望月貴史	生命史をひも解くーカンブリア紀ー	33	
7	7月12日	日 瀬川修	花巻・佐藤家の衣食住	31	※企画展開連事業
8	7月26日	日 中山敏 [当館館長]	エクスカージョン「花巻」～3コースから花巻を探る～	22	※企画展開連事業
9	8月9日	日 川向富貴子	幽霊のはなし	41	※博物館友の会話のサロンを兼ねる
10	8月23日	日 高橋信雄氏 [花巻市博物館館長]	花巻城下のくらしと文化	55	(民俗部門) ※企画展開連事業 ※民俗講座を兼ねる
11	9月13日	日 鎌田勉氏 [岩手県埋蔵文化財センター]	瓦からみた岩手の古代史～胆沢城から平泉～	33	(歴史部門 (旧職員))
12	9月27日	日 金子昭彦	岩手に「弥生文化」はなかった?	39	
13	10月11日	日 小野映介氏 [新潟大学教育学部准教授]	遺跡からみた火山活動と人々の応答	59	(考古部門) ※テーマ展開連事業
14	10月25日	日 丸山浩治	火山灰から社会をよむ	54	※テーマ展開連事業 ※博物館友の会話のサロンを兼ねる ※東北文化の日関連事業
15	11月8日	日 齋藤里香	享保の産物調査と盛岡藩	31	※東北文化の日関連事業
16	11月22日	日 吉田充	砂金の母岩をさぐる	41	
17	12月13日	日 志賀隆氏 [新潟大学教育学部准教授] 鈴木まほろ	日本の水草を調べる・分類する・守る 岩手県の植物相～分かったこと、分からないこと～	112	(生物部門) ※トピック展開連事業 ※13:30～16:00実施
18	12月27日	日 原田祐参	国体今昔物語ー明治神宮競技大会から国民体育大会へー	13	
19	1月10日	日 赤沼英男	たたら吹き製鉄から洋式高炉への道程ー橋野高炉の歴史的位置を考えるー	39	
20	1月24日	日 八木勝枝	海に生きた歴史①ー縄文・弥生ー	59	※特別展開連事業
21	2月14日	日 羽柴直人	海に生きた歴史②ー古代～近代ー	89	※特別展開連事業
22	2月28日	日 水ノ江和同氏 [文化庁文化財部記念物課]	東日本大震災と埋蔵文化財ー「発掘された日本列島2015」展を中心にー	71	(考古部門) ※特別展開連事業
23	3月13日	日 杉本伸一氏 [三陸ジオパーク推進協議会 上席ジオパーク推進員]	ジオパークで再発見! 三陸の魅力	44	(地質部門)
24	3月27日	日 笠原雅史	日本史の中の釜石鉾山	84	※特別展開連事業

※当館職員または外部講師による講演会。展覧会関連事業は展覧会広報の相乗効果によるものか参加者数が多い傾向にある。次年度は0予算。

■国際博物館の日記念事業 県博バックヤードツアー [1回] ※学芸第二課 [八木] 担当

延べ30人

期日	講師	テーマ	参加者数	備考
5月17日	日 学芸員	友の会自然コース	3	事前申込み制
		友の会歴史コース	4	
		一般自然コース	11	
		一般歴史コース	12	

※【平成16年度～】5月18日の国際博物館の日記念事業として実施。今年度から事前申込み制とした。また、今年度は新たに岩手県立博物館友の会を対象とするコースを設けた。

■古文書入門講座 [全6回] ※歴史部門 [笠原] 担当

延べ88人

期日		講師	演題	参加者数	備考
1	5月9日 土	笠原雅史	現在も見られる変体仮名 子供早学問	15	事前申込み制 (申込数16)
2	5月10日 日		子供早学問 扁旁冠脚のくずし方	14	
3	5月16日 土		子供早学問	13	
4	5月17日 日		書館定	15	
5	5月23日 土		書館定	15	
6	5月24日 日		三閉伊百姓一揆安心帰村南部弥六郎印判状	16	

■伝統芸能鑑賞会

延べ80人

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
6月21日	日	花巻市・倉沢人形歌舞伎保存会	倉沢人形歌舞伎	80	

※【平成14年度～】企画展「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」関連事業として花巻市の民俗芸能を上演。

■民俗講座 [1回] ※民俗部門 [川向] 担当

延べ55人

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
8月23日	日	高橋信雄氏 [花巻市博物館館長]	花巻城下のくらしと文化	55	※県博日曜講座を兼ねる

※【平成12年度～】企画展「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」関連事業として実施。

■笛の会 [1回] ※篠笛山口流一門/歴史部門 [齋藤] 担当

延べ93人

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
4月29日	水・祝	篠笛山口流	笛の会～名笛「田鶴子」に寄せて～	75	
		齋藤里香	展示解説	18	

■考古学セミナー [全2回] ※考古部門 [丸山] 担当

延べ75人

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
1	9月26日 土	考古部門 [丸山浩治・羽柴直人・八木勝枝] ほか	現地見学会	26	事前申込み制 ※岩手県北観光主催
2	10月17日 土	早田勉氏 [栲火山灰考古学研究所 所長]	講演	49	

※テーマ展「火山灰から社会をよむ—10世紀の巨大噴火と北東北—」関連事業として実施。旅行業法関係法規の改正を受けて現地見学会は岩手県北観光主催事業として実施した。

■自然観察会 [全2回] ※生物部門 [渡辺・鈴木] 担当

延べ41人

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
1	6月28日 日	千葉武勝氏 [当館研究協力員]	第69回自然観察会「昆虫観察会 外山森林公園」	16	事前申込み制
2	9月27日 日	藤井忠志 [当館学芸部長] 福士功治氏 [森吉山ガイド]	第70回自然観察会「名瀑を訪ねる一クマゲラの森を行く— 秋田県森吉山」	25	事前申込み制 ※岩手県北観光主催

※旅行業法関係法規の改正を受けて第70回自然観察会は岩手県北観光主催事業として実施。

■地質観察会 [全2回] ※地質部門 [吉田・望月] 担当

延べ67人

	期日		講師	テーマ	参加者数	備考
1	7月5日	日	大石雅之氏 [当館研究協力員]	第69回地質観察会「網取の地質観察とイワシ化石採集」	37	事前申込み制
2	10月11日	日	土谷信高氏 [岩手大学教育学部教授]	第70回地質観察会「大船渡付近のカンプリア紀～白亜紀にわたる火成岩類」	30	事前申込み制

■博物館館園実習 [全7日] ※学芸第二課 [齋藤] 担当

延べ49人

	期日		講師	演題	参加者数	備考
1	8月20日	木	中山敏館長	①実習にあたって	7	
			齋藤里香 (実習担当)	②岩手県立博物館概要説明		
			齋藤里香 (実習担当)	③施設見学		
			藤井忠志学芸部長	④講義「地方博物館の使命と役割」		
2	8月21日	金	赤沼英男・金子昭彦 (文化財科学)	①環境保全・資料保存の実務	7	文化財レスキュー作業ほか
			草島千香子解説員	②展示解説の実務		
			三河綾乃解説員	常設展示展示解説会		
			伊藤聡美 (総務課)	③博物館管理業務の実務		
3	8月22日	土	齋藤里香 (学芸第二課)	①博物館展示の実務	7	テーマ展展示作業ほか
			羽柴直人・八木勝枝・丸山浩治 (考古)	②展示・資料整理の実務		
4	8月23日	日	齋藤里香・原田祐参・佐々木康裕・笠原雅史 (歴史)	①展示・資料整理の実務	7	普及事業 (たいけん教室・民俗講座) 運営ほか
			齋藤里香 (学芸第二課)	②博物館教育普及の実務		
			齋藤里香・原田祐参・佐々木康裕・笠原雅史 (歴史)	③展示・資料整理の実務		
5	8月25日	火	原田祐参 (学芸第一課)	①博物館事業広報の実務	7	企画展撤収作業ほか
			小野寺俊彦・瀬川修・川向富貴子 (民俗)	②展示・資料整理の実務		
6	8月26日	水	鈴木まほろ (学芸第三課)	①博物館資料管理の実務	7	くん蒸準備作業ほか
			藤井忠志・鈴木まほろ・渡辺修二 (生物)	②展示・資料整理の実務		
			吉田充学芸第二課長	③博物館教育普及の実務		
7	8月27日	木	齋藤里香 (学芸第二課)	①博物館教育普及・事業広報の実務	7	博物館まつり広報印刷物発送作業ほか
			吉田充・望月貴史 (地質)	②展示・資料整理の実務		
			藤井忠志学芸部長	③実習終了にあたって		

■文化財等取扱講習会 [全3日] ※岩手県博物館等連絡協議会共催/学芸第三課 [小野寺] ほか担当

延べ113人

	期日		講師・担当	演題	参加者数	備考
1	2月3日	水	吉田充	【共通】文化財資料取扱概論 (30分)	38	文化財資料と博物館資料
			赤沼英男	【共通】文化財資料管理～保存環境～ (60分)		資料の生物学的劣化からの防除、適切な温湿度管理方法ほか
			鈴木まほろ	【共通】文化財資料管理～資料登録とその他の手続き～ (45分)		資料登録とデータベース化、寄贈・借受け等の手続き

	期日	講師・担当	演題	参加者数	備考	
1	2月3日	吉田充	【共通】文化財資料取扱い～自然史系資料：地質資料の取扱い～ (30分)		基礎知識に関する講義と実技	
		鈴木まほろ	【共通】文化財資料取扱い～自然史系資料：生物資料の取扱い～ (30分)		基礎知識に関する講義と実技	
2	2月4日	日本通運㈱・笠原雅史・齋藤里香・原田祐参・佐々木康裕	【初級】文化財資料取扱い～人文系資料：古美術資料の取扱い～ (90分)	38	基礎知識に関する講義と実技	
			【初級】文化財資料取扱い～人文系資料：資料梱包の実務～ (90分)		基礎知識に関する講義と実技	
		鈴木まほろ・金子昭彦	【実践】バックヤード見学 (60分)		資料管理の状況、文化財害虫・カビ対策等の実際を視察	
		鈴木まほろ	【実践】文化財資料取扱い～自然史系資料：取扱い実技～ (60分)		自然史標本の取扱い実務	
		鈴木まほろ	【実践】情報交換・事例検討会 (60分)		受講者相互による資料管理に関わる情報交換や事例検討	
		日本通運㈱	【共通】文化財取扱い実技指導 (120分)		基礎知識に関する講義と実技	
		原田祐参・笠原雅史・佐々木康裕	【初級】文化財資料取扱い～人文系資料：歴史資料の取扱い～ (75分)		基礎知識に関する講義と実技	
		鈴木まほろ	【実践】情報交換・事例検討会 (75分)		受講者相互による資料管理に関わる情報交換や事例検討	
3	2月5日	金	丸山浩治	37	基礎知識に関する講義と実技	
			瀬川修		基礎知識に関する講義と実技	
			瀬川修		基礎知識に関する講義と実技	
			鈴木まほろ		【実践】災害と文化財ワークショップ	大規模災害に備えた資料管理について、取り組み、意見交換
			小野寺俊彦(司会進行)・藤井忠志・千葉勝美・赤沼英男・金子昭彦・八木勝枝・丸山浩治・齋藤里香・原田祐参・瀬川修・鈴木まほろ		【共通】意見交換会	受講者から提供された話題についての質疑応答
			小笠原憲四郎氏[筑波大学名誉教授]		【共通】冬期文化講演会 13:30-15:00 新生代化石記録が語る過去2000万年間の岩手県の環境変動	第一人者による講演会

※平成26年度より文化財の取扱いに習熟した学芸第三課員と部門代表の学芸員(小野寺俊彦、金子昭彦、吉田充、鈴木まほろ、丸山浩治、齋藤里香)が館内から選出され企画運営を行っている。

【参加者の所属】盛岡市9名、山田町3名、奥州市5名、一関市3名、一戸町2名、釜石市2名、住田町2名、大槌町2名、北上市2名、宮古市1名、雫石町2名、花巻市1名、金ケ崎町1名、洋野町1名、岩手町1名、久慈市1名

■第7回岩手県立博物館まつり ※学芸第二課〔笠原〕

延べ1,545人

期日		講師ほか	テーマ	参加者数	備考
10月4日	日	総括：笠原	各種ワークショップほか	1,545	※総合受付者数（一般473、子ども1,072）

※【平成20年度～】体験コーナー（勾玉づくり、化石のレプリカづくり、土版づくり、石臼ひき、昔あそび、缶バッジづくり、たんけん！岩石園・植物園）のほか、県立岩泉高等学校による中野七頭舞の公演を行った。また、体験学習室では通常のハンズオン資料に加え、教材貸出用の平安時代装束「小桂」を活用した。開催周知に係る印刷物は盛岡教育事務所管内とその周辺へ全校生徒配布したほか、その他の小学校へも周知の協力を依頼した。岩手県文化振興事業団自主事業。

■たいけん教室～みんなのためそう～〔全52回〕 ※学芸第二課〔解説員〕担当

延べ1,946人

	期日	講師ほか	テーマ	参加者数	内訳
1	4月5日	日 解説員	3Dメガネで万華鏡	38	子ども21、保護者17
2	4月12日	日 解説員	化石のレプリカ	35	子ども19、保護者16
3	4月19日	日 解説員	オリジナル卵をつくろう【H26～プログラム】	40	子ども22、保護者18
4	4月26日	日 解説員	こいのぼりス	28	子ども16、保護者12
5	5月3日	日 解説員	こはくの玉づくり【有料500円】	49	子ども27、保護者22
6	5月10日	日 解説員	ばねのキツツキおもちゃ	33	子ども19、保護者14
7	5月17日	日 解説員	スライムであそぼう	50	子ども28、保護者22
8	5月24日	日 解説員	まが玉アクセサリ	49	子ども27、保護者22
9	5月31日	日 解説員	チャグチャグ馬コづくり	37	子ども21、保護者16
10	6月7日	日 解説員	チャグチャグ馬コづくり	33	子ども20、保護者13
11	6月14日	日 解説員	草花のそめもの	40	子ども25、保護者15
12	6月21日	日 解説員	手づくり万華鏡	43	子ども25、保護者18
13	6月28日	日 解説員	のびちちみしゃくとり虫	48	子ども27、保護者21
14	7月5日	日 木藤古徳一郎氏・解説員	木の工作教室	35	子ども19、保護者16
15	7月12日	日 解説員	石のオリジナルはんこ	39	子ども24、保護者15
16	7月19日	日 解説員	ちぎり絵のうちわ	50	子ども27、保護者23
17	7月26日	日 解説員	こはくの玉づくり（午前の部）【有料500円】	46	子ども26、保護者20
18			こはくの玉づくり（午後の部）【有料500円】	50	子ども26、保護者24
19	8月2日	日 解説員	ちぎり絵のうちわ（午前の部）	46	子ども24、保護者22
20			ちぎり絵のうちわ（午後の部）	46	子ども26、保護者20
21	8月9日	日 解説員	スライムであそぼう（午前の部）	43	子ども25、保護者18
22			スライムであそぼう（午後の部）	40	子ども24、保護者16
23	8月16日	日 解説員	化石のレプリカ	39	子ども22、保護者17
24	8月23日	日 解説員	砂絵	31	子ども20、保護者11
25	8月30日	日 解説員	手づくり万華鏡	48	子ども25、保護者23
26	9月13日	日 佐藤克英氏・解説員	竹トンボ	45	子ども23、保護者22
27	9月20日	日 解説員	恐竜ぬりえカード	23	子ども11、保護者12
28	9月27日	日 解説員	ほのぼのあかり【H26～プログラム】	7	子ども4、保護者3
29	10月11日	日 解説員	こはくの玉づくり【有料500円】	38	子ども22、保護者16
30	10月18日	日 解説員	葉っぱのカラフルカード	21	子ども11、保護者10
31	10月25日	日 解説員	ふしぎなビー玉おもちゃ	20	子ども10、保護者10
32	11月1日	日 解説員	手づくり万華鏡	35	子ども21、保護者14
33	11月8日	日 解説員	土器づくり	40	子ども22、保護者18

	期日		講師ほか	テーマ	参加者数	内訳
34	11月15日	日	解説員	石から絵の具をつくろう	42	子ども25、保護者17
35	11月22日	日	解説員	たこづくり	42	子ども25、保護者17
36	11月29日	日	解説員	松ぼっくりのXmas ツリー	47	子ども28、保護者19
37	12月6日	日	解説員	まゆで干支(申)づくり	35	子ども22、保護者13
38	12月13日	日	飯坂真紀氏・解説員	ごんげんさまのカスタネット	36	子ども20、保護者16
39	12月20日	日	解説員	松ぼっくりのXmas ツリー	36	子ども22、保護者14
40	12月27日	日	解説員	かんたん門松づくり	39	子ども22、保護者17
41	1月10日	日	解説員	みずきだんご	33	子ども21、保護者12
42	1月17日	日	解説員	まゆで干支(申)づくり	41	子ども24、保護者17
43	1月24日	日	解説員	縄文人のイヤリング【H27 新規プログラム】	9	子ども4、保護者5
44	1月31日	日	解説員	石のオリジナルはんこ	41	子ども25、保護者16
45	2月7日	日	解説員	土版づくり	38	子ども20、保護者18
46	2月14日	日	解説員	ほかほかカイロ	14	子ども8、保護者6
47	2月21日	日	解説員	こはくの玉づくり【有料500円】	45	子ども24、保護者21
48	2月28日	日	解説員	おひなさまづくり【H27 新規プログラム】	25	子ども14、保護者11
49	3月6日	日	解説員	化石のレプリカ	32	子ども17、保護者15
50	3月13日	日	解説員	手づくり万華鏡	40	子ども23、保護者17
51	3月20日	日	解説員	まが玉アクセサリー	46	子ども30、保護者16
52	3月27日	日	解説員	スライムであそぼう	40	子ども23、保護者17

※【昭和56年度～】当館解説員と3名の外部講師(必要に応じて学芸職員がプログラム関連資料の出納や解説、テキスト作成・工作の助言指導、記録撮影等の補助、工作材料の入手を行う)による小学生対象ワークショップ。定員はプログラムごとに20～30名の範囲内で設定。今年度から児童生徒利活用促進のため夏季休業期間中のプログラムを午前午後の2回実施した。今年度は原価の高いプログラム(チャグチャグ馬コづくり・手づくり万華鏡・ごんげんさまのカスタネット)と、材料入手が難しいプログラム(はまぐりのおひなさま)の見直しを図り、特に「ごんげんさまのカスタネット」の木材加工は博学連携の一環として新たに岩手県立盛岡峰南高等支援学校へ委託した。また、材料費が高騰した「こはくの玉づくり」に限り実費500円を徴収したが、参加者数の増減に大きな影響はなかった。次年度から0予算となるため、全面有料化となる。

■冬休みワクワク!ワークショップ ※学芸第二課[解説員]担当 延べ212人

期日	講師	テーマ	参加者数	備考
12月23日	水・祝 工作指導: 解説員 学習指導: 望月貴史 受付: 吉田充・齋藤里香	化石のレプリカ(アンモナイト・三葉虫 /石膏)、まが玉ネックレス(樹脂粘土)	212	※各プログラム定員100名 ※アンケートはこどものみ実施

※【平成24年度～】当館解説員による幼児～小学生向けワークショップ。過去3回は平日の2日間実施したが、今年度は祝日の1日開催とした。また、今年度の化石のレプリカはアンモナイトと三葉虫の2種類の型取りを用意した。

■冬の写生会 ※総務課[伊藤]担当 延べ28人

	期日	テーマ	参加者数	備考
1	12月19日(土)～1月17日(日)	写生会	28	
2	1月23日(土)～2月14日(日)	展示会	0	

※【平成18年度～】当館から見える景色やマメンキサウルス等の展示資料を描いた作品を募集。指定管理者主催により実施した。岩手県文化振興事業団自主事業。展示会の参加者数は入館料免除申請のあった作品応募者とその家族の人数。今年度は同時期に県内在住の児童生徒を対象とした「特別展 発掘された日本列島2015」招待状を配付したため(県教育委員会実施)実数の把握ができなかった。

■ミュージアムシアター [全11回] ※学芸第二課[八木]担当

延べ587人

	期日	運営	テーマ	参加者数	備考
1	4月4日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：齋藤里香・八木勝枝	■世界遺産シリーズ～白神山地 ブナ林と動植物の豊かなつながり～《20分/実録》 ■本州のクマゲラ《21分/実録》 ■クマタカ 舞う空の下で～北上山地・クマタカとヒト共生の物語《35分/実録》	58	※テーマ展開連事業 対象：中学生～ 内訳：高校生以下2、その他56
2	5月2日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：望月貴史・八木勝枝	■くまのがっこう（くまのがっこう/ジャッキーのじてんしゃりょこう/ジャッキーのパンやさん/ジャッキーのおせんたく）《40分/アニメ》 ■ぐるんぱのようちえん（ぐるんぱのようちえん/クリーナお婆さんとカミナリお婆さん）《30分/アニメ》	59	対象：幼児～ 内訳：高校生以下31、その他28
3	6月6日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：佐々木康裕・丸山浩治	■風の又三郎《30分/アニメ》 ■狼森とざる森、ぬすと森《19分/アニメ》 ■注文の多い料理店《23分/アニメ》	58	対象：小学生～ 内訳：高校生以下14、その他44
4	7月4日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：丸山浩治・川向富貴子	■雨月物語《97分/モノクロ映画》	33	対象：一般 内訳：高校生以下0、その他33
5	8月1日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：笠原雅史・川向富貴子	■名探偵コナン 古代恐竜の謎に迫れ！《16分/アニメ+実録》 ■名探偵コナン 縄文体験やってみよう！《16分/アニメ+実録》 ■自然なぜなに？DVD 図鑑 カブトムシ～昆虫の王者～《22分/実録》 ■自然なぜなに？DVD 図鑑 クワガタムシ～大きなあごの戦士～《22分/実録》	62	対象：小学生～ 内訳：高校生以下37、その他25
6	10月3日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：八木勝枝	■火山災害を知る《25分/実録》 ■火山との共生～岩手山防災を考える～《25分/実録》 ■菅江真澄の旅 岩手編～いではみちの奥見にまからん～《43分/実録》	33	※テーマ展開連事業 対象：一般 内訳：高校生以下1、その他32
7	11月7日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：川向富貴子	■宮沢賢治作品 グスコープドリの伝記《85分/アニメ》	40	※テーマ展開連事業 ※上映素材の不具合により中止 対象：小学生～ 内訳：高校生以下17、その他23
8	12月5日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：笠原雅史・佐々木康裕	■ミッキーマウスの楽しい冬《10分/アニメ》 ■サンタさんは大いそがし《12分/アニメ》 ■ミッキーマウスのメリークリスマス《30分/アニメ》 ■くまのいしやさん すてきなコンサート《23分/アニメ》	97	対象：幼児～ 内訳：高校生以下51、その他46
9	1月9日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：佐々木康裕・川向富貴子	■なかよしおぼけ（おぼけパーティ/おぼけとカミナリの夜/いたずらっこスタンリー/おぼけ砂漠へ行く/アンリとお風呂のアワ/おぼけの時間旅行）《42分/アニメ》 ■ばけものづかい（とうふこぞう/ゆうれいのたまご/ばけものづかい）《26分/アニメ》 ■ぞくぞく村のおバケたち（妖精レロレロ/とうめい人間サムガリー）《40分/アニメ》	70	対象：幼児～ 内訳：高校生以下36、その他34
10	2月6日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：佐々木康裕・吉田充	■福は内！鬼は外！《11分/アニメ》 ■鬼がら《27分/アニメ》 ■新しい赤おに《20分/アニメ》 ■おにたのぼうし《18分/アニメ》	22	対象：幼児～ 内訳：高校生以下11、その他11
11	3月5日	土 映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：吉田充・川向富貴子	■こつなぎ 山を巡る百年物語《120分/実録》	55	対象：一般 内訳：高校生以下1、その他54

※【平成14年度～】盛岡教育事務所中央地域視聴覚ライブラリーとの共催による映画会。映写は16ミリ映写機操作技術講習会修了証を有するライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」が担当した。映像素材は、主として岩手県内のライブラリ

ー（江刺・千厩・大船渡・北上）や岩手県防災センターから借用した。11月7日の回については、貸与を受けた16mmフィルムの劣化による不具合が認められたため途中で上映を中止した。なお、平成17年度から完全無償で当事業をご支援いただいている映写ボランティア「シネマ友の会」が、当館でのボランティア活動10年を迎えたことを記念し感謝状を贈呈した。

■岩手県植物誌調査会 [全24回] 生物部門 [鈴木] 担当

延べ286人

	期日		講師	参加者数
1	4月4日	土	鈴木まほろ	21
2	4月18日	土		17
3	5月4日	月		6
4	6月6日	土		11
5	6月13日	土		6
6	8月8日	土		8
7	9月19日	土		8
8	10月16日	金		12
9	10月17日	土		8
10	10月24日	土		17
11	11月7日	土		5
12	11月13日	金		12
13	11月14日	土		8
14	11月21日	土		13
15	12月12日	土		24
16	12月13日	日		30
17	12月19日	土		9
18	12月26日	土		9
19	1月9日	土		8
20	1月16日	土		10
21	1月30日	土		13
22	2月20日	土		15
23	3月5日	土		16
24	3月26日	土		10

■県博出前講座 ※学芸第二課 [丸山] 担当

延べ291人

	期日		派遣職員	依頼者 [主催者]	内容	テーマ	対象	参加者数	備考
1	5月12日	火	羽柴直人 丸山浩治	北上市立南小学校	授業	6学年社会科「大陸に学んだ国づくり」	小学6年生	125	於、北上市立南小学校6学年4クラス対象
2	7月22日	水	渡辺修二	岩手県立久慈高等学校自然科学部	授業	水生生物調査方法の指導	高校1・2年生	15	於、岩手県立久慈高等学校周辺の久慈川
3	8月2日	日	鈴木まほろ	滝沢市環境課所管たきざわ環境パートナー会議	授業	「岩手の帰化植物」	小学生・一般	20	於、滝沢市相ノ沢キャンプ場・春子谷地
4	8月5日	水	渡辺修二	岩手県立久慈高等学校自然科学部	授業	水生生物調査方法の指導	高校1・2年生	—	於、岩手県立久慈高等学校周辺の久慈川
5	8月31日	月	渡辺修二	盛岡市立太田小学校	授業	水生生物調査	小学4年生	23	於、盛岡市猪去沢

6	11月11日	水	渡辺修二	岩手大学附属小学校	授業	5学年かつら組学級総合「救え！絶滅危惧種」	小学5・6年生	17	於、岩手大学附属小学校5・6年かつら組教室
7	1月22日	金	中山敏	岩手県立盛岡第二高等学校	授業	盛岡町歩き	高校3年生進路決定者	91	於、岩手県立盛岡第二高等学校

※当館が児童生徒対象事業を実施する教育機関に限り講師派遣に係る実費を負担したものの。

Ⅲ 講演会・講座に係る職員派遣

延べ128人

	期日	派遣職員	依頼者〔主催者〕		テーマ	対象	参加者数	備考
1	半期	水 赤沼 英男	岩手大学	講義	博物館資料保存論(全15回)	大学生	26	於、岩手大学非常勤講師委嘱
2	7月7日 7月14日	火 鈴木まほろ	岩手大学	講義	博物館実習(全2回)	大学生	13	於、岩手大学
3	半期	水 齋藤 里香	岩手大学	講義	博物館展示論(全15回)	大学生	24	於、岩手大学非常勤講師委嘱
4	半期	水 赤沼 英男	盛岡大学	講義	博物館資料保存論(全16回)	大学生	43	於、盛岡大学非常勤講師委嘱
5	5月18日	月 望月 貴史 川向 富貴子	岩手県立平舘高等学校	博学連携	家政科学科選択授業(当館体験学習室用ハンズオンドレス制作プロジェクト)	高校生	7	於、平舘高等学校二宮柊子氏・経沢洋美氏(服飾デザイナー)同行
6	11月30日	月 川向 富貴子	岩手県立平舘高等学校	博学連携	家政科学科選択授業(当館体験学習室用ハンズオンドレス制作プロジェクト)	高校生	9	於、平舘高等学校二宮柊子氏・経沢洋美氏(服飾デザイナー)同行
7	1月7日	木 川向 富貴子	岩手県立平舘高等学校	博学連携	家政科学科選択授業(当館体験学習室用ハンズオンドレス制作プロジェクト)	プロジェクトメンバー	4	於、竣工房
8	2月3日	水 中山敏 川向富貴子	岩手県立平舘高等学校	博学連携	家政科学科選択授業(当館体験学習室用ハンズオンドレス制作プロジェクト)	高校生	71	於、平舘高等学校二宮柊子氏・経沢洋美氏(服飾デザイナー)同行

※依頼者が講師派遣に係る実費を負担したものの。または共同プロジェクトとして実施したものの。

イ. 学校教育との連携

(ア) 博物館展示等を活用した学習利用の受け入れ

今年度の教育機関の来館状況は、下記のとおりである。合計で106校(昨年130校)、3947人(昨年5446人)が来館した。高等学校を除く全校種で、利用校数が前年度を下回り、利用者数も減少に転じた。全国的な児童生徒数の減少傾向との相関関係が推測される一方、教材貸出など、児童生徒が直接来館しなくても利用できるサービスの充実なども背景として考えられる。

表(2) - 2 平成27年度学習利用状況一覧

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
小学校	1	4月30日	岩手県	小	八幡平市立大更小学校	校外研修	4	59	63
	2	5月1日	岩手県	小	盛岡市立東松園小学校	社会科見学	3	38	41
	3	5月28日	宮城県	小	名取市立那智が丘小学校	修学旅行	5	49	54
	4	6月3日	岩手県	小	奥州市立梁川小学校	遠足	2	13	15
	5	6月11日	宮城県	小	仙台市立舘小学校	修学旅行	7	90	97
	6	6月11日	岩手県	小	岩泉町立小本小学校	修学旅行	7	19	26
	7	6月11日	宮城県	小	大和町立鶴巣小学校	修学旅行	4	13	17
	8	6月12日	宮城県	小	気仙沼市立九条小学校	修学旅行	5	62	67
	9	6月25日	宮城県	小	仙台市立台原小学校	修学旅行	7	99	106
	10	6月26日	岩手県	小	盛岡市立大新小学校	社会科見学	4	79	83

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
小学校	11	7月3日	岩手県	小	一関市涌津小学校	修学旅行	3	29	32
	12	9月11日	宮城県	小	大崎市立敷玉小学校	修学旅行	3	16	19
	13	9月11日	岩手県	小	滝沢市立滝沢東小学校	校外学習	3	50	53
	14	9月17日	宮城県	小	気仙沼市立階上小学校	修学旅行	5	39	44
	15	9月17日	秋田県	小	鹿角市立十和田小学校	校外学習	4	51	55
	16	9月17日	岩手県	小	盛岡市立羽場小学校	校外学習	2	36	38
	17	9月18日	岩手県	小	奥州市立南都田小学校	校外学習	3	32	35
	18	9月25日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	校外学習	3	46	49
	19	9月29日	岩手県	小	盛岡市立城内小学校	校外学習	1	5	6
	20	9月29日	岩手県	小	盛岡市立津志田小学校	校外学習	6	134	140
	21	9月29日	岩手県	小	盛岡市立青山小学校	校外学習	4	87	91
	22	9月30日	岩手県	小	盛岡市立中野小学校	校外学習	4	97	101
	23	9月30日	岩手県	小	久慈市立久慈湊小学校	校外学習	2	28	30
	24	10月2日	岩手県	小	奥州市立若柳小学校	校外学習	2	24	26
	25	10月9日	岩手県	小	盛岡市立山王小学校	校外学習	2	24	26
	26	10月16日	岩手県	小	釜石市立釜石小学校	校外学習	4	38	42
	27	10月22日	岩手県	小	盛岡市立山岸小学校	校外学習	6	110	116
	28	10月27日	岩手県	小	二戸市立中央小学校	校外学習	3	46	49
	29	10月28日	岩手県	小	紫波町立彦部小学校	校外学習	2	2	4
	30	10月28日	岩手県	小	滝沢市立滝沢第二小学校	校外学習	5	81	86
	31	10月30日	岩手県	小	紫波町立佐比内小学校	社会科見学	1	7	8
	32	11月6日	岩手県	小	滝沢市立一本木小学校	校外学習	2	27	29
	33	11月12日	岩手県	小	八幡平市立柏台小学校	校外学習	2	4	6
	34	11月13日	岩手県	小	盛岡市立松園小学校	見学及び体験学習	4	59	63
	35	11月20日	岩手県	小	陸前高田市立竹駒小学校	社会科見学	4	13	17
	36	12月4日	岩手県	小	滝沢市立鶴飼小学校	社会科見学	7	159	166
	37	12月9日	岩手県	小	盛岡市立杜陵小学校	総合的な学習	1	1	2
	38	12月16日	岩手県	小	盛岡市立城南小学校	校外学習	4	72	76
	39	12月18日	岩手県	小	盛岡市立都南東小学校	校外学習	8	31	39
	40	2月19日	岩手県	小	滝沢市立滝沢東小学校	校外学習	2	37	39
	41	2月19日	岩手県	小	盛岡市立生出小学校	校外学習	2	16	18
	42	3月1日	岩手県	小	盛岡市立山岸小学校	校外学習	2	7	9
	合計						154	1929	2083

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
中学校	1	4月21日	岩手県	中	久慈市立長内中学校	校外研修	3	33	36
	2	5月12日	秋田県	中	横手市立平鹿中学校	校外学習	10	103	113
	3	5月26日	青森県	中	八戸市立下長中学校	校外学習	1	16	17
	4	5月26日	青森県	中	弘前市立第二中学校	校外学習	1	12	13
	5	6月30日	宮城県	中	栗原市立金成小・中学校	研修	1	5	6
	6	7月2日	岩手県	中	紫波町立紫波第三中学校	職場体験	0	1	1
	7	7月2日	岩手県	中	滝沢市立姥屋敷中学校	職場体験	0	1	1
	8	7月7日	岩手県	中	宮古市立第二中学校	自主研修	0	5	5
	9	7月8日	岩手県	中	盛岡市立北松園中学校	職場体験	0	1	1
	10	7月10日	岩手県	中	北上市立北上北中学校	校外学習	4	28	32
	11	7月28日	岩手県	中	洋野町立大野中学校	校外学習	5	48	53
	12	8月11日	岩手県	中	奥州市立前沢中学校	研修	1	27	28

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
中学校	13	8月21日	岩手県	中	盛岡市立黒石野中学校	職場体験	0	1	1
	14	8月25日	東京都	中	学習院中等科 地学部	校外学習	2	42	44
	15	9月26日	岩手県	中	軽米町立軽米中学校	校外学習	1	29	30
	16	9月29日	岩手県	中	岩泉町立安家中学校	校外学習	4	4	8
	17	9月29日	岩手県	中	花巻市立花巻中学校	校外学習	9	163	172
	18	9月29日	岩手県	中	久慈市立夏井中学校	校外学習	3	19	22
	19	9月30日	岩手県	中	一戸町立小鳥谷中学校	職場体験	0	2	2
	20	10月14日	岩手県	中	岩手県立一関第一高等学校附属中学校	自主研修	0	7	7
	21	11月12日	岩手県	中	盛岡市立城西中学校	職場体験	0	1	1
合計						45	548	593	

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
高等学校	1	5月26日	岩手県	高	岩手県立西和賀高等学校	校外学習	19	106	125
	2	5月30日	岩手県	高	岩手県立久慈高等学校 自然科学部	校外学習	2	15	17
	3	7月3日	岩手県	高	岩手県立高田高等学校	校外学習	2	84	86
	4	7月31日	岩手県	高	岩手県立平舘高等学校	校外学習	1	2	3
	5	7月31日	岩手県	高	岩手県立盛岡第二高等学校	校外学習	2	8	10
	6	7月31日	岩手県	高	岩手県立宮古高等学校	校外学習	1	39	40
	7	10月29日	岩手県	高	岩手県立岩泉高等学校	校外学習	3	41	44
	8	11月20日	岩手県	高	岩手県立大槌高等学校	校外学習	2	74	76
	9	2月12日	岩手県	高	第一学院高等学校盛岡校	校外学習	2	9	11
9						合計	34	378	412

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
大学・専門学校	1	4月11日	岩手県	大	岩手大学人文社会科学部国際文化過程	新入生研修	5	85	90
	2	5月30日	青森県	大	弘前大学教育学部	研修	1	21	22
	3	6月6日	岩手県	大	いわて学講座	講義	2	24	26
	4	9月19日	山形県	大	山形大学	実習	3	28	31
	5	9月30日	岩手県	大	岩手大学	インターンシップ	0	1	1
	6	9月30日	岩手県	大	盛岡大学	インターンシップ	0	1	1
	7	10月2日	岩手県	大	盛岡公務員法律専門学校	インターンシップ	0	5	5
	8	10月4日	岩手県	大	岩手大学	博物館まつりボランティア	0	1	1
	9	11月4日	岩手県	大	岩手大学	見学	0	21	21
合計						11	187	198	

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
特別支援学校	1	7月22日	岩手県	特	岩手県立青松支援学校	見学	1	1	2
	2	10月16日	岩手県	特	岩手県立青松支援学校	見学	2	3	5
	3	2月5日	岩手県	特	岩手県立青松支援学校	見学	1	4	5
	4	2月25日	岩手県	特	岩手県立盛岡視覚支援学校	見学	5	5	10
	5	2月26日	岩手県	特	岩手県立青松支援学校	見学	2	4	6
	6	2月26日	岩手県	特	岩手県立青松支援学校	総合的な学習	1	1	2
	7	3月15日	岩手県	特	盛岡峰南高等支援学校	校外学習	3	9	12
合計						15	27	42	

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
保育園	1	4月3日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	見学	2	21	23
	2	7月23日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	4	13	17
	3	7月31日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	3	23	26
	4	8月25日	岩手県	保	一本木保育園	園外学習	2	11	13
	5	10月29日	岩手県	保	巻堀児童館	園外学習	3	16	19
	6	10月30日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	4	33	37
	7	1月14日	岩手県	保	わかば保育園	園外学習	4	35	39
	8	1月29日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	4	32	36
	9	2月18日	岩手県	保	わかば保育園	園外学習	2	18	20
合計						28	202	230	

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
幼稚園	1	5月21日	岩手県	幼	北上市立江釣子幼稚園	遠足	14	90	104
	2	6月9日	岩手県	幼	盛岡大学附属松園幼稚園	園外学習	7	26	33
	3	6月12日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	3	21	24
	4	7月16日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	12	42	54
	5	7月23日	岩手県	幼	盛岡三育幼稚園	園外学習	3	18	21
	6	11月6日	岩手県	幼	みどりが丘幼稚園	見学	2	5	7
	7	1月13日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外保育	2	17	19
	8	1月21日	岩手県	幼	盛岡白百合学園幼稚園	園外学習	3	28	31
	9	3月8日	岩手県	幼	青葉幼稚園	遠足	5	91	96
合計						51	338	389	

平成 27 年度		※下見を含まない				
	県内	秋田	宮城	青森	他	合計
特	7					7
小	34	1	7			42
中	16	1	1	2	1	21
高	9					9
大	7			1	1	9
幼	9					9
保	9					9
合計	91	2	8	3	2	106校

述べ 3947 人

(イ) 教材貸出

昨年度は 5 件 27 点の貸出を行ったが、今年度は 11 件 54 点の貸出を行った。内訳は下のとおりである。特に今年度は高等学校への貸出が増加したほか、NPO 法人への貸出を通じて小学校の授業で活用されるといった事例もあった。例年は考古資料や小学校「社会科」の「昔の暮らし」で活用が可能な炭火アイロンや電話機、洗濯板など民俗資料の他、平安時代の衣装（水干、小桂、白拍子装束）、模造刀などが人気であり、この傾向は今年度も同様であった。

表（2）－3 平成 27 年度の教材貸出一覧

貸出日	貸出先	点数	資料
4/21	岩手県立杜陵高等学校定時制	7	石器 土器片
4/23	岩手県立杜陵高等学校定時制	6	弥生土器 石包丁 土師器 須恵器
4/30	岩手県立杜陵高等学校定時制	3	土師器 須恵器 三角縁神獸鏡レプリカ

貸出日	貸出先	点数	資料
5/16	岩手県立青松支援学校	5	縄文土器 押し葉しおり 化石レプリカ はんこセット ちぎり絵うちわ
6/25	岩手県立杜陵高等学校定時制	1	時代装束
7/10	盛岡白百合学園高等学校	1	時代装束
7/27	岩手県立北上翔南高等学校	14	火おこし器(3) 縄文のアクセサリ類 縄文時代の石器類(10)
10/3	岩手県立杜陵高等学校定時制	2	模造刀(2)
12/15	NPO法人未来図書館 ※滝沢市立滝沢第二小学校の 授業で使用	6	石臼 炭火アイロン 洗濯板 金だらい ランプ 電話機
2/9	盛岡白百合学園小学校	4	炭火アイロン 電話機 そろばん ランプ
2/12	NPO法人未来図書館 ※岩手町立沼宮内小学校の授 業で使用	5	石臼 ランプ 金だらい 洗濯板 わらぐつ

ウ. 職場体験・インターンシップ

24年度から中学校の職場体験への申し込みが増加し、今年度は9件14名の申込があった。(26年度は9件19名)また、今年度は岩手県立大学、岩手大学、盛岡大学の三大学連携インターンシップの一環で岩手大学から1名、盛岡大学から1名の学生が5日間のインターンシップに参加した。さらに盛岡公務員法律専門学校から5名の学生が3日間のインターンシップに参加したことは目新しい点である。

表(2) - 4 平成27年度実施職場体験参加校一覧

実施日時	所属校	人数	体験内容
7/2~3	紫波町立紫波第三中学校	1	資料整理
7/3	滝沢市立姥屋敷中学校	1	資料整理
7/8~9	盛岡市立北松園中学校	1	資料整理
8/21	盛岡市立黒石野中学校	1	資料整理
9/30~10/1	一戸町立小鳥谷中学校	2	資料整理
9/30~10/4	岩手大学	1	資料整理、チャレンジはくぶつかん問題作成、博物館まつり対応
9/30~10/4	盛岡大学	1	資料整理、チャレンジはくぶつかん問題作成、博物館まつり対応
10/2~4	盛岡公務員法律専門学校	5	資料整理、博物館まつり対応
11/12	盛岡市立城西中学校	1	資料整理

表(2) - 5 平成27年度実施教職10年研修ボランティア受け入れ先一覧

実施日	所属校	人数	研修内容
10/4	岩手町立沼宮内小学校	1	博物館まつりボランティア
10/4	岩手県立盛岡第三高等学校	5	博物館まつりボランティア
10/4	岩手県立花巻農業高等学校	1	博物館まつりボランティア
10/4	盛岡市立高等学校	2	博物館まつりボランティア
合 計		9	

エ. 問合わせ受付

日常的に学芸員が対応する問合わせについて、集計を行っている。計画されている事業にかかわるものや外部研究者等との日常的な連絡以外、対応したすべての事項となっている。質問等は多岐にわたっており、即答で済む場合や回答に相当期間を要する場合など内容によってさまざまである。調査研究に係わるものも含んでいる。

表（２）－６ 平成 27 年度問合わせ受付状況

部門	件数	問合わせ方法	件数	主な対応内容
地質	41	来館	18	金山跡出土石臼の使用法 展示中の恐竜化石について
		電話	21	地質観察会について 化石鑑定 砂金 石の鑑定 十府ヶ浦の小豆砂の供給源
		FAX、メール、手紙、その他	2	地質観察会について 岩洞湖周辺の金採掘跡について
生物	128	来館	15	この羽は？ 写真に撮ったキノコの同定依頼 標本閲覧 環境アセス関係ヒアリング
		電話	44	クマゲラの写真パネルを送って欲しい ビデオ映像の鳥の同定 キジバトが卵を産んだ 黒い白鳥を見た 庭に生えて来た植物の同定 希少な植物の盗掘を防ぎたい
		FAX、メール、手紙、その他	69	写真に撮った植物の同定依頼 原稿校閲依頼 論文査読 環境アセス関係ヒアリング
考古	6	来館	1	旧石鳥谷町内出土の動物形土製品の所在について 土偶について
		電話	3	発掘調査の方法を教えて欲しい 製鉄遺跡について 土偶について
		FAX、メール、手紙、その他	2	土偶が出しているという滝ノ又遺跡の場所を教えてほしい 小田島禄郎の船久保洞穴調査について
歴史	65	来館	16	古文書の内容、絵画の作者
		電話	39	鉄瓶の産地、刀剣の処分・取扱い、仏像の種類、絵銭、鯰尾兜の由来
		FAX、メール、手紙、その他	10	館蔵品常設展示の有無、絵画の処分
民俗	145	来館	15	明治時代の商工人名録 文化財の修復方法 厨川稲荷神社 岩手県内の金山 生菓 えんぶり 答礼人形
		電話	120	郷土史家小島舜一氏 お盆の習わしの分布 ヤセウマ 蓑虫山人の宮城での足跡 文化財関係の写真 江戸時代の地獄図の所在 中内神楽詞章 神子舞の映像 佐々木藍田関係資料所在 猿にまつわる館蔵資料 岩手県のコッペパン文化 スネカ
		FAX、メール、手紙、その他	10	虫の供養塔の県内分布 盛岡藩力士の初代・錦木 江刺県 田中正造 盛岡藩絵師
文化財科学	37	来館	0	
		電話	33	被災資料修復状況に関する視察 松園小学校被災体験内容確認 青い目の人形の公開時期について
		FAX、メール、手紙、その他	4	修復館視察について ミス岩手の里帰りについて 被災文化財(木材)の脱塩について
合計	422			

(3) 調査研究活動

調査研究活動は、博物館の展示活動、教育普及活動等を展開するうえでの基幹活動に位置づけられる。学芸員が取り組む研究テーマは、小テーマ、小テーマを包括する大テーマに区分され、それぞれのテーマに従い研究が行われた。一部の研究テーマについては研究協力員、他機関に所属する研究者と共同で進められた。年度末には「館内調査研究報告会」が実施され、全学芸員から平成 27 年度の研究進捗状況、研究成果が報告された。また、一定の成果が得られた研究については『岩手県立博物館研究報告』第 33 号、『岩手県立博物館調査研究報告書』第 32 冊・33 冊のほか、学会、学術雑誌、各種報告書等で公表された。上記研究テーマの中には、外部機関の助成

金を受け進められたものもあった。考古学部門では岩手県 s 教育委員会からの委託による前平泉文化の研究を、文化財科学部門では外部機関から申請された研究受託を実施した。

ア. 調査研究活動の概要

地質部門 3 テーマ、生物部門 6 テーマ、考古部門 5 テーマ、歴史部門 5 テーマ、民俗部門 4 テーマ、文化財科学部門 7 テーマで調査研究活動が推進された。

表(3)-1 平成 27 年度 調査研究テーマとその実施状況

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
地質	地域地質に関する研究 A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	望月貴史 吉田充	一関市・奥州市にまたがる大鉢森山周辺の金属鉱床調査を行った。本地域には泥質～砂質片岩・超塩基性岩類で構成される母体変成岩類が分布し、本岩類を給源とする金の母岩を調査し、資料分析を行った。九戸町周辺のマンガン鉱山調査を行った。二戸市の門ノ沢層から産出するノジュールの調査をし、採取した標本を国立科学博物館コラボミュージアムに展示して、教育普及を図った。
	地域地質に関する研究 B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	吉田充 望月貴史	和賀仙人付近に分布する菱内層の岩相を調べた。平泉町の西側に位置する和山丘陵内で更新世降下火山灰の露頭調査を行った。北上市の菱内層や竜ノ口層から産出する魚・貝化石や植物化石を調べるとともに、同地域で地質観察会を行い、これまでの研究で明らかになってきたことについて教育普及を行った。
	古生物学的研究	古生代および中生代に関する古生物学的研究	望月貴史	釜石市・大船渡市に分布するデボン系中里層・千丈ヶ滝層から産出する植物・腕足動物化石の調査を行った。 一関市藤沢町大籠の上部ペルム系千松層の化石調査を行い、分類のわからない化石標本の採集を行った。 これらの研究で採集した標本の一部を、平成 28 年度企画展で展示するために準備を進めた。
生物	地域生態系の研究	北東北三県のブナ林を中心とした森林生態系の生物相に関する研究	藤井忠志 鈴木まほろ 渡辺修二	弘前大学農学生命科学部と共同研究を進めている国内クマガラの mt. DNA の解析結果から、新たな展開を迎えているところである(藤井)。 岩手県植物誌調査会と合同で、西和賀町真昼岳及び滝沢市岩手山のブナ林を含む地域で網羅的な植物相調査を実施し、標本を採集した(鈴木)。 県内のクモ相解明のために、全般的な分布調査を開始した。数種の県内初記録となるクモを採集した。(渡辺)
	日本産鳥類の生態学的研究	北東北三県における本州産クマガラ個体群の生息状況およびその生態に関する研究	藤井忠志	当初予算のほか、一般財団法人セブン-イレブンみどりの保護基金からの助成も得て、秋田県森吉山・白神山地等を主なフィールドに調査したが、森吉では雄 1 個体のみの確認だけで、繁殖活動は確認できなかった。白神山地では、新規の痕跡を確認したものの、1 個体も確認できなかった。しかし新たな情報として、岩手県千厩地区での目撃例や愛媛県宇和島での確認情報、そして白神での有力な生息地情報を得た。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
生物	国内および県内における鳥類分布に関する研究	岩手県産の鳥相に関する研究	藤井忠志	岩手県において詳細な報告がなかったカンムリカイツブリ <i>Podiceps cristatus</i> の繁殖活動を 2013 年以来、渡邊治氏とともに連続観察し、27 年度研究報告に掲載の運びとなっている。また、本県において初記録と思われるノハラツグミ <i>Turdus pilaris</i> の観察記録を、現在、滝沢市ネイチャーセンターとともに、とりまとめ中である。本県初記録種として、岩手県産鳥類目録・珍鳥詳細記録に追加した。
	地域の生物分布と生態に関する研究	岩手県内における生物分布と生態に関する研究	渡辺修二	岩泉町龍泉洞にて、未知であったアッカホラヒメグモのオスを採集した。 岩手県で報告例の少ないホソハンミョウを当館敷地内で採集した。 木賊川、おぼけ沢でカワシンジュガイの殻長調査を行い、これらの河川で数年以内に再生産が行われていることを確認した。また、木賊川では、工事予定地がカワシンジュガイ繁殖にとって重要な場所であることを示唆するデータを得た。
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする生態系に関する研究	鈴木まほろ	県内で行った植物調査の結果、記録された絶滅危惧種について、場所・個体数などを県自然保護課へ報告した。中でも東北地方初記録となるフォーリーガヤについては、詳細な現地調査と標本調査を行い、結果を短報として「植物研究雑誌」に投稿した（印刷中）。早池峰山小田越登山道においてニホンジカによる植物の食痕を調査し、結果を東北森林管理局や県自然保護課などに報告した。また、岩手・宮城・福島の津波浸水域の湿地に出現した植物相について網羅的文献調査を行い、分析結果を論文として専門書 J.
				Urabe and T. Nakashizuka (eds), Ecological impacts of tsunamis on coastal ecosystems: Lessons from the Great East Japan Earthquake (Springer) に投稿し、概要を普及書『生態学が語る東日本大震災』（文一総合出版）に分担執筆した（3 月刊行）。また、さらに分析を進めた結果を日本生態学会第 63 回大会でポスター発表した（3 月、於仙台市）。
				岩手県植物誌調査会と合同で、県内 7 箇所で開催された植物相調査を行った。また、当館所蔵の植物標本をもとに、標本の有無を種ごと・市町村ごとに示したチェックリストを作成し、将来の『岩手県植物誌』改訂に備えた。東北植物研究会・岩手県植物誌調査会と合同で、トピック展「東北の押し葉標本」を開催し、これらの成果を展示した。
	考古	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護、研究のあゆみ	羽柴直人 八木勝枝 丸山浩治
先史時代の考古学的研究		縄文時代集落の研究	八木勝枝	岩手県沿岸部の縄文時代遺跡の集成を行った。その成果は『海に生きた歴史』展・県博日曜講座等で公表した。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
考古	歴史時代の考古学的研究	古代集落の研究	丸山浩治	北東北における9世紀後半～10世紀の社会変動を十和田・白頭山両火山噴火を機軸に検討し、その成果をテーマ展、県博日曜講座等で公表した。
		平泉文化についての研究	羽柴直人 八木勝枝 丸山浩治	比爪館跡北西部の詳細測量調査を行い、比爪館跡の構造解明の基礎資料を作成した。平成23年度～27年度の前半平泉文化調査研究の成果を収めた調査研究報告書を刊行した。
		中・近世の考古学的研究	羽柴直人	久慈市昼場沢遺跡出土の「阿弥陀三尊鏡像」について凶化をおこない、『海に生きた歴史』展において速報として展示をおこなった。
歴史	古代～中世史の研究	古代・中世における岩手と中央政治との関係に関する研究	佐々木康裕	・南北朝時代における三戸南部氏の動向について、論点を整理した上で、諸資料に基づいて考察した。
	近世史の研究	盛岡藩政の研究	原田祐参	・「盛岡藩毛馬内御境目文書」の一部について翻刻し、検討を行った。
	前近代における美術工芸の研究（古美術）	藩政期の美術工芸の研究	齋藤里香	・享保期に盛岡藩領内で行われた産物調査に関する史料を調査し、成果の一部を県博日曜講座等で公表した。 ・盛岡藩絵師川口月嶺一門の作品及び明治維新後の動向等を調査し、成果の一部を研究報告第33号で公表した。
	近代・現代史の研究	明治・大正期の岩手県についての研究	笠原雅史	・橋野鉄鋌山および大島高任について関連資料、関連地、文献等の調査を継続し、成果の一部を特別展および日曜講座等で公表した。
昭和期の商業芸術についての研究		原田祐参	・当館寄託資料である荒川文助の作品群等の変遷の過程を考察した。	
民俗	有形民俗資料に関する研究	漆に関連する生業及び用具に関する研究	瀬川修	・浄法寺塗菓子盆について、器形・図柄・塗などの特徴を検討し、文献調査及び所有者との意見交換を行った。また、その成果を調査研究報告書第32冊にまとめた。 ・浄法寺塗及び岩手の民芸に関する歴史的経緯を文献調査した。
		岩手の民具一般に関する基礎研究	小野寺俊彦 瀬川修 川向富貴子	・藁細工や農具に関して資料調査及び文献調査を行った。（小野寺） ・文化学園服飾博物館等が所蔵する明治時代半ばのドレス様式や生地（文様）に関する事例を集積した。その成果は、県立平館高等学校との連携で実施した体験学習室ハンズオン資料ドレスの制作に反映させた。（川向） ・東京都公園協会が所蔵する長岡安平史料群及び盛岡市・南昌荘庭園を再現し、当館金田一コレクション中の庭園設計図の位置づけを検討した。（川向） ・県内所在の幽霊画に関するデータ収集を行い、その成果を県博日曜講座及び友の会通信で公表した。（川向）

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
民俗	有形民俗資料に関する研究	岩手の民具一般に関する基礎研究	小野寺俊彦 瀬川修 川向富貴子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本助産師会岩手県支部寄贈資料群の分類を行った。また、国立公文書館が所蔵する史料から近代岩手の出産環境を示すデータを集積した。(川向) ・岩手における糧切りの流通を明らかにするため盛岡市都南歴史民俗資料館所蔵資料の調査を行い製作販売元等のデータを集積した。(前年度からの継続・川向)
	無形民俗資料に関する研究	岩手の無形民俗一般に関する基礎研究	小野寺俊彦 瀬川修 川向富貴子	<ul style="list-style-type: none"> ・葬制の変遷に関する民俗学の文献調査を行った。(小野寺) ・昭和の農村の生活に関する資料調査及び文献調査を行った。(小野寺) ・岩手の芸能及びまつりに関して、情報を収集しましたその一部を記録した。(瀬川) ・岩手を代表する郷土料理 17 品目の事例を集成し、その成果を基に展示用複製資料を製作した。(川向) ・国の記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財記録作成事業の予備調査として、石鳩岡神楽(花巻市東和町)の神社奉納を実見し記録撮影と聞き取りを行った。また、石鳩岡神楽と同じく岳神楽系統とされる中内神楽(花巻市東和町)関係古書と伝えられる当館所蔵資料の情報収集を行った。(川向)
	民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	瀬川修	<ul style="list-style-type: none"> ・展示民家の屋根の現状に基づき、今後の補修計画及び方法について検討した。
文化財科学	文化財の保存環境に関する研究	省エネを意識した文化財の湿度環境保全方法の開発	赤沼英男 金子昭彦	収蔵庫、展示場フローア・ケース内に温湿度記録計(データロガ)を設置し、施設内温湿度変動に関する調査を実施し、公開承認施設に求められる温湿度基準値の維持に努めた。
	文化財の製作技法に関する研究	前近代の鉄製文化財の製作技法に関する研究	赤沼英男	関東・東北地方・北海道の遺跡から出土した鉄器の金属考古学的調査結果の集成を進め、前近代の鉄・鉄器生産技術の変遷と原料鉄及び製品鉄器流通の変遷解明を図るための基礎資料作成を進めた。
		前近代の非鉄金属文化財の製作技法に関する研究	赤沼英男	これまでに実施した列島内出土銭貨の集成を進め、地金の組成に形態に基づく分類結果をまとめ、中世から近世の銭貨流通の変遷解明を図るための基礎資料作成を進めた。
	文化財の製作技法に関する研究	土製文化財の製作技法に関する研究	金子昭彦 赤沼英男	土偶関連遺物についての研究を『研究報告』第 33 号に掲載した。トルコ共和国カマン・カレホユック遺跡前期青銅器時代出土資料の文化財科学的調査結果をまとめ、その成果を第26回トルコ調査研究会(東京都、2015. 2. 29)で発表した。
前近代における彩色・塗膜技法に関する研究		赤沼英男	中世に大陸から伝来した漆工芸品とほぼ同時代に比定される列島内出土漆器の下地調整技法を調査し、その特徴をまとめ、大陸から舶載された漆器と列島内で製作された漆器の識別方法の確立を図った。成果の一部を保存修復学会(東京都、2015. 6. 17)で報告した。	

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
文化財科学	文化財の保存修復に関する研究	土製文化財の保存処理方法の研究	金子昭彦 赤沼英男	研究の前提として保存処理方法について学習した。
		海水損資料の安定化処理法および抜本修復法に関する研究	赤沼英男 金子昭彦	海水損した紙を素材とする資料、木製民俗資料の安定化処理方法確立を図り、被災資料に適応した。成果の一部を第32回文化財科学会(奈良市、2015.7.11)で発表し、併せて、東京国立博物館等と連携し昨年度出版したガイドブック『安定化処理』の改訂版で報告した。東京芸術大学、福井県歴史博物館、名古屋市博物館で開催したワークショップで成果の一部を公表し、一般の理解を深めた。

表(3)-2 調査研究活動に関わる製作・同定・借り上げ

部門	事業名	内容
地質	岩石鉱物薄片製作	一関市東山町の夏山川支流越後沢で採集した岩石資料について、偏光顕微鏡観察用薄片10枚を製作した。
生物	植物等標本同定	蘚苔類標本17点を関太郎氏(広島大学名誉教授)に同定していただいた。
文化財科学	X線構造解析	遺跡出土天然鉱石中に存在する鉱物の同定を委託した。
	マイクロスコープ借り上げ	文化財表面観察用デジタルマイクロスコープをリースし、文化財の表面観察およびデジタル画像撮影を行った。

イ. 館内調査研究報告会

日時：平成28年3月7日(月)9:30~15:15

会場：講堂

I 個別調査研究

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ①大島高任の見解の変遷 | 笠原 雅史 |
| ②岩手県内のスポーツ関連資料の現状について | 原田 祐参 |
| ③中世の南部氏に関する基礎的考察 | 佐々木康裕 |
| ④明治維新後の川口月嶺一門の動向 | 齋藤 里香 |
| ⑤長岡安平銘「庭園設計図」 | 川向富貴子 |
| ⑥浄法寺塗菓子盆の製作年代について | 瀬川 修 |
| ⑦「田山村の生活」について | 小野寺俊彦 |
| ⑧亀形土製品は亀なのか | 金子 昭彦 |
| ⑨被災紙資料の新たな劣化要因について | 赤沼 英男 |
| ⑩南部北上帯に分布する中～上部デボン系化石の再調査 | 望月 貴史 |
| ⑪母体変成岩類と金 | 吉田 充 |
| ⑫未知であったアッカホラヒメグモ雄の採集 | 渡辺 修二 |
| ⑬岩泉町におけるフォーリーガヤとヤチスギナの発見 | 鈴木まほろ |
| ⑭国立科学博物館所蔵の川口孫治郎採集クマゲラ仮剥製標本について | 藤井 忠志 |
| ⑮テフラからみた北東北の社会変動—9世紀後半～10世紀— | 丸山 浩治 |
| ⑯岩手県沿岸部の縄文時代遺跡について | 八木 勝枝 |
| ⑰久慈市出土の阿弥陀三尊鏡像 | 羽柴 直人 |
- (*⑮～⑰は紙上発表)

ウ. 調査研究成果の公表

(ア) 「岩手県立博物館研究報告」第33号

(A4判・82頁・600部・平成28年3月25日発行)

藤井忠志・渡邊 治「岩手県御所湖におけるカンムリカイツブリの初繁殖」1～5ページ

後藤友明・渡辺修二・藤井千春「岩手県水産技術センターから岩手県立博物館に移管された岩手県産魚類標本目録」7～16ページ

玉山光典「沼宮内耕作氏変形菌コレクション」17～24ページ

小野哲也・赤沼英男・目時和哉・熊谷賢・小杉山大輔「前近代の北方社会における鉄器流通実態の解明(2)」25～40ページ

金子昭彦「東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物(1)」41～58ページ

齋藤里香「盛岡藩士船越長善(月江)の足跡」59～74ページ

(イ) 「岩手県立博物館調査研究報告書」

「岩手県立博物館調査研究報告書第32冊 浄法寺塗菓子盆」

(電子ブック、40ページ相当、ウェブ公開。平成28年3月1日発行)

本書は26年度テーマ展「漆絵のデザイン」の展示解説書をもとに再構成したものである。菓子盆に描かれた漆絵を分類し、できるだけ多くの資料を掲載したものである。資料は当館が所蔵する「泉山コレクション」に、二戸市浄法寺支所うるし振興室及び二戸市浄法寺歴史民俗資料館が所蔵するコレクションを加えたものを使用した。今後研究が進み、菓子盆や漆器の産地が特定されることを願うものである。

「岩手県立博物館調査研究報告書 第33冊 前平泉文化関連遺跡調査報告」

(A4判・106頁・500部 平成28年3月25日発行)

当館考古部門では、岩手県教育委員会の委託により平成12年度から奥州藤原氏に関連した遺跡の考古学調査を実施してきた。今回、平成23年度から平成27年度までの当該事業の調査研究の成果をまとめ、岩手県立博物館調査研究報告書第33冊「前平泉文化関連遺跡調査報告書」として刊行した。

23年度陸前高田市越戸内経塚発掘調査、24年度紫波町弥勒地経塚測量調査、25～27年度紫波町比爪館跡測量調査の成果をまとめた報告書である。

(ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作

a. 口頭発表等

- 丸山浩治：考古学的手法を用いた火山災害研究—10世紀の巨大噴火と東北地方北部における人間活動—。考古学研究会第61回研究集会，2015年4月19日，岡山大学
- 丸山浩治：考古学から考える十和田火山平安噴火の影響。蝦夷研究会第69回研究会，2015年6月20日，岩手大学
- 武田昭子・赤沼英男*・松本達哉・土谷信高：東日本大震災で被災した堆朱食籠の調査と修復。文化財保存修復学会第37回大会，2015年6月28日，京都繊維大学
- 武田昭子・赤沼英男*・熊谷賢：陸前高田市立博物館所蔵被災写真資料の安定化处理。日本文化財科学会第32回大会，2015年7月11日，東京学芸大学
- 武田昭子・赤沼英男*・土谷信高・明珍素也・佐々木喜之：東日本大震災で被災した平安時代仏像の調査と修復。東アジア文化遺産国際保存国際シンポジウム，2015年8月27日，奈良春日野国際フォーラム麓
- 望月貴史：カンブリア紀の爆発的進化と生痕化石。青森県地学教育研究会総会・講演会，2015年9月20日，青森県立郷土館
- 赤沼英男：被災文化財を守る—陸前高田からの視点—。日本文化財科学会主催公開講演会『文化遺産と科学』「被災文化財を守る—陸前高田からの視点—」，2015年9月20日，陸前高田市コミュニティーセンター

- ・ R. Hirayama, T. Takisawa, K. Sasaki, T. Sonoda, M. Yoshida, A. Takekawa, S. Mitsuzuka, Y. Kobayashi, T. Tsuihiji, Y. Tsutsumi, M. Manabe, R. Matsumoto, N. Kusuhashi, T. Kato, Y. Takakuwa, S. Miyata, H. Ando, M. Oishi, T. Mochizuki*, M. Okura and Y. Yamaguchi. "Fossil vertebrates from the Late Cretaceous (Turonian) of Iwate Prefecture, eastern Japan" SVP 75th Annual Meeting, Dallas, Texas, USA, October, 2015.
- ・ 金子昭彦：江坂輝弥『土偶』以降 晩期. 第13回土偶研究会, 2016年1月16日, 慶應義塾大学
- ・ 千葉武勝・渡辺修二*: 博物館の標本からキタキチョウの生活史を考える. 岩手虫の会, 2016年2月21日
- ・ 赤沼英男：カマン・カレホユック遺跡前期青銅器時代遺跡出土資料の文化財科学的解析. 第26回トルコ調査研究会, 2016年2月29日, 学習院大学創立百周年記念館
- ・ 鈴木まほろ：東北地方の津波浸水域に出現した湿生・水生植物相の特徴. 日本生態学会第63回全国大会, 2016年3月24日, 仙台国際センター

b. 論文・報文

- ・ 丸山浩治(2015)考古学的手法を用いた火山災害研究—10世紀の巨大噴火と東北地方北部における人間活動—. 考古学研究, (62-2):43-55.
- ・ 金子昭彦(2015)大洞C2式期・大型遮光器系列土偶の編年. 古代, (137):1-34.
- ・ 金子昭彦(2015)縄文土偶・用途研究の現状と課題. 縄文時代, (26):161-182.
- ・ 金子昭彦(2015)縄文土偶の終わり. 考古学研究, (62-2):56-77.
- ・ 金子昭彦(2016)大滑車状・湯沢系列土製耳飾の分類. 岩手考古学, (27):19-36.
- ・ 金子昭彦(2016)東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物(1). 岩手県立博物館研究報告, (33):41-58.
- ・ 金子昭彦(2016)東北地方・縄文晩期の土偶(6). (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要, (35):21-44.
- ・ 金子昭彦(2016)瘤付土器に伴う土偶の系列. 青森県考古学, (24):印刷中.
- ・ 鈴木まほろ・片山千賀志・小守一男・酒井涼子(2016)岩手県における第2のセイヨウグンバイヅルの産地. 岩手植物の会会報, 51・52:90-91.

c. 新聞その他の著作

- ・ 金子昭彦「男と女の間には一遮光器の眼(1)ー」泥人形第4号(青森県成田滋彦氏私家本) 2015年4月吉日
- ・ 藤井忠志「土曜博物館 クマゲラ 幻の鳥ブナの森に追う」読売新聞岩手版 2015年6月6日
- ・ 鈴木まほろ「土曜博物館 ブナ 数年に一度たくさんの花」読売新聞岩手版 2015年6月13日
- ・ 渡辺修二「土曜博物館 カワシンジュガイ 子孫育たず進む『高齢化』」読売新聞岩手版 2015年6月20日
- ・ 望月貴史「土曜博物館 ペルム紀の地層 絶滅の跡」読売新聞岩手版 2015年6月27日
- ・ 吉田充・望月貴史「平成26年度岩手県立博物館第67回地質観察会報告会『一戸町の根反川沿いの珪化木地帯を歩く』」岩手の地学 第45号:88-89 2015年6月
- ・ 望月貴史・吉田充「平成26年度岩手県立博物館第68回地質観察会報告会『ペルム紀の陸前高田市の海の生物を観る』」岩手の地学 第45号:90-91 2015年6月
- ・ 吉田充「土曜博物館 鳴き砂 歴史伝えるミクロの世界」読売新聞岩手版 2015年7月4日
- ・ 八木勝枝「土曜博物館 遮光器土偶 高額落札『お宝』化に不安」読売新聞岩手版 2015年7月18日
- ・ 羽柴直人「土曜博物館 蓮華形磬 『日爪』の権力示す遺物か」読売新聞岩手版 2015年8月1日
- ・ 瀬川修「土曜博物館 資料収集 残したい寄贈者の思い」読売新聞岩手版 2015年8月8日
- ・ 佐々木康裕「土曜博物館 歴史への招待 文献の背景的確に把握を」読売新聞岩手版 2015年8月15日
- ・ 原田祐参「土曜博物館 道中日記 江戸時代の『旅行ガイド』」読売新聞岩手版 2015年8月22日
- ・ 笠原雅史「土曜博物館 橋野高炉跡 製鉄携わる人々結集の象徴」読売新聞岩手版 2015年9月5日
- ・ 齋藤里香「土曜博物館 鯨尾兜と槍 武将交流カッコよく伝える」読売新聞岩手版 2015年9月12日
- ・ 川向富貴子「土曜博物館 ドレス 明治の仕立て高校生が制作」読売新聞岩手版 2015年9月19日

- ・丸山浩治「土曜博物館 火山灰 10世紀の噴火地層に痕跡」読売新聞岩手版 2015年9月26日
- ・小野寺俊彦「土曜博物館 ミノとケラ わら細工の呼称地域で違い」読売新聞岩手版 2015年10月3日
- ・金子昭彦「土曜博物館 縄文土偶 立てない人型像お守り？」読売新聞岩手版 2015年10月10日
- ・赤沼英男「土曜博物館 津波被害 措置措置で修復青い目の人形」読売新聞岩手版 2015年10月17日
- ・藤井忠志「土曜博物館 クマゲラの巣 快適空間他の鳥獣に人気」読売新聞岩手版 2015年11月7日
- ・鈴木まほろ「土曜博物館 震災後の植物 土中の危惧種が発芽か」読売新聞岩手版 2015年11月14日
- ・原田祐参「土曜博物館 金沢御山大盛之図 鉱山で働く姿を伝える」読売新聞岩手版 2015年11月21日
- ・渡辺修二「土曜博物館 意外な発見 公園で珍しい生物」読売新聞岩手版 2015年11月28日
- ・望月貴史「土曜博物館 生痕化石 動物が生きた証」読売新聞岩手版 2015年12月5日
- ・佐々木康裕「土曜博物館 秀衡と頼朝 『東鑑』が示す政治関係」読売新聞岩手版 2015年12月12日
- ・津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会・赤沼英男・鈴木まほろ(編)『安定化処理～大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト～ 2015改訂版』pp. 271 2015年12月
- ・丸山浩治「土曜博物館 細石刃 幅数ミリの規格品量産」読売新聞岩手版 2016年1月9日
- ・八木勝枝「土曜博物館 甲塚古墳の埴輪 被葬者は機織り担う？」読売新聞岩手版 2016年1月16日
- ・羽柴直人「土曜博物館 仏教文化研究の重要資料 最北の鏡像」読売新聞岩手版 2016年1月23日
- ・望月貴史「カンブリア紀の生活スタイルの多様化を生痕化石から解く」青森地学No.61:1-3 2016年1月
- ・吉田充「土曜博物館 砂金 北上山地の石英脈を調査」読売新聞岩手版 2016年2月6日
- ・齋藤里香「土曜博物館 日本名山図会 増補で追加二つの岩手山」読売新聞岩手版 2016年2月13日
- ・瀬川修「土曜博物館 民家 昔の暮らし身近に体験」読売新聞岩手版 2016年2月20日
- ・金子昭彦「土曜博物館 土偶 年代推定特徴からの比較」読売新聞岩手版 2016年3月5日
- ・川向富貴子「土曜博物館 複製品 学芸員監修の二次資料」読売新聞岩手版 2016年3月19日
- ・鈴木まほろ「津波後の湿地によみがえった花」日本生態学会東北地区会編『生態学が語る東日本大震災－自然界に何が起きたのか－』文一総合出版:138-143 2016年3月

エ. 研究受託実施状況

文化財を自然科学的方法で調査することによって、内部構造、材質、製作技法、劣化状況等に関する客観的情報を得ることができる。得られた情報を整理し、後世に長く伝えるための保存修復方法の構築と実践が行われ、同時に過去の物質文化交流を解明するための研究が進められる。文化財を自然科学的方法で調査し保存修復を施し、歴史の解明の手がかりとなる学術情報を提供している機関は全国的にみてもきわめて少ない。

岩手県立博物館では調査研究成果の還元と学術情報の一層の収集を目的として、平成2年度から文化財の自然科学的調査・保存修復に関する研究受託を実施している。平成24年度からは東日本大震災で被災した文化財の安定化処理および修理を開始した。平成27年度の研究受託実施実績は表(3)－3に示すとおりである。一連の研究を通して得られた学術情報に、人文社会科学の研究成果を重ね合わせ、文化財の保存に取り組むとともに、失われた過去を解明するうえでの基礎資料となる学術情報の発信に努めている。

表(3)－3 平成27年度研究受託実施実績状況

受託内容	件数	委託機関
紙製資料の科学分析	1	教育委員会
資料の生物学的劣化防除(くん蒸)	9	教育委員会、博物館等
被災紙資料の点検	1	教育委員会
被災紙製資料の安定化処理及び抜本修復	1	教育委員会
被災民俗資料抜本修復保管管理	3	教育委員会
被災自然史標本修復及びデータベース化(押し葉標本)	1	教育委員会
被災自然史標本修復及びデータベース化(昆虫標本)	1	教育委員会

オ. 前平泉文化研究受託事業（前平泉文化の研究）

当館考古部門では、岩手県教育委員会の委託により平成12年度から奥州藤原氏に関連した遺跡の考古学調査を実施してきた。平成24年度からは、調査地域を平泉と密接な関連のある紫波町域を対象としている。平成27年度は、平成25、26年度に引き続き紫波町南日詰字箱清水所在の比爪館跡の微細地形測量調査をおこなった。測量範囲は、比爪館跡の北西部分を対象とし、標高10cm毎の等高線の地形図を作図した。屋外での測量作業は、平成26年の11月9日から実動作業5日間でおこなった。

また、今年度は、平成23年度から平成27年度までの当該事業の調査研究の成果をまとめ、岩手県立博物館調査研究報告書第33冊「前平泉文化関連遺跡調査報告書」として刊行した。

カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物標本資料7,000件について、データ整理・整形を行い、提供した。

キ. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成11年度から実施している。研究協力員としての活動期間は3年間で、申請・審査を経て更新することができる。

平成27年度は3名の更新が承認された。平成28年3月末現在で17名（下記一覧、順不同）となっている。

○研究協力員（更新）

- 1 沼宮内耕作（元当館学芸部長）：岩手県の蘚苔類相〔生物部門〕
- 2 土谷信高（岩手大学教育学部教授）：岩石・鉱物を素材とする文化財の材質・製作技法に関する研究〔文化財科学部門〕
- 3 女鹿潤哉（元主任専門学芸員）：古代・中世の東北地方と北海道における物質文化交流についての文化財科学的研究〔文化財科学部門〕

○研究協力員（継続）

- 4 工藤紘一（元当館学芸第二課長）：岩手の年中行事をはじめとする民俗事象の研究〔民俗部門〕
- 5 玉山光典（岩手高校教諭）：日本（特に岩手県）の変形菌相〔生物部門〕
- 6 後藤友明（岩手県す三技術センター漁業資源部）：魚類分類学〔生物部門〕
- 7 大友令史（岩手県病虫害防除所）：病虫害の生態的研究〔生物部門〕
- 8 目時和哉（元当館学芸調査員・岩手県立盛岡第一高等学校教諭）：前近代の東日本太平洋沿岸部における他地域との物質文化交流に関する学際的研究〔文化財科学部門〕
- 9 藤井千春（元当館主任専門学芸員）：北日本における発光生物の生態学的研究〔生物部門〕
- 10 大石雅之（元当館学芸部長）：岩手県産脊椎動物化石を中心とする古生物学的研究〔地質部門〕
- 11 吉田裕生（元当館学芸第二課長）：東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究、とくにマンガン硼酸塩・硫酸塩鉱物の研究〔地質部門〕
- 12 沼宮内明（元当館学芸調査員）：岩手県の植物相〔生物部門〕
- 13 千葉武勝（元岩手県病虫害防除所長）：昆虫標本の整理、とくに鞘翅目、膜翅目昆虫の同定、標本作製、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 14 佐竹邦彦（元県立学校校長）：昆虫標本の整理、とくに双翅目昆虫の同定、標本作製、調査の研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 15 竹内 基（県立福岡高等学校教諭）：淡水魚類に関する調査、研究の助言・同定等、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 16 鈴木幸彦（元当館主任専門学芸調査員）：藩政期の基礎的研究、蘭学・洋学の地方への浸透・発展、和算浸透・発展の歴史的基礎研究〔歴史部門〕
- 17 沼宮内信之（日本森林技術協会）：岩手県の植物相〔生物部門〕

ク. 外部助成

○研究助成 平成 27 年度は、研究助成として 1 件、活動助成として 2 件の採択があった。

表(3)-4 平成 27 年度研究助成採択状況

	氏名	部門	テーマ名	助成の名称	申請先
1	八木 勝枝	考古	北上川中流域における縄文時代後晩期の地域社会～後晩期停滞論の再検討～	明治大学大久保忠和考古学振興基金 奨励研究	大久保忠和考古学振興基金運営委員会
2	藤井 忠志	生物	展覧会「クマゲラの世界」の巡回写真展・講演会開催	平成 27 年度全国科学博物館活動等助成事業	一般財団法人全国科学博物館振興財団
3	鈴木 まほろ	生物	市民調査による岩手県の植物相の研究	2015 年度 F G F 助成	公益信託富士フィルムグリーンファンド

(4) 資料収集保管活動

ア. 資料の収集整理

平成 27 年度 3 月末現在の登録資料数は 8,448 点で、開館以降の累計は 277,443 点にのぼる(表(4)-1)。県内外の方々のご厚意によって今年度当館が受贈した資料は 38 件、986 点である(表(4)-2)。

表(4)-1 平成 27 年度資料登録状況

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採 集	26 年度末累計	2,835	20,903	769	3	59	24,569
	27 年度計	12	1,026	153	0	18	1,209
	累 計	2,847	21,929	922	3	77	25,778
発 掘	26 年度末累計	209	0	3,439	0	0	3,648
	27 年度計	0	0	29	0	0	29
	累 計	209	0	3,468	0	0	3,677
寄 贈	26 年度末累計	4,372	108,586	53,406	32,300	16,144	214,808
	27 年度計	0	6,924	2	115	144	7,185
	累 計	4,372	115,510	53,408	32,415	16,288	221,993
購 入	26 年度末累計	1,391	12,166	267	6,972	2,515	23,311
	27 年度計	0	0	0	1	0	1
	累 計	1,391	12,166	267	6,973	2,515	23,312
製 作	26 年度末累計	115	503	94	112	368	1,192
	27 年度計	0	0	1	0	23	24
	累 計	115	503	95	112	391	1,216
所管換	26 年度末累計	1	84	0	1,104	278	1,467
	27 年度計	0	0	0	0	0	0
	累 計	1	84	0	1,104	278	1,467
合 計	26 年度末累計	8,923	142,242	57,975	40,491	19,364	268,995
	27 年度計	12	7,950	185	116	185	8,448
	累 計	8,935	150,192	58,160	40,607	19,549	277,443

表(4)-2 主な受贈資料

部門	寄贈者(敬称略)	居住・所在地	資 料 名	数量
地質	梅原東民	釜石市	黄銅鉱、釜石石	2
生物	吉田修次	盛岡市	山のパノラマ写真	11
	北上彌逸	盛岡市	植物関係の VHS	3

部門	寄贈者(敬称略)	居住・所在地	資 料 名	数量
生物	吉田秀男	盛岡市	押し葉標本	79
	工藤身延	滝沢市	蝶等の標本箱	19
	武田眞一	盛岡市	スマレ科押し葉標本、DVD	355
	高田順	秋田市	押し葉標本	61
	国京潤一	仙台市	押し葉標本、標本展示用標本	39
	大森威宏	富岡市	押し葉標本	4
	沢和浩	天童市	押し葉標本	5
	根本秀一	いわき市	押し葉標本	5
	中屋敷徳	岩手県	押し葉標本	6
	上野雄規	白石市	押し葉標本	5
	杉山多喜子	名取市	押し葉標本	5
	恵美泰子	仙台市	押し葉標本	5
	沖田貞敏	大仙市	押し葉標本	8
	高野祐晃	奥州市	押し葉標本	6
	薄葉満	いわき市	押し葉標本	5
考古	照井幹夫	盛岡市	縄文土器	1
	内間亀次郎	九戸村	縄文土器	1
歴史	愛澤弘	秋田県	川口月嶺筆「雪月花」「双鶴図」	2
	(個人)	—	丸に石畳紋透し罽(県指定有形文化財)	2
	久米幹男	横浜市	絵はがき	27
	小野生	北海道	高野長英直筆文書	2
	佐々木諭	花巻市	水準器・測定器・間尺	3
	丹内雅男	栃木県	明治期軍人資料	5
	佐藤昭夫	盛岡市	縦柄樋側五枚胴具足、陣羽織、軍刀	3
藤田崇	横浜市	藤田家文書、文箱	71	
民俗	佐藤武	花巻市	地券他	68
	八巻徹	一関市	桶、型	9
	大坪利昭	盛岡市	行火炬燵	1
	下村智敦	盛岡市	電気アイロン、洗濯板、和裁「お針の友」	3
	栃内得治	盛岡市	マント、トランク等民俗資料	39
	古関キヌ	盛岡市	箱ぞり、薬研	2
	高橋義幸	盛岡市	染色・洗い張り道具一式	1
	矢羽々文一郎	盛岡市	鹿・インパラ製革敷物及び革製品	6
	徳田健治	大槌町	捲りたたみ	1
鈴江 茂	守山市	鈴江家資料一式	116	

新規登録資料点数は生物部門が最も多い。昆虫標本を主体に7,950点で全体の約94%を占める。

地質部門ではアメリカ合衆国ワイオミング州や中華人民共和国で採集した Planolites isp. などの生痕化石など12点を、生物部門では寄贈された町屋健一コレクションなどのチョウ類標本、当館と岩手県植物誌調査会が採集した植物標本など7,950点を登録した。歴史部門では寄贈された岩手県指定文化財「丸に石畳紋透し罽(大小)」、明治期橋野鉄鉦山資料、軍人資料、藤田家文書など116点を登録した。民俗部門では寄贈された家相図などの花巻佐藤家の生活関連資料、昭和期の生活用具、製作による岩手の郷土料理(表(4)-3)など185点を登録した。考古部門では個人ならびに慶應義塾大学より実物を借用し制作した釜石環状列石(八幡平市)の遮光器土偶(複製)など185点(要確認)を登録した。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、平成23年度の試行結果を踏まえ、当館では資料登録を平成24年4月から早稲田システム開発㈱が提供するI.B.Museum SaaSにより行うこととした。本システムは文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインターネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハードの更新が不要であることなどの利点がある。また、東日本大震災でクローズアップされたクラウド

型システムの利点として、登録情報が遠隔地で保管されるため、災害等によるデータ喪失の危険性が大幅に軽減されている。平成25年4月からこのシステムを使用し、岩手県立博物館が所蔵する資料の一部について情報公開を行っている。現在318点の資料情報を公開中である。

表(4) - 3 資料の製作

部門	名称	内容の概略
考古	遮光器土偶複製製作	八幡平市釜石環状列石出土遮光器土偶の複製を製作した。
民俗	郷土料理複製製作	岩手の郷土料理17種25点(既存資料の劣化に伴う更新を含む)の複製を製作した。
学芸 第二課	ハンズオン資料復元製作	歴史部門が有する明治時代のドレスを体験学習室用として復元製作した。製作は岩手県立平舘高等学校へ委託した。また、服飾デザイナーの二宮柊子・経沢洋美先生よりご指導いただいた。

表(4) - 4 資料の補修、用品類の購入

部門	事業名	内容
地質	岩石収納用木箱の購入	岩石・鉱物・化石標本の収蔵点数の増加により、これらを収納する収蔵庫専用の標本木箱22個を購入した。
考古歴史 民俗共通	中性紙保存箱等の製作購入	紙資料の恒久保存のため、これらを収納し保管する中性紙使用保存箱等3種を製作購入した。また、立体資料の保存のため、テンパコ2種30箱を購入した。

表(4) - 5 機器類の保守点検と修繕

項目	部門	機器名または内容
保守点検	歴史	マイクロリーダープリンター
	文化財科学	文化財科学実験システム(文化財科学室・器具庫・X線分析室空気清浄化システム)、表面分析装置(蛍光X線分析装置・走査型電子顕微鏡・X線回折装置)、微量化学分析装置(ICP発光分光分析装置)、汎用科学分析装置(赤外分光光度計・微小表面拡大装置・示差熱重量同時分析装置)、保存処理機器(大型真空凍結乾燥機・小型真空凍結乾燥機・真空樹脂含浸装置)、博物館資料滅菌システム(文化財滅菌装置・ガス漏れ検知器)
修繕	文化財科学	超純水製造装置、大型真空凍結乾燥機、滅菌器扉・温湿度計、データロガー、塩素イオンメーター、分析天秤校正
その他	文化財科学	全館くん蒸消毒、文化財科学作業環境測定、使用済薬品等廃棄処分

イ. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第1～5収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開されるほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等をとおり、他機関における活用にも積極的に協力している。

(ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出しの要請があり、実物資料については23件・513点、画像(写真)資料については、合計56機関に対して貸出しを行った。博物館関係機関はもとより、教科書および学術書への掲載を目的とする借用が多くを占めた。

表(4) - 6 実物資料の貸出

担当部門	貸出先(所在地)	資料名	点数
地質	奥州市牛の博物館	ゴリラ全身骨格複製、ゴリラメス頭骨複製、チンパンジーメス頭骨複製、オランウータンメス頭骨複製、ギボン(テナガザルメス)頭骨複製、ヒト女性頭骨複製	6
	朝日新聞社企画事業本部	恐竜カスモサウルス全身複製骨格	1

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	点数
生物	県立児童館いわて子どもの森	昆虫標本他	406
	金ヶ崎町西部地区生涯教育センター	マツムシソウ押し葉標本、オクチョウジザクラ押し葉標本他	6
	奥州市牛の博物館	ニホンザル剥製、ニホンザル骨格標本	2
	久慈琥珀博物館	ブッポウソウ、コノハズク、アオバト、ポリフェムスモルフオ他	10
	大船渡市立博物館	ブッポウソウ、コノハズク、アオバト、ポリフェムスモルフオ他	10
考古	山形県立博物館	豊岡遺跡土偶、手代森遺跡土偶、萩内遺跡土偶	4
	八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	萩内遺跡出土赤色漆塗櫛、小本川カワシンジュガイ現生標本	2
	盛岡市遺跡の学び館	沢田遺跡土偶	1
	盛岡市先人記念館	手代森遺跡遮光器土偶、豊岡遺跡遮光器土偶	2
	福島県文化財センター白河館	墨書折敷人々給絹日記複製、白磁水注複製、銅印「磐前村印」複製	3
民俗	岩手県立大学 土井章男	淡路人形「三番叟」「千歳」	2
	奥州市牛の博物館	ウマッコツナギ版木「駒曳猿」	1
歴史	一関市博物館	刀 新藤義国、刀 宮川秀一、剣 宮川守一、短刀 斎藤正中	4
	もりおか歴史文化館	東講商人鑑、山水真写譜、奥羽寒図記他	15
	一関市博物館	花巻湯本杉村松之助コレクション (管内汽車電車時刻表他)	7
	盛岡市先人記念館	藤島静村筆「山水図」、岩手焼酒器セット他	5
	一関市博物館	東鑑	1
	もりおか歴史文化館	紙本著色鍛冶神図	1
	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会	大海嘯極惨状之図	1
	もりおか歴史文化館	鯰尾兜、槍銘濃州之住長俊	2
共通	岩手県立図書館	岩手県内被災文化施設写真パネル	20
合計			512

表(4)-7 画像資料の貸出

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	点数
地質	大石雅之	釜石産リンボク、アウストラロピテクス頭骨片と下顎骨複製	2
	三陸ジオパーク推進協議会	ヒパカンソプリテス (アンモナイト)	1
	岩手日報社	モシリユウ想像図	1
	IBC 岩手放送	モシリユウの上腕骨、マメンキサウルスの全身骨格、マメンキサウルスの上腕骨、モシリユウ復元図	4
	岩手日報社	モシリユウ復元図	1
	川口印刷工業株式会社	ヒパカンソプリテス、プレトロリゴニア、バラ輝石、原田石、リンボク化石、レプトダス	6
	有限会社ハユマ	モシリユウの復元想像図、モシリユウの上腕骨	2
生物	NHK 盛岡放送局	岩手県立博物館外観、クスサン	2
	盛岡少年院	カワセミ特別版、カワラヒワ、キジバト、トラフズク、オナガ集団、オオバン、カケス、メジロ、アカゲラ、シジュウカラ、カワウ、アオサギ	12
考古	青森県立郷土館	馬立Ⅱ遺跡狩猟文土器	1
	鬼灯書籍株式会社	萩内遺跡大型土偶頭部	1
	八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	萩内遺跡赤色漆塗弓、岩谷洞穴貝殻象嵌土製品、真珠、カワシンジュガイ遺存体、カワシンジュガイ現生標本	9
	ミュージアムスタイルカフェ	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	盛岡市先人記念館	手代森遺跡出土遮光器土偶、豊岡遺跡遮光器土偶	2

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	点数	
考 古	盛岡市遺跡の学び館	熊 (成獣、幼獣)	2	
	菅田亜紀子	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1	
民 俗	気仙コミュニ・ティー運動応援隊	森口多里コレクション写真 (陸前高田市)	1	
	気仙コミュニ・ティー運動応援隊	森口多里コレクション写真 (陸前高田市)	6	
	八千代エンジニアリング株式会社	宮古市重茂姉吉大津波記念碑	1	
	アサヒプロダクツ	DVD「早池峰岳神楽の四季」	1	
	早池峰岳神楽保存会	DVD「早池峰岳神楽の四季」	1	
	日本中国友好協会本部	オンラサマ (陸前高田市)	1	
	岡本康児	オンラサマ (陸前高田市)	1	
	千代田ラフト	旧佐々木家住宅	1	
	秀学社	送り火、迎え火他	5	
	パトリア	蓑虫山人筆「気仙郡今泉村愛宕山眺望の図」「気仙郡高田町旭之浦の景」 (名古屋市 長母寺所蔵)	2	
	長野県立歴史館	蓑虫山人筆「気仙郡高田町旭之浦の景」 (名古屋市 長母寺所蔵)	1	
歴 史	天池洋介	書状、柳生心眼流兵法免許之巻、講武実用流剣法秘巻、新当流槍二間合	4	
	碧水社	黒漆塗燕尾形兜	1	
	NHK 大阪放送局制作部	金沢金山御山盛大図	5	
	近衛ロンド	天台寺蔵「聖観音立像」	1	
	重要文化財天台寺本堂及び仁王門保存修理委員会	天台寺古絵図	1	
	国際観光施設協会	毛越寺復元模型	1	
	日本国際放送	南部藩参勤交代絵巻	1	
	近衛ロンド	天台寺蔵「聖観音菩薩立像」	1	
	企作工舎	銅造観音菩薩立像 (実物及び複製)	2	
	宮古市長	三閉伊日記、府県名所図会、ふかひれ、煎海鼠、干鮑	5	
	OfficeR	金沢御山大盛之図	1	
	産経新聞出版	鯰尾兜	1	
	青幻舎	黒漆塗燕尾形兜	8	
	ネクサス	たたら模型、大迫銅屋鍛冶絵巻	2	
	浩然社	鯰尾兜	1	
	宮古市長 (HP)	三閉伊日記、府県名所図会、ふかひれ、煎海鼠、干鮑	5	
	ミネルヴァ書房	毛越寺復元模型	1	
	吉川弘文館	盛岡藩参勤交代図巻	1	
	青龍社	漆絵立花図	1	
	朝日新聞出版	燕尾形兜	1	
	日テレアレックスオン	角土俵相撲興業之図、陸奥之土風、相撲極傳之書	3	
	帝国書院	いりこ、ふかひれ、干しあわび	3	
	山崎庸男	儒道統之図	1	
	日野町教育委員会	燕尾形兜	1	
	サンライズプロ	チャグチャグ馬コ装束、盛岡藩参勤交代絵巻	2	
	雫石町教育委員会	懸仏	3	
	小学館	黒漆塗燕尾形兜	1	
	エスエスシステム	燕尾形兜他	2	
	野中勝利	岩手公園全図	1	
	合計			118

(イ) 文化財科学部門

岩手県立博物館には先人から伝えられた貴重な文化財、自然界の営みを知るうえで重要な自然史標本をはじめとする数多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料が携えている過去の情報と未来へのメッセージを、自然科学的方法で解析し読み解くと共に、貴重な学術資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えることを目的として、文化財科学部門が設置されている。

a. 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を設定する必要がある。岩手県立博物館では収蔵庫及び展示場に温湿度記録計を設置し、温湿度変化を継続的に観察している。その結果に基づき空調機、除湿機、及び加湿器を使用し、展示場、収蔵庫内の温度を18～23℃、湿度を55～65%に維持することに努めている。今年度は新たにデータロガーを設置して、収蔵庫、展示場、展示ケースの温湿度環境変動をきめ細かく計測できるよう計測システムを強化にした。

特に精度の高い湿度管理を行う必要がある資料については、エアタイトケース内に調湿剤をセットし、公開している。出土金属器・木器については、脱酸素剤、調湿剤を入れた透湿抵抗の高いガスバリアフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。

b. 生物学的劣化からの防除

古文書、書籍類、繊維製品、自然史標本等有機化学物質を素材とする資料は、虫や黴により食害される心配がある。新たに博物館に搬入される資料には有害な虫や黴が付着している可能性があり、そのままの状態では収蔵庫や展示場に運び込まれた場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫や黴から資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料について、必ず滅菌機でくん蒸を行っている。平成27年度の滅菌機によるくん蒸実施状況は表(4)―8に示すとおりである。

表(4)―8 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部門	資料種別	数量	単位	備考
考古	土器等	5	箱	関連資料等
	その他	3	箱	
生物	昆虫標本（ドイツ箱入）	33	箱	剥製等
	押し葉標本	21	箱	
	その他	10	件	
歴史	文書類	2	箱	テーマ展用資料 額、映写機等
	仏像	4	件	
	その他	20	件	
民俗	民具等	80	件	関連資料等
	その他	10	件	

平成27年9月1日から10日まで、密閉くん蒸法により、第一・第二・第三収蔵庫、歴史・古美術整理室、および第二書庫をくん蒸した。平成27年6月及び平成27年10月には、館内の害虫生息状況について実態調査を実施した。さらに収蔵庫、展示室のくん蒸実施後、有害な虫や黴の発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚に固着する塵埃の除去を行った。

平成28年度についても、有害な虫や黴の発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

c. 資料の科学分析・保存処理

資料を現状のまま長く保存し活用するためには、資料の内部構造、製作に使用された素材を正確に把握する必要がある。岩手県立博物館では、EPMA(電子線・プローブ・マイクロアナライザー)、蛍光X線分析装置をはじめとする表面分析装置、高周波誘導結合プラズマ発光分光光度計などの微量分析機器を駆使し、文化財を自然科学的方法で調査し、資料の素材に関する基礎情報の収集を図っている。

調査の結果、劣化の進行が著しく、形状保全が難しいと判断された資料については、保存修復を施している。平成27年度の岩手県立博物館関係資料の分析・保存処理実施状況は表(4)―9のとおりである。

表(4)―9 館関係資料の自然科学的状況

分析・処理内容	点数
漆資料の自然科学的調査	42
紙製資料の自然科学的調査	152
土製資料の自然化学的調査	5
非鉄金属資料の自然科学的調査	12
鉄製試料の自然科学的調査	52
ガラス資料の自然科学的調査	3
顔料関係資料の自然科学的調査	2

既述のとおり、文化財の科学分析、保存修復には様々な理化学機器が使用される。それらの安全で円滑な使用を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則に定められている機器保守点検、作業環境測定、及び使用済薬品の無害化処理の委託(表(4)―10)を実施した。様々な機器を使って得られた情報は、資料の保存方法、保存環境の設定等にも生かされている。

表(4)―10 委託事業

委託事業名	数量	単位	備考
全館くん蒸消毒(6,843 m ³)	5	個所	第一・第二・第三収蔵庫、資料登録室、第二書庫
文化財科学機器保守点検	6	件	表面分析装置、微量化学分析装置、汎用科学分析装置、保存処理機器、博物館資料滅菌システム、文化財科学実験システム
文化財科学作業環境測定	1	件	
使用済薬品等廃棄処分	1	件	

(5) 総務企画調整

ア. 総括出版広報

(ア) 印刷物

a. 博物館だよりNO. 145～148

(A4判、8頁、各3,200部)

145号：目次／宮参りの重ね 表紙／エッセイ「実習船『かもめ』」p.2-3／展覧会案内「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」p.4-5／活動レポート「大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト」p.6-7／インフォメーション p.8

146号：目次／テーマ展「火山灰から社会をよむ - 10世紀の巨大噴火と北東北 -」表紙／いわて自然ノート「岩手のカワシンジュガイの現状と、保全に向けた調査」p.2-3／展覧会案内「火山灰から社会をよむ - 10世紀の巨大噴火と北東北 -」p.4-5／事業報告「第69回自然観察会『盛岡市外山森林公園昆虫観察会』」p.6／事業報告「第69回地質観察会『網取の地層観察とイワシ化石採集』」p.7／インフォメーション p.8

147号：目次／特別展「発掘された日本列島2015」表紙／いわて自然ノート「発見の連続！岩手県の植物相調査」p.2-3／展覧会案内「発掘された日本列島2015」p.4-5／展覧会案内「海に生きた歴史～復興発掘調査が語る一万年の海との共生～」p.6／事業報告「第7回博物館まつり」「第70回自然観察会『北秋田市森吉山ノロ川流域にて』」p.7／インフォメーション p.8

148号：目次／特別展「近代へのとびら - 大島高任の挑戦 -」から両鉄鉦山御山内並高炉之図【模写】表紙／いわて自然ノート「岩手県の大量絶滅の地層を追いかけて」p.2-3／展覧会案内「近代へのとびら - 大島高任の挑戦 -」p.4-5／事業報告「冬のワクワク！ワークショップ」「冬の写生会」p.6／活動レポート「岩手デジタルミュージアム構築事業 - 博学連携 -」p.7／インフォメーション p.8

b. 平成 26 年度岩手県立博物館年報

A4判相当PDF版、74頁、平成27年5月31日発行

c. 行事案内リーフレット

平成 27 年度下半期分 (B4 変形・巻四ツ折、26,000 部、平成 27 年 8 月発行)

平成 28 年度上半期分 (B4 変形・巻四ツ折、26,000 部、平成 28 年 3 月発行)

d. 子ども向け行事案内リーフレット「おやすみの日は博物館に行こうよ！」

平成 27 年度下半期分 (A4・田四ツ折、22,000 部、平成 27 年 4 月発行)

(イ) 広報活動

a. 当館独自の広報

①イベントガイド(毎月、市内外公共施設および松園地区配布、約1,600部)、②新聞広告(岩手日報ぼらん 朝日新聞)、その他各事業別ちらし(随時)等。

b. その他の公所

①教育記者クラブ、②日博協、③全科協、④県観光協会、⑤盛岡観光コンベンション協会 等。

c. 新聞各社への情報

胆江日日新聞、デーリー東北、東海新報、盛岡タイムス、秋田魁新報 等。

d. ミニコミ誌等

acute、Amuse、vivitto、マ・シェリ、游悠、rakra 等。

(ウ) 博物館公式ホームページの運営

岩手県立博物館公式ホームページ

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

公式ホームページは、平成 13 年 3 月 1 日に正式公開された。平成 24 年度末に委託製作によりデザインを刷新し、またウェブサーバの cgi プログラムを介して内容を更新できるシステムを導入することにより、更新頻度を高めた。平成 27 年度は、SNS との連携を高めたこと、全国規模の特別展が開催されたことなどの効果により、トップページの閲覧回数は 69,816 回と前年度より約 30%増加し、企画展や巡回展など大型の展覧会の開催期間中に多くなる傾向があった(図)。その他のページでは、博物館の概要、展示室案内、展覧会案内、利用案内の順にページの閲覧回数が多かった。

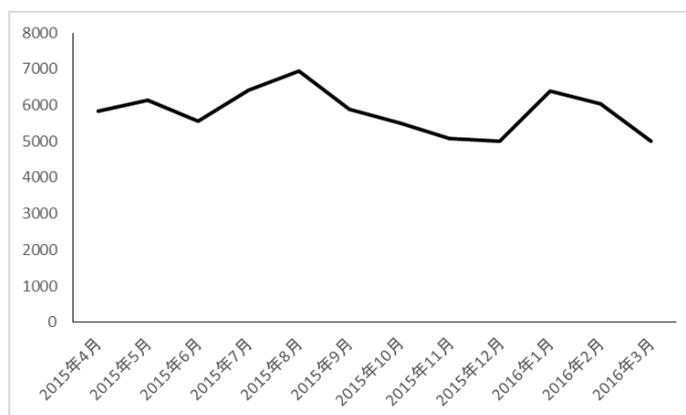


図 トップページの月別閲覧回数(平成27年度)

SNS の利用としては、開館 30 周年を機に平成 22 年 9 月 30 日からツイッターアカウントを運用しているほか、平成 28 年 1 月 5 日からフェイスブックの正式運用を開始した。平成 27 年度末時点のツイッターアカウントのフォロワー数は約 3,500 人である。

イ. 情報機器の管理

平成 27 年度は、学芸業務用ノートパソコンのリース期限満了に伴い 18 台を更新した。また、いわて自然史展示室に WiFi アクセスポイント 2 基を新たに設置することにより、全ての展示室における WiFi 環境整備が完了したため、来館者向けにアクセス方法に関する掲示を行うとともに、公衆無線 LAN の提供を開始した。

ウ. 委員会等職員派遣

表（5）－1 平成 27 年度外部団体等への委員の派遣一覧

No.	月 日	派遣職員	依頼・委嘱元等	委員会・事業等名称	内 容
1	4 月 7 日	吉田 充	岩手県	第 1 回岩手県社会教育主事会議	27 年度博物館事業の説明
2	4 月 24 日	川向 富貴子	花巻市教育委員会	石鳩岡神楽、土沢神楽国庫補助調査事業の方針会議	国記録選択無形民俗文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」の調査計画の策定
3	4 月 27～28 日	羽柴直人	(公財)元興寺文化財研究所	宮城県南三陸町歌津中山に所在する石造物(津波記念碑)調査	現地調査
4	5 月 27 日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	第 49 回岩手県環境影響評価技術審査会
5	6 月 5 日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	現地調査
6	6 月 9 日	赤沼英男	陸前高田市教育委員会	被災資料等の修復に係る技術指導	古文書等の脱臭方法, 民具の安定化処理等
7	6 月 11 日	羽柴直人		第 1 回紫波町文化財調査委員会	
8	6 月 12 日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	第 50 回岩手県環境影響評価技術審査会
9	6 月 17 日	羽柴直人	紫波町観光交流協会	第 1 回紫波町観光交流協会歴史文化遺産会議	
10	6 月 22 日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会及び自然鳥獣部会	第 1 回岩手県環境審議会及び自然鳥獣部会
11	6 月 26 日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部自然保護課	早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会	第 1 回早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会
12	7 月 17 日	吉田 充	盛岡市教育委員会	第 1 回盛岡市子ども科学館協議会	
13	7 月 30～31 日	羽柴直人	平泉町教育委員会	月館Ⅲ遺跡に係る発掘調査指導	
14	8 月 6 日	八木勝枝		第 1 回釜石環状列石遺跡調査委員会	
15	8 月 10 日	赤沼英男	岩手県復興局	平成 27 年度第 1 回岩手県震災津波関連資料収集活用有識者会議	
16	8 月 16 日	鈴木まほろ	岩手県自然保護課	絶滅危惧植物の追跡調査	於, 岩手山
17	8 月 27 日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	環境影響評価技術審査会	第 51 回環境影響評価技術審査会
18	9 月 4 日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	環境影響評価技術審査会	第 52 回環境影響評価技術審査会
19	9 月 4 日	赤沼英男	岩手県復興局	第 1 回高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会	

No.	月 日	派遣職員	依頼・委嘱元等	委員会・事業等名称	内 容
20	9月5日	鈴木まほろ	岩手県自然保護課	植物相・絶滅危惧種の追跡調査	於,岩手山
21	9月12日	鈴木まほろ	岩手県自然保護課	植物相・絶滅危惧種の追跡調査	於,岩泉町大川
22	9月22~23日	羽柴直人	(公財)元興寺文化財研究所	宮城県栗原市金成町熊口における石造物関連の地形調査	現地調査
23	9月28日	赤沼英男	岩手県復興局	平成27年度第2回岩手県震災津波関連資料収集活用有識者会議	
24	10月8日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	環境影響評価技術審査会	第53回環境影響評価技術審査会
25	10月15日	鈴木まほろ	東北森林管理局	早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査に係る検討委員会	第1回早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査に係る検討委員会
26	10月21日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	環境影響評価技術審査会	現地調査
27	10月23日	羽柴直人	岩手県教育委員会	第2回柳之御所遺跡発掘調査報告書作成に係る検討委員会	
28	10月24日	川向 富貴子	岩手県高等学校総合文化祭郷土芸能専門部事務局	全国高等学校総合文化祭郷土芸能発表会審査員	高校生による演舞発表の審査
29	11月2日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会自然・鳥獣部会	第2回岩手県環境審議会自然・鳥獣部会
30	11月5日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	環境影響評価技術審査会	第54回環境影響評価技術審査会
31	11月7日	羽柴直人	東北学院大学	石造物調査	現地調査
32	11月12日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会	第2回岩手県環境審議会
33	11月18日	赤沼英男	岩手県復興局	平成27年度第3回岩手県震災津波関連資料収集活用有識者会議	
34	12月1日	渡辺修二	岩手県高等学校教育研究会理科部会	第62回岩手県高等学校理科研究発表会並びに第38回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会	事前審査
35	12月7日	川向 富貴子	岩手県高等学校総合文化祭郷土芸能専門部事務局	全国高等学校総合文化祭郷土芸能発表会審査員打ち合わせ	講評作成について
36	12月8日	渡辺修二	岩手県高等学校教育研究会理科部会	第62回岩手県高等学校理科研究発表会並びに第38回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会	審査
37	12月14日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	環境影響評価技術審査会	第55回環境影響評価技術審査会
38	12月15日	赤沼英男	岩手県復興局	第2回高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会	
39	12月22日	赤沼英男	岩手県復興局	平成27年度第4回岩手県震災津波関連資料収集活用有識者会議	

No.	月 日	派遣職員	依頼・委嘱元等	委員会・事業等名称	内 容
40	1月15日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部自然保護課	早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会	第2回早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会
41	1月26日	鈴木まほろ	東北森林管理局	早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査に係る検討委員会	平成27年度第2回早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査に係る検討委員会
42	1月28日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部環境保全課	環境影響評価技術審査会	第56回環境影響評価技術審査会
43	2月22日	赤沼英男	岩手県復興局	第3回高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会	
44	2月26日	吉田 充	国土交通省北上川ダム統合管理事務所	平成27年度四十四田ダム水源地域ビジョン推進会議総会	
45	3月4日	吉田 充	盛岡市教育委員会	第2回盛岡市子ども科学館協議会	
46	3月16日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部自然保護課	希少野生動植物保護検討委員会	希少野生動植物保護検討委員会
47	3月20日	鈴木まほろ	日本生態学会	日本生態学会代議員会	日本生態学会代議員会
48	3月28日	川向 富貴子	宮古市教育委員会	北上山地民俗資料館運営会議	今年度事業実績と次年度の事業計画の報告

6. 文化財レスキュー活動

(1) はじめに

2011年3月11日に発災した東日本大震災で、岩手県太平洋沿岸部に立地する博物館関係施設はもとより、図書館、学校、宗教法人、および個人が所蔵する膨大な数の文化財、自然史標本等が被災した。文化財保護法制定以後最大規模の自然災害発生を受け、岩手県立博物館では2011(平成23)年4月2日から今日まで、被災した資料の救出とその再生に取り組んできた。救出された資料には多量の塩分をはじめ様々な物質が含有されている。それらを長期にわたり安定的に保管するためには、大津波がもたらした有害な物質を除去し、資料の劣化進行を防止するための安定化処理が不可欠である。

岩手県立博物館では国公立の博物館、大学、文化財科学の研究者等と連携を図りながら、救出された自然史標本、古文書、民具等の安定化処理方法を構築し、実資料に適応してきた。岩手県立博物館には現在約12万点もの資料が保管されていて、順次、安定化処理、抜本修復が施され、さらに一連の処理が完了した資料の経過観察が実施されている。以下に、平成27年度 of 取組状況について報告する。

(2) 安定化処理の現状

大津波で被災した資料を再生するうえでの最大の課題は、資料の劣化要因、展示・収蔵施設の環境汚染につながる要因を可能な限り除去し、救出した資料を長期にわたり安定的に保管する状況を確立することにある。そこで、救出した資料に対し、除菌、除泥、脱塩を目的とする安定化処理が施される。津波で被災した文化財の安定化処理についてはその実践例がなく、国内はもとより国際的にみても方法論は未確立である。岩手県立博物館では、平成23年4月5日から救出された古文書を対象に、安定化処理法の確立を図ってきた。これまでにわが国において実施された水損資料、低湿地帯から出土した考古資料の修復方法、文化財科学や保存修復の研究者からの助言を基に、被災資料の状況に応じて改良を加えながら、21工程からなる処理法を構築し、その措置に当たってきた。平成26年5月からは本館に併設して設置した修復館(仮設修復施設)一階に、除菌、除泥、脱塩、乾燥を実施することができる、紙を素材とする資料の作業場を設け、効率的に安定化処理を行えるようにした。

修復館における作業と並行し、本館では陸前高田市立博物館が所蔵していた登録有形民俗文化財、『陸前高田の漁撈用具』の安定化処理が実施されてきた。民具の処理では、煤や油分等、それらが実際に使用されていた際に付着した様々な使用痕を残しつつ、一連の措置を進める必要がある、という点で技術的に克服しなければならない課題がある。現在、水洗可能で、長時間水に浸しても溶損の心配がない資料を選別し処理を施しているが、この過程で使用痕が失われる心配がある。当館では浸漬中、資料の状態を目視観察しながら、使用痕喪失の防止を図っている。

救出された民具の多くは木材を素材としている。樹種はもとより、木取りされた部位も様々である。このような資料を水漬けした場合、浸漬の過程で、あるいは浸漬後の乾燥過程で木材に亀裂や変形が生じる可能性がある。この問題を回避するため、当館ではあらかじめ石膏で資料を保護し、水漬け、乾燥を行うなどして、変形や亀裂の発生を防いでいる。

自然史標本のうち植物標本については、安定化処理が完了した標本のデータベース化と分別整理が進められた。昆虫標本については、安定化処理およびデータベース化が、年次計画に基づいて実施された(写真1)。特に、昆虫標本については、破損した標本がほとんどで、被災前の状態に復することは技術的に相当の困難を極めた。平成27年度の安定化処理、修復、データベース化、及び分別整理状況は表1に、平成23年度～平成27年度までの被災文化財救援活動の推移は図1に示すとおりである。



写真1 昆虫標本の安定化処理

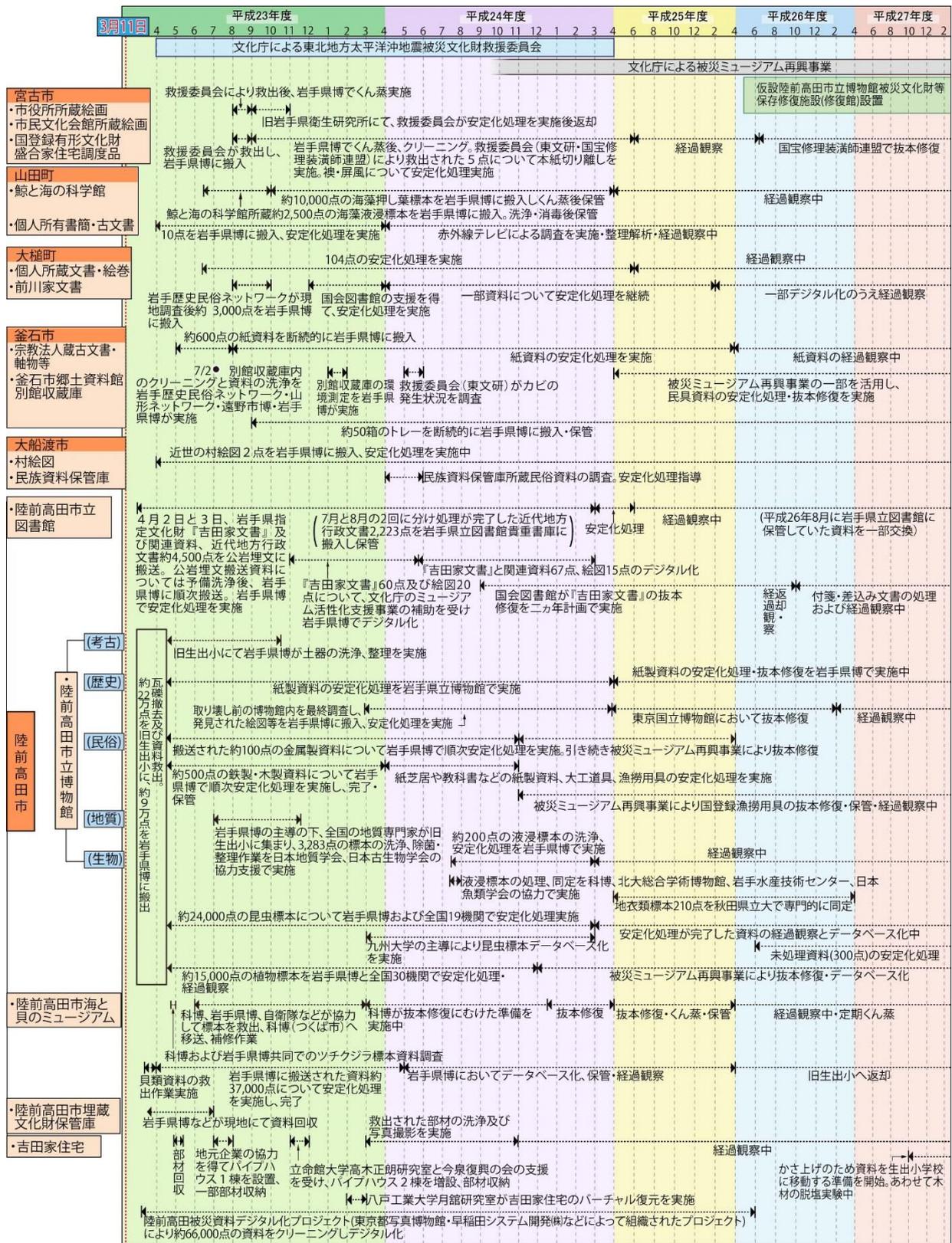


図1 岩手県立博物館が実施した岩手県沿岸部に所在する被災博物館および関連施設の救援活動状況(2016年3月末現在)
 機関名略称: 東北太平洋沖地震被災文化財等救援委員会=救援委員会、北海道大学総合学術博物館=北大総合学術博物館、国立国会図書館=国会図書館、国立科学博物館=科博、岩手県立博物館=岩手県博、旧陸前高田市立生出小学校=旧生出小(仮設陸前高田市立博物館)、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター=公岩埋文

表1 平成27年度被災文化財等安定化処理・抜本修復・データベース化の実施状況

No.	業務内容	点数			
		点検	安定化処理・修復	データベース化	分別整理
1	RTC 所蔵被災紙資料の点検業務	640	5,000	-	-
2	RTC 所蔵被災紙資料の安定化処理及び抜本修復業務	-	2,620	-	-
3	RTC 所蔵被災民具資料の安定化処理及び抜本修復業務	132	132	-	-
4	RTC 所蔵自然史標本修復及びデータベース化(昆虫標本) 業務	442	442	442	-
5	RTC 所蔵自然史標本修復及びデータベース化(押し葉標本) 業務	-	-	15,000	7,900
6	KHM 所蔵被災資料安定化処理業務	6	300	300	300
7	KHM 所蔵被災資料安定化処理業務(その2)	13	3	-	-

RTC=陸前高田市立博物館、KHM=釜石市郷土資料館。

(3) 処理が終了した資料の経過観察

安定化処理および修復が完了した資料は、中性紙保存箱等に収納し、収蔵庫等に保管される。既述のとおり、津波被災した資料の安定化処理技術は未確立である。様々な要因を想定し対処したとはいうものの、予期せぬ現象が生じ、資料の状態が変化する可能性がある。それを未然に防ぐため、当館では安定化処理が完了した資料を定期的に確認する、経過観察を実施している。

これまでの状況によると、安定化処理終了後2ケ年は特段の変化がみられなかったが、概ね3年目以降以下の状況が確認される古文書、書籍類が散見されるようになった。

- ① 異臭（主として腐敗臭）がする
- ② 紙面の色が茶褐色に変化する
- ③ 変形する
- ④ 接着したのりが剥離する

上記現象に対し適切な措置を講じるためには、原因の特定が急務である。そこで、東京文化財研究所の支援を得、①の臭気を発生する物質を特定し、発生原因を究明するための調査が行われた(写真2)。一連の調査によって、魚類に起因するたんぱく質が分解し発生する酸性物質等によるものと推定される、という見解が提示された。現在、化学物質の同定と除去方法に向けた研究が進められている。



写真2 安定化処理が完了した紙を素材とする資料の経過観察

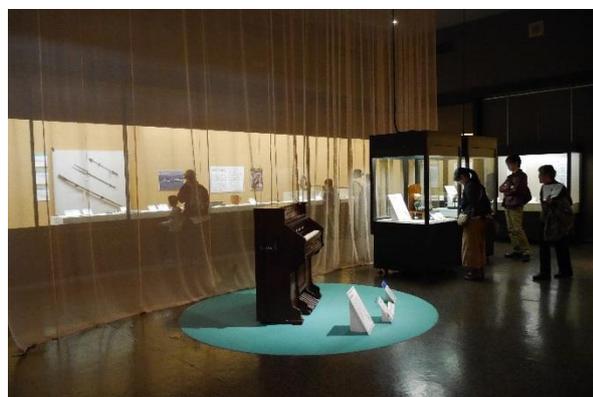
(4) 確立した安定化処理技術の共有

多くの専門機関の連携によって構築された安定化処理技術を全国の博物館関係者と共有し普及させること、今後も続く被災文化財再生の重要性を多くの方々に理解していただくこと、今後発生する大規模自然災害に備えることはきわめて重要である。「技術の共有と普及」、「活動に対する理解の醸成」、「大規模自然災害への対応」を主な活動目的に掲げ、平成26年度、岩手県立博物館を中核館とする「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」(会長 中山敏(岩手県立博物館長))が結成され、

文化庁が準備した「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受けて、活動を続けてきた。平成27年度は作年度出版した『安定化処理』を改定し、全国の主な博物館、図書館等に配布した。また、全国の方々の被災文化財再生の現状と課題に対する理解を一層深めていただくことを目的として、福井県立歴史博物館、名古屋市博物館でそれぞれ企画展、「よみがえる文化財―被災文化財を未来に―」（平成28年2月13日～3月21日）、「陸前高田のたからもの」（平成28年2月27日～3月27日）が開催された（写真3）。



福井県立歴史博物館



名古屋市立博物館

写真3 『安定化処理』をテーマとする企画展の開催

平成27年8月18日には、国立文化財機構との連携強化を目的として、仮設陸前高田市立博物館において「紙の安定化処理」、「民具の安定化処理」、「植物標本の安定化処理」をテーマにしたワークショップを実施した。さらに公立博物館関係者への技術普及を図るため、平成27年12月3日に北海道博物館、平成28年2月2日に東京芸術大学、平成28年2月26日、3月17日には企画展開催に併せ、福井県立歴史博物館、名古屋市博物館においてワークショップを開催した。いずれの会場においても参加は被災資料の再生方法を熱心に受講し、「被災地における博物館資料再生の大切さと大変さを改めて認識した」という感想が示された。

東日本大震災発災から5年目に当たる平成27年3月11日、東京文国立博物館平成館講堂で、東京国立博物館及びプロジェクト実行委員会の主催で、「津波被災文化財再生への挑戦―東日本大震災から5年―」をテーマに、講演会とシンポジウムが開催された。東京国立博物館長及びプロジェクト実行委員会長の挨拶の後、米国カリフォルニア州ハンブルト大学津波研究センター、ロリー・デングラー教授による基調講演が行われた。講演では専門の津波防災、そして、被災地から太平洋を漂い2年後カリフォルニア州クレセントシティーに漂着した『実習船かもめ』を救出し、陸前高田に返還したことをきっかけとして、クレセントシティーと陸前高田市の高校生の間にも生まれた友情と絆についてお話いただいた。パネルディスカッションでは、公益財団法人日本博物館協会・半田昌之専務理事のコーディネートで、岩手県沿岸部の中でも特に深刻な被害を受けた陸前高田市立博物館の救援活動に視点を当て、「復興」、「技術」、「組織」、「使命」について5名のパネラーによる事例報告と討論が行われた。14時46分から一分間の黙祷の後、津波被災から再生されたリードオルガンの演奏と作曲を担当したピアニストの中村由利子さんにより、復興への祈りが東北に届けられた。

（5）次年度以降の課題

陸前高田市に限っても未だ約30万強の資料が救出されたままの状態でも保管されている。その中には、水洗不能のため、安定化処理方法が未確立な資料も相当数含まれている。岩手県立博物館ではこれまでの広域連携機能を一層強化し、上記プロジェクトの活動と連動しながら、それら被災資料の再生、被災地における博物館機能再生への支援、そして新たな大規模自然災害への対応を視野に入れた様々な活動に取り組むことにしている。皆様にはこれまでと同様のご支援をお願いしたい。

7. 岩手県立博物館友の会

(1) 概要

本年度は、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン（講演会）」など多彩な事業を実施した。現地見学会の「いのしえの都に学ぶ-室生・飛鳥・平安京跡など」は参加者から大変よかった、パートⅡを希望する、との声が掛かった。また、被災文化財レスキュー活動に数名の会員の方がボランティアとして従事している。近年、高齢化が進み会員数は減少傾向にあるが、40代50代の新規会員もあり、ありがたいことである。友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

(2) 会員数

平成27年度	383件	625人
一般会員	221人	(平成26年度 226人)
家族会員	109件・347人	(平成26年度 114件・356人)
小中高会員	0人	(平成26年度 0人)
終身会員	25人	(平成26年度 27人)
賛助会員	18件・29口	(平成25年度 18件・29口)
団体会員	5件	(平成27年度より発足)

(3) 主催事業

ア. 現地見学会

(ア) 第1回 「いにしえの都に学ぶ」奈良県

10月28日(水)～10月30日(木) 参加者18人

イ. 自然観察会

(ア) 第1回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「昆虫観察会 外山森林公園」

盛岡市玉山区藪川 6月28日(日) 参加者21人

講師 元県農業試験場研究員 千葉武勝氏

(イ) 第2回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「網取の地質観察とイワシ化石採集」

北上市 和賀川 菱内川 7月5日(日) 参加者37人

講師 地質学者 大石雅之氏

(ウ) 第3回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「名瀑を訪ねる 森吉山桃洞の滝」

秋田県北秋田市 9月27日(日) 参加者25人

現地案内 福士功治氏

(エ) 第4回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「大船渡付近のカンブリア紀～白亜紀にわたる火成岩類」

大船渡市三陸町 小箔浜・白磯公園 10月11日(日) 参加者 30人
講師 岩手大学教育学部部長 土谷信高氏

ウ. 話のサロン(講演会)

(ア) 第1回「岩手の自然を歩く」(「集い」と兼ねる)

博物館教室 5月9日(土) 参加者 29人
講師 エッセイスト 村田久氏

(イ) 第2回「幽霊のはなし」(県博日曜講座)

博物館講堂 8月9日(日) 参加者 41人
講師 専門学芸員 川向富貴子氏

(ウ) 第3回「火山灰から社会をよむ」(県博日曜講座)

博物館講堂 10月25日(日) 参加者 54人
講師 専門学芸員 丸山浩治氏

(エ) 第4回「奥州藤原氏の興亡とその後の陸奥国」

博物館講堂 28年2月27日(土) 参加者 54人
講師 岩手県立盛岡第一高等学校教諭 目時和哉氏

エ. 「集い」(総会)「第1回話のサロン」と兼ねる

博物館教室 5月9日(土)

オ. 会報発行等

(ア) 「友の会会報」発行(A4版8頁、500部)

4回(№100~103)発行 (4, 7, 10, 2の各月)

(イ) 「友の会通信」発行(A4版両面刷り2頁、500部)

4回(№105~108)発行 (6, 9, 12, 3の各月)

(ウ) 「岩手県立博物館だより」発送

年4回発送(№145~148)(6, 9, 12, 3の各月)

(エ) 「岩手県立博物館行事案内」発送

年2回(4, 9各月)

(オ) 県博の行事等の案内、要項を年9回開催の友の会企画委員会で随時発送。

(カ) ボランティア活動

「文化財レスキュー」被災標本・古文書などのレスキュー ボランティア募集したところ会員数名が、現在被災標本のカビ等を洗浄・除去、乾燥・整理などの活動に従事している。

カ. 博物館事業への協力

県博日曜講座の一部を博物館行事への参加とし、博物館まつりの昔遊びでは企画委員のほかに数名の会員の協力を得て、いろいろな昔遊びを子供たちと一緒に遊び指導することができた。

8. 博物館利用者入館状況

開館以来の入館者数（総利用人数）

年度	総利用人数				開館 日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
昭55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平20	25,287	836	14,858	40,981	302	136
平21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
平25	25,006	960	18,244	44,210	303	146
平26	19,181	1,227	12,438	32,846	303	108
平27	24,048	1,605	14,605	40,258	302	133
総計	1,765,676	194,639	807,879	2,768,194	10,595	261
平均	49,046	5,406	22,441	76,894	294	261

平成27年度月別入館者数

区分 月	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
4	1,545	128	658	2,331	27	86
5	2,312	240	1,426	3,978	27	147
6	1,347	219	1,065	2,631	25	105
7	1,707	203	1,034	2,944	27	109
8	2,553	187	1,749	4,489	28	160
9	1,309	80	1,350	2,739	17	161
10	2,649	59	2,525	5,233	27	193
11	1,889	140	952	2,981	25	119
12	1,188	44	931	2,163	24	90
1	1,997	47	996	3,040	24	126
2	3,986	150	932	5,068	24	211
3	1,642	70	949	2,661	27	98
計	24,048	1,605	14,605	40,258	302	133

開館以来の入館者数（利用区分別）

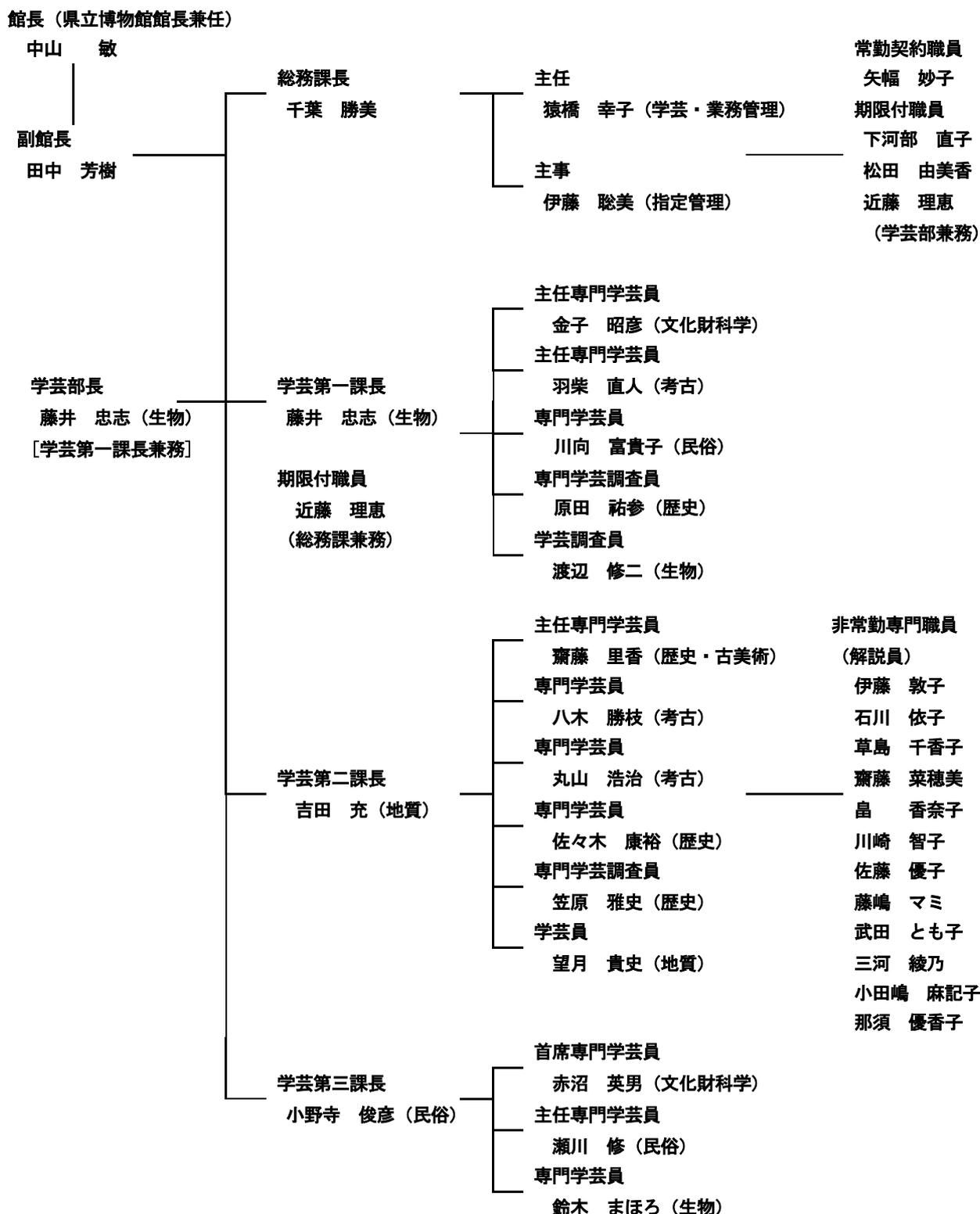
区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
昭55	69,259	4,275	16,657	90,191	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766
平15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平20	14,317	511	6,928	21,756	1,822	71	320	2,213	9,148	254	7,610	17,012
平21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
平25	14,799	532	9,106	24,437	1,169	230	638	2,037	9,038	198	8,500	17,736
平26	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950
平27	15,213	716	8,190	24,119	880	130	228	1,238	7,955	759	6,187	14,901
総計	1,034,507	53,941	283,285	1,371,733	437,105	15,621	38,538	491,264	294,064	125,077	486,056	905,197
平均	28,736	1,498	7,869	38,103	12,141	433	1,070	13,646	8,168	3,474	13,501	25,144

平成27年度月別入館者数（利用区分別）

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
4	948	39	473	1,460	80	85	0	165	517	4	185	706
5	1,331	94	814	2,239	92	21	0	113	889	125	612	1,626
6	752	52	485	1,289	69	24	13	106	526	143	567	1,236
7	1,188	64	650	1,902	140	0	25	165	379	139	359	877
8	2,062	86	1,429	3,577	47	0	0	47	444	101	320	865
9	908	51	428	1,387	52	0	39	91	349	29	883	1,261
10	1,468	57	963	2,488	114	0	86	200	991	43	1,511	2,545
11	1,015	39	585	1,639	66	0	0	66	808	101	367	1,276
12	591	43	384	1,018	0	0	0	0	597	1	547	1,145
1	1,360	39	679	2,078	3	0	0	3	634	5	320	959
2	2,441	92	643	3,176	161	0	0	161	1,384	58	289	1,731
3	1,149	60	657	1,866	56	0	65	121	437	10	227	674
計	15,213	716	8,190	24,119	880	130	228	1,238	7,955	759	6,187	14,901

教育普及事業参加人数 14,012人	移動展入館者数 610人	平成27年度総利用者数 54,880人
--------------------	--------------	---------------------

9. 平成 27 年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織



学芸部門職員の部門別人員

地質	考古	歴史	民俗	生物	古美術	文化財科学	計
2人	3人	4人	3人	3人	(1)人	2人	17(1)人

10. 岩手県立博物館使命書

(平成20年3月25日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史の変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

1 1. 関係条例・規則等

(1) 博物館条例

昭和55年7月15日条例第41号

(設置)

第1条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第1条の2 博物館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第1条の3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第2条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

第3条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第3項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第3項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第4条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失す

ること。

- (2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。
- (3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。
- (4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をすること。
- (5) 立入禁止区域に立ち入ること。

(入館許可の取消し等)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第2条第1項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第3項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例の規定による処分違反したとき。
- (2) 第2条第3項の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他の不正な手段により第2条第1項の許可を受けたとき。
- (4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。
- (5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第3条第1項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第3項」とあり、及び「第2条第3項」とあるのは「第3条第2項において読み替えて準用する第2条第3項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第6条 第2条第1項の許可を受けた者（以下「入館者」という。）は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第7条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

- (1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。
- (2) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。
- (3) その他知事が適当と認めるとき。

(入館料の不還付)

第8条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することがある。

- (1) 第5条第1項第4号又は第5号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。
- (2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。
- (3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(損害賠償等)

第9条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

(博物館協議会)

第10条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第11条 この条例の実施に関し、第6条から第9条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表（第6条関係）

区 分	個 人	20人以上の団体
学生	140円	1人につき70円
一般	310円	1人につき140円

備考1 特別な資料を展示した場合において、その資料を観覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額（以下「特別入館料」という。）を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料（特別入館料を除く。）は、無料とする。

（2）博物館条例施行規則

昭和55年9月26日

規則第78号

（趣旨）

第1条 この規則は、博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（領収書）

第2条 条例第6条第1項に規定する入館料の領収書に

ついては、岩手県立博物館管理運営規則（昭和55年岩手県教育委員会規則第9号）第4条第2項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

（条例第7条の規則で定める者）

第3条 条例第7条第2号の規則で定める者は、次のとおりとする。

- (1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児）及びその介護を行う者
- (2) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児）と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者
- (3) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の介護を行う者
（入館料の免除及び還付）

第4条 条例第7条又は第8条の規定により入館料の免

除又は還付を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、別に定める様式による入館料免除（還付）申請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が別に定める場合にあつては、この限りではない。

- 2 知事は、前項の入館料免除（還付）申請書を受理したときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付することを適当と認めたときは、別に定める様式による入館料免除（還付）承認書を申請者に交付するものとする。

附 則（平成21年3月13日規則第7号）

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱いに関する規則及び美術館条例施行規則（以下「県立学校授業料等条例施行規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

（3）岩手県立博物館管理運営規則

昭和55年9月26日
教育委員会規則第9号

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手県立博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（休館日）

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- （1）月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の日であって当該休日に最も近い休日でない日）
- （2）資料整理日（資料の整理、点検等を行う9月1日から9月10日までの10日間をいう。）
- （3）12月29日から翌年1月3日まで

2 博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）第1条の2に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、必要があると認めるときは、博物館の館長（以下「博物館長」という。）の承認を得て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。

（開館時間）

第3条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館時間は、午後4時までとする。

2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変更することができる。

（入館許可の申請）

第4条 条例第2条第1項の規定による許可を受けようとする者は、指定管理者が定めるところにより申請しなければならない。

2 指定管理者は、条例第2条第1項の規定による許可をしたときは、指定管理者が別に定める入館券を交付するものとする。

（撮影、貸出等の許可）

第5条 条例第3条第1項の規定による許可を受けよう

とする者は、別に定める様式による資料撮影等許可（変更）申請書又は別に定める様式による資料貸出許可（変更）申請書を博物館長に提出しなければならない。

- 2 博物館長は、条例第3条第1項の規定による許可をしたときは、別に定める様式による資料撮影等許可書又は別に定める様式による資料貸出許可書を交付するものとする。
- 3 資料の貸出期間は、30日以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めるときは、その期間を延長することができる。
- 4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷し、又は亡失したときは、速やかに、別に定める様式による資料汚損（損傷、亡失）報告書を博物館長に提出し、その指示を受けなければならない。

（汚損等の届出）

第6条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

- 2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

（協議会の所掌）

第7条 条例第10条の規定による岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議するとともに、博物館長に対して意見を述べることができる。

- （1）資料の収集、保管、展示等に関すること。
- （2）資料の調査研究、利用等に関すること。
- （3）その他博物館の運営に関すること。

（会長）

第8条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第9条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（補則）

第10条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則（平成21年3月6日教育委員会規則第2号）

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続に関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる廃止前の岩手県教育委員会の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則（以下「岩手県教育職員免許状に関する規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書等については、なお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

平成 27 年度岩手県立博物館年報

平成 28 年 5 月 31 日

編 集： 岩 手 県 立 博 物 館

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34

Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214

発 行： 公益財団法人岩手県文化振興事業団

〒020-0023 盛岡市内丸 13-1

Tel 019-654-2235